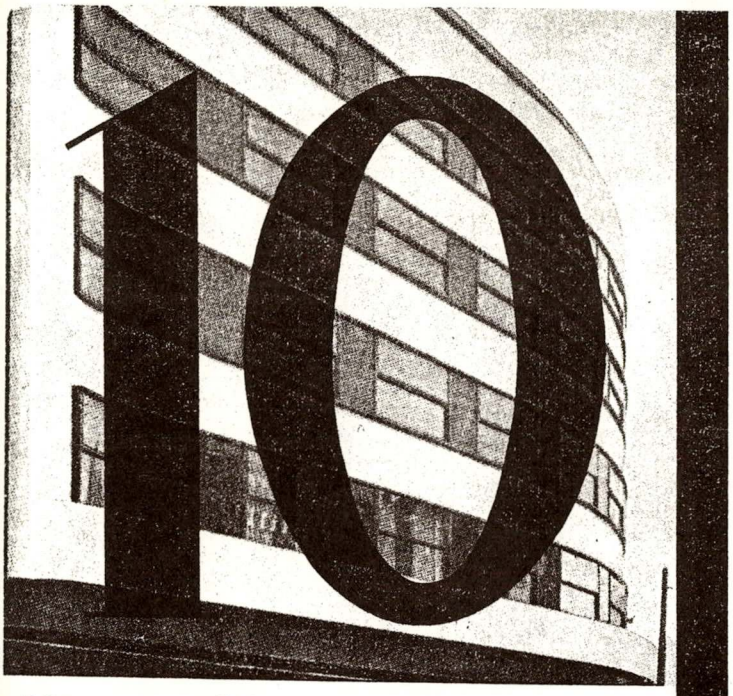
大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
昭和六年九月廿七日印刷納本
昭和六年十月一日發行（毎月一回一日發行）
（第拾四輯第十號）

建築と社會



特輯記事

小賣店．百貨店

第十四輯第十號
昭和六年十月一日
日本建築協會

改訂增補第三版發行!!!

學校建築圖集

本集は久しく絶版となつてゐたが其後各方面から續版の待望なり實注文なりが多數あつたので本會ではこれ等の要求に促されて少からざる犧牲を忍んでこゝに第三版を刊行した、本版は初版の內容に加ふるに左の諸學校の寫眞及設計圖を增補し學校建築の名實ともの豪華版とした。(定價は前通)

▲京都市立日彰小學校奉安庫 ▲京都市立龍池小學校奉安庫 ▲京都市立成德小學校 ▲京都市立明倫小學校 ▲大阪府立北野中學校 ▲京都市立京都第一商業學校 ▲帝塚山學院高等女學部 ▲岡山縣立清心高等女學校 ▲兵庫縣立神戸高等商業學校 ▲京都高等工藝學校

一般內容

◆本文……▲大阪市立集英小學校及同久寶小學校工事概要▲兵庫縣立神戸第二高等女學校工事概要▲大阪美術學校工事概要▲東京市立泰明小學校及同千代田小學校工事概要等々

◆圖案……▲大阪市立濟美第五小學校、同眞田山小學校、同三先小學校、同十三小學校、同鶴橋第五小學校、同鶴橋第六小學校、同古市小學校、同濟美第六小學校、同下福島小學校、同九條第一小學校、同東商業學校、同天王寺第二小學校、田邊第二小學校(大阪市建築課)▲大阪市立集英小學校、同久寶小學校(宗律築事務所)▲大阪府立天王寺中學校、同十三高等女學校(大阪府營繕課)▲大阪美術學校(伊藤正文氏)▲京都市立梅屋小學校、同龍池小學校、同柳池小學校、同修德小學校、同中立小學校(京都市營繕課)▲京都帝國大學醫學部病理學研究室、同帝國大學物理學教室(京都帝國大學營繕課)▲兵庫縣立第二神戸高等女學校(兵庫縣營繕課)▲關西學院(ヴォーリス建築事務所)▲東京市立泰明小學校、同千代田小學校、同常磐小學校同竹芝小學校、同明治第一、第二小學校、同京華小學校、同明正小學校(東京市建築課)▲東京帝國大學圖書館、同帝國大學大講堂、同帝國大學復興計畫鳥瞰圖、同法文經教室第一號館同法文經教室第二號館、同醫院耳鼻咽喉及整形外科病室、同藥學科教室、同工學部講堂及各教室、同工學部列品室、同物理學教室、同應用化學教室、(東京帝國大學營繕課)▲東京商科大學(文部省建築課)▲橫濱市立平樂小學校(橫濱市建築課)

體裁

版倍	四六
寫眞版	158
凸版	83
記事	14
總頁數	270

定價壹圓

郵稅拾八錢

堀佐土區西阪大
大同ビル720
電話土佐堀4265
振替口座大阪39975

社團法人 日本建築協會

『建築と社會』表紙圖案懸賞募集

本會發行の雜誌『建築と社會』昭和七年度用の表紙圖案を左記の規定によりまして懸賞募集致します

昭和六年十月

社團法人 日本建築協會

一、題號　『建築と社會　第十五輯　第　號　日本建築協會　昭和七年一月一日』と適當に配置し、『建築と社會』の題字は成るべく上部に左書きのこと

一、寸法　四六倍版（竪二六糎、横一九糎）

一、着色　二色（紙色の外）

一、圖面　原圖紙を用ひ現寸とす

一、意匠　隨意なるも本誌の特質を表現するに足るもの、但し他人の意匠を剽竊せるものと認めたるときは審査せず

一、賞金　入選　一人　賞金五拾圓
　　佳作　若干　賞金拾圓宛

一、締切　昭和六年十二月一日締切、但し郵送のものは當日の消印あるものに限り審査開始まで受付く

一、版權　入選圖案の版權は本會の所有とす、入選圖案は修正して用ふることあるべし

一、審査　審査は本會依囑の審査員と編輯當務之に當る、入選は合議に依つて決定す

一、暗號　圖面には暗號を附し、別用紙に暗號、住所及氏名を記入したるものを別封書として差出すこと

一、發表　『建築と社會』第十五輯第一號誌上にて發表す

一、圖案　應募圖案は一切返却せず

社團法人

日本建築協會々報

會合

常務會

時　九月十日午後六時 ―同七時十分
所　本協會事務室
出席者　理事　片岡　日高
　主記　小川陽　小川安　阪井
　主計　大原　德政
報告一、八月分會計報告
一、香里園住宅展に關し經過報告
一、生活改善健康住宅展に關し經過報告
議事一、九月例會に關する件
一、秋季大會に關する件
一、南京市立圖書館に會誌寄贈の可否
一、府立泉尾高女校より圖表借用の件
一、福岡縣建築業組合聯合會長より圖表借用の件
一、片岡會長より書籍寄贈の件
一、會員詮衡

住宅委員會第一、第二分科會

時　九月十四日午後五時三十分 ―同九時
所　旭堂四階
出席者　第一分科　富士岡　淺野　小山　小林　佐々木　中山　赤松　渡邊
　第二分科　酒井　岩尾　岩崎　中村
記事
第一分科
前回に引續き別記の通研究記錄をなし之にて一先づ研究を終り次回は最初より全部を再考査することに決す
第二分科
左記要項により氣象年表其他より調査研究を始む
1. 最多風向各月表　時間別
2. 最低氣温平均各月グラフ全國主要都市
3. 最大風速グラフ　右同
4. 温度　右同
5. 降雨量　右同
6. 特殊のもの
　A　地下凍結　B　積雪

法制委員會第一分科會

時　九月十五日午後五時三十分 ―同八時三十分
所　本協會事務室
出席者　鳥井　池田　佐藤正　椎原　吉田
記事一、鳥井主査より前回分科會に於て研究しつゝある事項を記錄により報告し夫れより研究に入る
一、工業地域の路線的商業地域に接する敷地にして該路線に適當なる通路を以て直接する時は其敷地は工業地域なりや商業地域なりやの件
右は先般六大都市の警察部長に照會したるも回答に接したるもの少なく再照會の上回答の集るを待つて研究することに決定す
一、乙種防火地區廢止に關する件
研究の參考資料として先般六大都市の警察部長に對し乙種耐火構造建築物調査に付照會したるも未だ全部の回答を得ず本件を催促狀を發し全部の回答を待つて研究することに決定

數化委員會

時　九月十六日午後五時三十分 ―同八時三十分
所　本協會事務室
出席者　小笠原　池田谷　姫野　岡本　岡田　木村　芝田　澁谷　藤枝
常務　阪井
記事一、小笠原委員長より當委員會に就ての感想及希望を述べ次て職工講習會に付意見の交換あり從來の講習方法を改革したき意見もありしが結局從前通とし講習科目に付協議し先づ左の通豫定したり
講習科目
曲尺の使用法
輸入木材の種類、性質及用法
最新防水工事
最近の人造石及人造塗
一當委員會定例會合日を左の通變更す
毎月　第三火曜日　正午

逝去



會員花岡才五郎氏昭和六年八月十五日逝去せらるる訃に哀悼に堪へず謹んで弔意を表す
氏は明治十一年三月山口縣下關市新地町三八に生れ明治三十五年東京工手學校造家科卒業、同年山陽鐵道株式會社建築課技手拜命明治四十年同社の政府に買收せられしにより鐵道局雇となり同年六月家事都合を以て辭す、明治四十年六月大阪市技手を拜命し大正六年四月大阪市技師に進み土木課營繕係主任となる
同年十月本協會に會員として入會
大正八年七月大阪市役所に營繕課新設せられ同課長心得を命ぜらる同年九月大阪市役所營繕課長に任命大正十三年二月依願免職務となり關事建築事務所を經營し今日に至る昭和六年八月十五日逝去享年五十四歲

轉勤轉居

會員

增山　新平君　住吉區阪南町西四丁目一五

加藤喜三郎君　住吉區粉濱中ノ町三ノ三龜甲內

須藤　隼人君　府下豐能郡豐中町新免二八五ノ三

綿谷　宏一君　浪速區鹽草町一一三五、

橋詰　直明君　住吉區晴明通一ノ八五

森上　浩行君　神戶市灘區大石一五

久田見治平君　此花區春日出町三三〇ノ一八

井俣　五一君　東成區片江町四〇七

會員（地方在住）

岡野　金作君　廣島市猿樂町五八清水組廣島出張所

須藤　眞金君　東京市下谷區上野櫻木町三四

宇都宮邦士君　大津市坂本町二一大林組大津出張所

鹽川　鐵藏君　金澤市下本多町一ノ二川崎方

濱田　雅安君（舊木津孝雄）德島縣撫養町南濱

藤井　令三君　廣島市猿樂町五八清水組廣島出張所

砂田　敏郎君　大連市播磨町八一

加納　眞一君　東京府入新井町新井第五

松浦松之助君　東京府大森不入斗二五三

特別賛助員

田中　勇君　府下中河內郡南高安村字黑谷九四四

普通賛助員

小林已之造君　橫濱市中區北方町小港四六

岡本豐次郎君　廣島市三條町楠木八三四

三條小學校清水組作業所　兵庫郡武庫郡瓦木村高木

井上　利男君　宇大苗代三八八

田原三千男君　北區堂島上三丁目二七湯淺方

清水　倉八君　大牟田市三井三池染料工業所構內三井鑛山三池工場大林組大牟田出張所

山菅喜美男君　名古屋市東區千種町大久手二三加藤方

近藤　正夫君　朝鮮京城府櫻井町二ノ一五一本山方

鶴田　勝君　神戶市林田區蓮宮通四ノ一四

賓力　榮六君　京都市左京區下鴨北園町八四

高戶　紀綱君　住吉區住吉町一七〇五

改名

八島　章君（舊　安太郎）

會員

花田　長市君　神戶市國香通五丁目五八（竹中工務店）

入退會

入會者

會員

田中　一君　東區高麗橋五ノ一〇日刊土木建築資料新聞社

退會者

會員

上田辰三君　同（地方在住）福永茂明君　岡田信一郎君　近藤十郎君

特賛　藤村理次君

普賛　田中清志君　岡本彰一君

寄贈雜誌

建築雜誌　每號　建築學會

日本建築士　每號　其　建築學會

建築世界　每號　其　建築學會

建築新潮　每號　洪洋社

建築學研究　每號　其　建築學會

建築畫報　每號　其　建築學會

住宅　每號　住宅改良會

インターナショナル建築　每號　其　會

滿洲建築協會雜誌　每號　其　協會

新建築　每號　其　新建築社

朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會

國際建築　每號　其　國際建築社

土木建築　每號　其　土木建築社

セメント工業　每號　其　セメント工業社

土木建築工事畫報　每號　其　土木建築工事畫報社

臺灣建築會誌　每號　其　臺灣建築會

都人　每號　其　都人社

土木建築工學　每號　東京工學社

東京工業會誌　每月　其　東京工業會

大阪工業俱樂部　每號　其　大阪工業俱樂部

家具指物新聞　每月　其　家具指物新聞社

白然科學と博物館　每月　東京科學博物館

日立機械評論　每號　其　日立機械評論社

日本土木建築時報　每號　其　日本土木建築時報社

建築業協會々報　每號　其　協會　建築業協會々報社

東京土木建築業組合報　其　組合　東京土木建築業組合報社

大阪土木建築業組合報　每號　其　組合　大阪土木建築業組合報社

庭園と風景　每號　日本庭園協會　庭園と風景社

日刊工業新聞　每號　其　日刊工業新聞社

東洋建材時報　每號　其　會　東洋建材時報社

名古屋工業會々報　每號　其　名古屋工業會々報社

木材新聞　每號　關西木材商報社　木材新聞社

工業評論　每號　其　工業評論社

工業要錄　每號　大阪工業會　其發行所　工業要錄社

大阪　每號　大阪都市協會　大阪都市問題

都市問題　每號　東京市政調査會　都市問題社

學士會月報　每號　學士會　學士會月報社

政　每號　其　政社

國立公園　每號　其　國立公園社

關西圖藝　每號　其　關西圖藝社

塗料　每號　日本ペイント株式會社　塗料社

塗工の魁　每號　其　塗工の魁社

鞣工　每號　其　鞣工會

電氣學會雜誌　每號　其　電氣學會雜誌社

電氣評論　每號　其　電氣評論社

帝國鐵道協會會報　每號　其　帝國鐵道協會會報社

朝鮮鐵道協會會誌　每號　其　協會　朝鮮鐵道協會會誌社

セメント界彙報　每　日本ポートランドセメント同業會　セメント界彙報社

エンヂニヤリング　每號　其　エンヂニヤリング社

經濟資料　每號　東亞經濟調査局　經濟資料社

通俗衛生　每號　大阪府衛生會　通俗衛生社

產業　每號　其　會　產業社

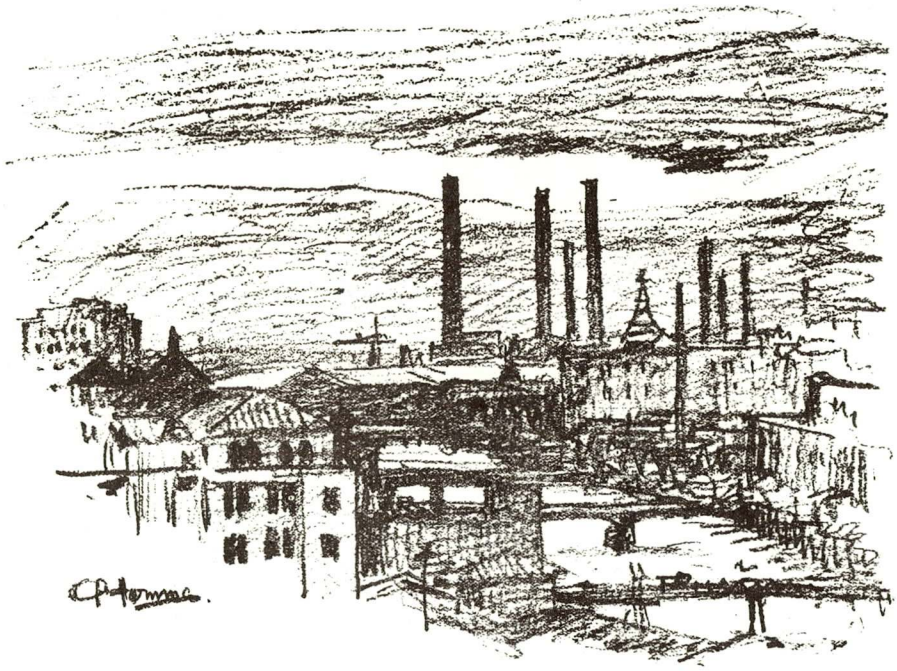
日本美術協會報告　每號　其　日本美術協會報告社

役員

會長　理事　評議員　片岡安
副會長　理事　評議員　古宇田實
副會長　理事　評議員　日高胖
監事　波江悌夫
監事　光安梶之助

常務（主記）評議員　小川陽吉
常務（主記）評議員　小川安一郎
常務（主記）評議員　阪井米吉
常務（主記）評議員　松本儀八
常務（主記）評議員　森本藤吉
常務（主計）評議員　大原芳知
常務（主計）評議員　岡部顯則
常務（主計）評議員　德政侖吾
常務（編輯）評議員　小西一良
常務（編輯）評議員　高橋榮治
常務（編輯）評議員　本間乙彥
常務（編輯）評議員　村野藤吾

評議員　池田實　評議員　伊東宗太郎
評議員　岩尾保術　評議員　小笠原錦
評議員　岡本新次郎　評議員　加藤誠二
評議員　籠田定憲　評議員　木村寛一
評議員　久保田筆雄　評議員　小寺彌一
評議員　酒井勇三郎　評議員　白石登喜男
評議員　芝田知重　評議員　篠原太郎
評議員　須川廉太郎　評議員　須藤隼人
評議員　武田經一　評議員　高田利一郎
評議員　永田三次郎　評議員　原科準平
評議員　前内文二郎　評議員　三木來三
評議員　村上徹一　評議員　八木幸次郎
評議員　山田阪平　評議員　山田初次
評議員　山中茂一　評議員　渡部圭吾



煙突の林立した風景

小賣店百貨店と社會建築

昭和六年十月發行　第十輯第四十號

目次

卷頭挿畫・煙突の林立した風景……（一）
我國百貨店建築の特異性……中村傳治…（三）
百貨店建築の外觀と內部……黑田鵬心…（六）
百貨店カールシユタットの新建築……石川純一郎…（八）
ドイツの百貨店……藏田周忠…（一三）
百貨店建築に就いて……毛利泰三…（一六）
百貨店の建築……里見純吉…（一九）
百貨店の平面計劃に就いて……絹川豐重…（二二）
百貨店の設計……木水榮太郎…（二五）
商店街と商店建築……吉田享二…（二七）
歐米の店小觀……津田鑿…（二九）
陳列窓の反映現象に就いて……野地修左…（三二）
商店と廣告……星廣文…（三五）
改築でモダーンとなつた商店の例……宮飼克二…（四一）
新刊紹介……（四三）
吉祥山正傳寺…（下）……天沼俊一（特附二六）
國際新建築集……（附五一）
京阪神新建築集……（附四七）
「建築と社會」表紙圖案懸賞募集規定……（會告）

我國百貨店建築の特異性

中村傳治

我國の百貨店は明治三十八年三越呉服店の專務、故日比翁助氏が店内を此の組織に改めたを以て濫觴とする。爾來各大呉服店は何れも競つて組織を百貨店に改め、關東大震災の時までは順調に徐々と發展の歩を進めたが、突如として起つた此災厄に帝都の百貨店は全滅して其影を潜めた。併し帝都の復興と共に百貨店も以前に增した勢を以て擡頭し、最近の數年間は實に各百貨店の競爭白熱狀態となり、大都市の中心に、將た郊外に進んで全國大小都市の盤面に互に烏驚を戰はすが如く、各店とりどりに其智嚢を傾倒して優勝の地を獲得し、其賣場の面積を增大するに日も尙足らざるが如き觀がある。誠に不況の財界に於ける珍現象であるが、一方小賣小商店の打撃は其の極に達し正に死線の上に立ちて今後如何なる方面に其活路を見出さんかの問題に懊惱しつゝあるのが今日の現狀である。

◇

百貨店間の競爭に伴ひ、百貨店の建築も異常の發展をなし、其構造に、其設備に歐米先進國の夫れを手本として、我れに取入れ得る限り微に入り細に渉りて歐米の百貨店を研究し、之を我國情に鑑みて咀嚼消化せん事に努力して居る。實に今後の百貨店建築は我國に於ける住宅建築、社會的施設建築と相列んで建築界の重要なる位置を領有するに至るべき事を想像するものである。

今日迄の我國の百貨店建築は小規模ながら大體に於て歐洲のものよりも米國の夫れを模したるものである事は否む事が出來ない。然し我國の百貨店建築は歐米の夫れとは國情の異る爲め、直ちに彼れの移植、飜譯では許されない。其内容に於て大に彼等と趣を異にする事を忘れてはならない。

◇

我國の百貨店建築が歐米の夫れと大に趣を異にする點は店舗が一の行樂機關になつて居る事である。購買慾を滿す事が特に婦人の慾望の一である事は内外を通じて異りはないであらうが、我國の百貨店は年中一日の欠くる事なく催物づくめである。展覽會、博覽會演藝會と各店競つて之に沒頭し、老若男女、嬰兒を負へる女中を從へ、三四の小供の手を引きつゝ或は食堂に、或は屋上園にと一日の行樂を此店内に果すものが尠少でない。是は各店が先を爭つて客の牽引策に努力する事に因るのであるが、客の接待設備を超越して客の行樂設備に變じて居るの實狀である。外國の百貨店に見る如く買物のみを目的とするのとは大きな差異がある。一般の小賣店の企及し得ない常設行樂機關のある事は小賣店にとりては實に一大脅威であり、一般民衆も之を知悉して最も經濟的に一日の行樂を恣にするを得るは百貨店なりとの印象が充分行き亙つて居るの狀態である。此事は一般民衆の爲に一種のサービスとなる事故寧ろ大に奬勵すべき事かも知れないが、眞に品物を買ふ事を目的とする場合、店内の雜閙、通路の狹少を感ぜしめて、眞の購買客にとりては寧ろなくもがなのものであらう。買物專門の顧客より見れば購買に疲れたる頭腦を醫するに足る落付いた休憩室やパーラーの設備あり、輕いレフレツシメントを取るに足る瀟洒なる食堂位あれば充分である。外國の百貨店は此意味に於ける慰安設備として豪奢を極めたパーラーや、

ゆつくり手紙でも書く事の出來る様な靜かな休憩室の設備に廣濶なる面積を割いて居り、食堂は單に晝食の爲め客の外出する事を喰止める意味で營利を目的とせずしてサービスの意味に設けられたものである。催物としては紐育のワナメーカーの奏樂室やフイラデルフイヤの同店に於ける世界最大のパイプオルガンの如きものもあるが之は寧ろ特殊の部に屬する。一般としては外國のは行樂設備でなくサービスである、強いて言へば慰安設備の程度である。我國の如く之を超越したものは多くない。此點が歐米の百貨店と大に趣を異にする事であるが、今後幾年かの後には斯る競爭商略が一先づ終了して、眞の顧客の購買を本位とする時代に立戻る時機の到達する事にならねばならぬと思ふのである。

◇

次に私は現在の我國の百貨店の建築が我國情に因して外國の夫れと趣を異にする點二三を列記して見たいと思ふ、語を換へて言へば我國百貨店建築の惱みとでも言ふ事を。

吾人の百貨店建築に最も苦しむのは床の構造である。我國の百貨店は最初は皆下足をとつたものである。即店内は大抵は疊莫蓙敷であつた。此場合莫蓙の取換が年二回位あり、大店舗では其費用のみに年一二萬圓を要したとの當時の悲鳴を聞いた事がある。之が關東大震災後帝都ではバラツクにて營業を開始し、客は土足で出入する事、從來の覩工場其儘になつた。屋外の道路は鋪裝なく泥下駄で入り來るので商品の汚損は甚しく、店員は皆災前の疊敷を夢みて之に憧れて居た。併し一方此下足の設備は此種の店舗にとりては著しき惱みの問題であつたのである。靴穿には一々カバーを掛け、下駄傘は之を預つて出口に運搬するなど或はベルトコンベヤーなどを應用したが一日數萬の入場者をして寸時を待つ事なく之を處理する事は實に不可能なりとの結論に達して居たのである。此時大震災の襲來あり、建築の中途に此災に遇へる東京銀座の松屋では開店に際し、店内をリノリユーム敷として下足式を以て之に臨んだが、殺到する來客の爲めに下足の處理を果す事を得ず、遂に土足の儘店内に入るゝのやむなきに至つた爲め、遂に下足式を斷念して土足式に改めたのが今日の魁をなしたものである。併し之に依つて入場者に對する設備の煩瑣を免かれ、下足時代の三四倍の入場者を得るに到り大に愁眉を開いたのである。尋で三越の復興建築落成に際し松屋に鑑み斷然土足式を採用したるを動機として、東京のみならず大阪其他の百貨店も皆一齊に之に倣つて土足式に改め、今日は百貨店に下足を取るものは蓋し見る事が出來なくなつた。品物の損傷も賣れ方が早いので思つた程でない。さてこうなると店内の床構造は我國獨特の困難のものになつたのである。米國邊の百貨店は殆んど凡てと言つてよいが、一階は白色の大理石貼り、地下室はテラゾウ床、二三階は大抵婦人の服飾品部で上等なのは絨氈敷、上階の雜貨部は大抵木造床張りと相場が極まつて居るが、之は靴穿きには適するも、我國の下駄穿客に對する構造でない。下駄に對する床構造は實に今尙完全なる解決を得ない我國獨特の惱の一である。百貨店の一日の入場人員は歲末の日曜日の如きは一日十五萬人にも及ぶ事があり、平日でも二三萬は普通である。小規模の博覽會の如き到底及ぶ所でない。此中下駄穿のもの亦相當の數に上るので、彼の高下駄の如き二枚の薄板に十貫以上の重量を負はせるのであるから其の床に對する破壞力は非常なものである。殊に床は彈力性に富める足ざわりの良き事、滑らざる事、音響を發せざる事、摩滅せざる事、掃除の容易なる事を必須條件とし、加ふるに價格の低廉、修繕の容易なる事を必要とするのであるから、今日迄試みられたリノリウム、フローリングブロツク、木製床、ゴム敷、大理石敷、タイル敷の類何れも滿足なる結果を得られない。其摩滅の甚しき一例を言へばフローリングブロツクの如きは木片の裏側から締緩した波釘が木厚の半分位あるのに、表面から波釘が見える迄に摩滅されて居る物は少くない。ゴム貼の如きは下貼と肌別れがし階段の如きは花崗石の如きすらも摩滅を免かれない。今後之等の諸條件を具備する材料の出現を鶴首して待つ所以である。此點は歐米

の夫れとは企及し得ざる程の困難がある。殊に帝都の如きは道路の鋪裝大體終了したるも、小都市に於ける泥汚の道路に雨多き國情と伴つて、床の構造問題は我國百貨店建築の隨一の惱みである。

◇

次の惱みは陳列臺の配置である。等しく名は百貨店でも我國のは所謂二重生活が累をなして百貨の部門が外國の夫れに倍して夥しき數に上るのである。而かも我國の百貨店は所謂マーケット式の日用品より高價なる貴金屬、服飾品に至る迄之を取揃えるので、外國の如き所謂デパート物と稱する或種の階級の品物のみに限らず、萬般の品物を網羅するのであるから其品目の數は實に想像し得ない程夥しい。加ふるに價格が各店競爭の結果、外國のに比して著しく低廉で實に薄利多賣主義を採り、僅に資本の回轉數を多くして相當の利潤を得んと努力して居るのであるから、勢ひ狹少なる店舖に多數の商品を陳列するの要がある。從つて陳列臺の配置が複雜を極めて歐米の夫れの如き廣濶なる通路を取る事が出來ない。加ふるに各店競爭の結果賣場の位置の變更など頻々として起るのであるから、之が陳列臺の固定的設計を許されない。此事は暖房、通風、其他機械設備の配置に對し吾人建築家は外國に見られない困難がある事を感ずるものである。

◇

米國の百貨店と我國の夫れと特に大に趣を異にする事は階段である。客用交通機關として昇降機、エスカレター等種々の設備ある事は彼れの夫れと異る所はないが、階段の點卿か其趣を異にする。米國の如きは階段は單に非常用としての存在であり、僅に一階の上階に昇るのですら昇降機に依りて階段を昇降しないのが彼の習慣であるが我國情では未だ其域に達しない。階段は上下の交通機關として可なりの重要性を帶び、加ふるに各種の催物などに殺到せる來客の悠々之によつて昇降するのであるから勢ひ巾廣き階段を要所に設くる必要がある。從て店內賣場の面積を蠶食さる事、彼に比し多大なるは今の處止むを得ない問題である。此點は歐洲の百貨店と先づ同樣であらう。

◇

次には危險防止の問題である。我が百貨店が一面民衆の行樂機關になつて居る關係上老若男女の殺到は止むなき事であり、從つて之等の危險防止の點に細心の注意を要する事は實に想像以上である。階段の手摺の如き特に高き欄を要する事や、屋上は元より側窓の凡てに對して客の潛り出づる事能はざる樣な防止金物を附する事や子供が手摺の上を跨りて辷る事を防止する設備など枚擧に遑がない。特に我服裝の關係上大便器內に草履、髮飾品などを落し、時には子供の襁褓を捨つる事など蓋し尠少でないから、汚水管の徑を大にする事の注意など、外人の思ひ寄らざる面倒がある。

食堂は一家團欒式行樂氣分の川途に充つる爲め食物の凡ての品目を用意するの要あり。殊に和、洋、支の三國に對するものを備へるのであるから其食品目の類は彼等外國の夫れとは雲泥の差がある。從て其食器の種類多種多樣にして、之が洗淨其他の取扱に複雜煩瑣を極むる事は甚しく、厨房內の給水給湯設備を完全にする事は實に容易の業でない。

◇

以上主要なるものに對し彼我對比して百貨店建築の異同を略述したが、我國の百貨店建築の困難なる事は大體想像し得る事と思ふ。併し之は我百貨店の進展の過程であり、追つて我生活樣式の單一化するに從ひ、又無謀なる百貨店競爭の終了に依つて、漸次眞に買物本位の百貨店の域に達する事であらう。吾人は其日の一日も早く來らん事を望むものである。(終)

百貨店建築の外觀と內部

黑田鵬心

百貨店の建築は、概して大建築となるので、都市の美觀には重要な役目を持つ。其位置も多數の顧客を吸收せんとするところから常に都市の中央に近く、最も賑やかな場所に建てられることが多いので、一層都市美に役立つのである。

◇

これを巴里、倫敦、伯林、東京大阪に徵しても、巴里のブランタン、ラファエット、ルーヴル、倫敦のセルフリッジ、伯林のウエルトハイム、東京の三越、白木屋、松屋、松坂屋、高島屋、大阪の三越、大丸、高島屋、白木屋等皆其都市の中央に近く、繁華の街路に何れも五階から八階、廣さ數千坪の大建築である。

◇

しかしこれら內外の百貨店建築が、すべて都市の美觀にどれ丈け役立つてゐるか、大きいからと云つて必しも美觀を增すとは云へない。若し醜い建築だつたならば、却つて都市美を減ずることになる。しかもさう云ふ場合には大きければ大きい程、醜の分量が增し都市美を多く損ずる事になるのである。これは百貨店建築に限らず、大建築に共通の點である。

◇

尤も百貨店は概して繁華の街路に建てられるので、特に獨立して建てられる場合は鮮く、從つて建築群として都市美に役立つことが多いのである。勿論大きいために街路の角を占めるのは當然で、一ブロックの半分乃至全部を占め、角が二つとも大通に接してゐる事は寧ろ普通である。東京の三越、白木屋、松屋、松坂屋、或は建築中の高島屋など皆さうである。

◇

一つの建築で、其の二つの角を大通に接すると云ふことは、建築の美を高めるのに最も都合のよいことである。設計者は設計の仕甲斐がそれ丈け多いし、街路の建築美もそれによつて高めることが出來る。

◇

百貨店建築が近世の發達に係るものであることは、百貨店の發達が新しいので當然である。歐米で發達したのは十九世紀の後半からであるが、既に其全盛時代は過ぎたやうに思はれる。而して其建築樣式は未だ二十世紀の新樣式が現はれない以前なので多くはルネッサンス式であつた。

◇

我が國の百貨店は、それよりも遲れて二十世紀になつて大發達を遂げた。東京の三越が電車通の所謂東館を五階建に新築したのが、大正三年（一九一四）で、西館を增築したのが大正十年である。而して他の百貨店は皆その後の新築であるが、殆んどすべてルネッサンス式である。

◇

百貨店の性質としてクラシックは嚴めし過ぎるし、ローマネスクやゴッシクも堅すぎる。どうしても過去の樣式としてはルネッサンスに落付く外はないのである。日本の百貨店だからと云つて日本風を加味する事は考へられない事はないが、街路建築としてはそれも面白くない。震災前の白木屋が日本風を加へたものであつたが褐的であつた。唯桃山式の休憩室だけがよく出來て居つた。今でも茶室を持つてゐるものはあるが、純日本風の接待室は、外客饗應の場合には面白いと思ふ。

◇

話が外觀から內部へ入つて來たが、百貨店の貴賓室乃至休憩室などには、ゴシックとかルネとかネールド・イングリッシュなども氣分を變へて面白く、而してその中の一つに日本風の細部を使ふのは望ましいことである。近頃東京三越本店の三階東北隅に出來た休憩室は可なり新しい細部を用ひてゐ

る。外觀に比しては多少突飛の感がないでもないが、清新の感じは與へる。

◇

外觀に於て新しい樣式を採つたのは東京の白木屋である。石本喜久治氏の設計で、昭和三年（一九二八）の新築で、其增築は今秋竣工せんとしてゐる。東京朝日新聞社についでの石本氏の作であるが全體として朝日の方が優れてゐるやうである。白木屋の方は細い技巧を弄し過ぎてゐるやうに思ふ。

◇

兎に角白木屋は百貨店建築として最新のものである。巴里のギャラリー・ラファエツトも可なり新しい細部を用ひてゐるが、白木屋ほど徹底して新しくはない。同じ巴里のブランタンの婦人用品店も火災後の新築で非常に美しいが、ルネツサンスである。

◇

常に新しい流行品を賣らんとする百貨店が、其建築に新しい樣式をとるのは、寧ろ當然のことであるが、概して窓の大きい、玻璃の分量を多く用ひた建築は、太陽光線を多分にとり入れる點はよいがあまり直接光線が入るために商品を損ふ處がある。現に白木屋なども日が當つて困つてゐるやうである。

◇

北米の百貨店には二十階位のものもある、有名な費府のワナメーカー、紐育のギムベルなどは十一階位である。歐洲のは六七階位で日本のと同じ位である。新しい樣式の物は伯林のカールスタツト、北米デトロイドのハドソンス、同じくロスアンゼルスのブロツクなどである。巴里のは婦人用品店と男子用品店とが別棟になつてゐるので一つの棟は餘り大きくない。

◇

百貨店は外國でも比較的短年月に大發達を遂げたが、日本ではそれにも增して短時間に異常な發展をなしたので、店舖の新築、增築がどし〳〵行はれたが、新築の場合は問題はないが、增築の場合は外觀內部とも隨分困る事が多い。外觀では建築全體の統一がとれずよいコムポジシヨンも增築の爲めに破れて了ふやうなことがある。

◇

東京の白木屋のやうに、最初から今回の增築を豫定して、否最初は半分建てゝ、後に半分を建て完全に一つのものにすると云ふのなら問題はないが、東京三越の震災前の東館、西館の如き、又現に南に增築中のものの如き、外觀の統一上には困る。始めの東館には南方よりに塔があつて、これは日比氏の理想では、この塔が中央になるつもりであると稱されたが、震災後これをとり去つた。西館の高塔は震災前の增築に作られ現在其儘あるが、南館が增築されると、北に偏在する事になる。

◇

內部に於ても增築は白木屋のやうに豫定した場合の外は不便があり、震災前の東京三越のやうに東西館を渡廊でつゞるといふやうなことさへ起る。現在でも大阪三越の東西館の聯絡には不便の點がある。

◇

百貨店の內部で、最も重要なのは商品の陳列場（賣場）であるが、通路が中々重大問題である。百貨店の內部は一種の公道のやうなもので、誰れでも通りぬけが出來、しかも一日數萬の人が出入するので通路としても最も繁華なもの、例へば東京の銀座、淺草、大阪の道頓堀、心齋橋筋と云つた樣なものであるから、その通路の安全、便利といふ事が重要である。

◇

平面の通路は、陳列棚や陳列臺の置き具合でどうでもなり、建築の本體には關係ないが、上下の通路、即ち階段とエレヴエーター、エスカレーターの配置は百貨店の建築上內部に於ては最も重要な點である。しかもこれはあとで變更の出來ないことである。

◇

エスカレーターは、これを利用する人間の量から見て最も少いと思ふし、必要缺くべからざるものではないが、階段とエレヴエーターとは最も重要であつて、建築設計のプランとしても根本的のものである。

◇

大阪の高島屋位の小じんまりした百貨店である場合には、中央入口の突當りにエレヴエーターを置きその左右を中央階段とし、左右に階段を設けると云ふやうな定法的の明瞭な設計が出來、外に方法

もない位であるが、もつと大きくなり、複雜して、入口も三方四方につくと、階段とエレヴエーターを最もよい位置につけるには大いに苦心を要する。

◇

設計の根本方針としては、何れもわかりやすい所に、比較的簡單につけるべきであらう。それが即ち便利といふ點からもよいに違ひない。階段やエレヴエーターを探すやうでは困る。尤もこれはケースの置き方や商品の陳列法にも關係がある。階段やエレヴエーターをケースや商品で遮るやうな陳列法はよくない。一般に陳列法は遠く迄見透しのきく方がよいと思ふが、殊に階段の近くやエレヴエーターの近所は注意すべきである。

◇

巴里のプランタンの婦人用品店だつたと思ふが、エレヴエーターの四方がガラスで、上りながら店の內部がよく見えるのがあつた。これは日本では例がないやうであるが、店の中央部のエレヴエーターとしては面白いやり方であると思ふ。

◇

百貨店の內部裝飾は、田舍者や子供を喜ばす爲めに可なり美しく飾つたものが現在多いが、それは漸次簡素にしてよいのではあるまいか。休憩室には前に述べたやうに各種の樣式を見本的に造つて趣を變へるのもよいが、其他の場所はたとへ入口の如きでも簡素にしてゆきたい。さうして新しい傾向でゆきたいと思ふ。

◇

百貨店相互の競爭上、また各店が特色を出すといふ事は、營業上免れないので、それが爲め外觀、內部とも甲乙丙丁戊各店各樣式、裝飾を變へる事は或る程度まで止むを得ないと思ふが、徒らに田舍者や子供を驚すやうな裝飾は不贊成である。

◇

百貨店の食堂は近代生活には離れられないものである。買物をあまりしないでも、食堂へ丈けは入る人が多い。そこで食堂の位置、裝飾等は大に考ふべきである。殊に裝飾、食卓、椅子などには注意を要する。

◇

下足問題は震災後全く片附いたが、配達品受附所、買物渡所、預品渡所、便所等も客に對しては輕視出來ない。殊に便所の位置は重要である。私は巴里のプランタンかラファエツトで大いに探した經驗がある。

◇

猶百貨店として客の見えない所即ち店員の食堂、休憩所、仕入場其他の事務室等も店員の保健、百貨店の能率をあげる爲めには重要な所である。殊に仕入場、仕入から賣場に出す通路などは最も注意すべき點である。

◇

兎角設計が來客本位となり、客に見えないところは後廻しとなるものであるが、今後の百貨店は、普通の住宅に於て臺所や寢室が重要なやうに仕入場や店員食堂等を重要視せねばならぬ。

◇

最後に、通風、暖房、冷却等の機械的裝置も無論重要である。近頃は新宿の三越の如く地下三階の例もあり、地下二階は普通事となつた以上、機械的裝置をする場所の問題は比較的容易に解決出來ると思ふ。

（九月十二日於大阪）

百貨店カールシユタツトの新建築

石川純一郎

三越、高島屋、大丸、十合、を大阪の四大百貨店だといふ人がある。

三越、松屋、松阪屋、白木屋、を東京の四大百貨店だといふ人がある。

同樣に、ウエルトハイムと、テイーツと、カデウエと、カールシ

ユタツトとを、ベルリンの四大百貨店だといふ人がある。

その中、ウエルトハイムと云へば、誰でも、直ぐ、ライプチーガー・ストラツセ街に立つてゐるアルフレツド・メツサーの設計した建築を想起して、——これは、あまりによく屢々、雜誌の口繪や、プレートで、日本に紹介され過ぎてゐるから——かの近代精神の吹込まれたゴシツクの細部を眼前に彷彿せしむるに違ひない。

また、ウエルトハイムは、ベルリンの百貨店中でも、商品の高級な點で、賣場の廣い點で、等々で先づ他を壓してゐるであらう。

從つて、ベルリンの百貨店を語るならば、先づ、ウエルトハイムを語らなければならないかも知れない。

しかし、私はこゝで、他の店よりも、品位に於て、場所柄に於て等々に於て、見劣りのするカールシュタツトに就て、敢えて、書いて見やうとする。

◇

その理由は、カールシュタツトが、ベルリンの百貨店の中で、最も近く、即ち一昨年に出來上つた建築であること、その建築型式が最も新らしく、兎に角、內外とも『今日の型式』で統制されてゐること、又その經營の方針に於て、ベルリンに於ては最も斬新なものを、劃時代的のものをさへ持つてゐること、等々である。

この經營上の斬新性とは、何であるかと云へば、他の百貨店が、依然として獨逸式な經營法を離脫し得ずにゐる中に、カールシュタツトだけが、こゝにアメリカ式のそれを採つたことだ、と一言にして云ひ得るのであるが、具體的に二三の例を擧げるならば、地下室に賣場を設けたといふことに於て獨逸の他の百貨店に先鞭をつけてゐるし、金錢登錄の方法に、ナシヨナル金錢登錄制の採用を斷行して、顧客の手數を甚しくはぶいた。

◇

或ひは、煖冷房、昇降機等に最新の施設を施し、或ひは、屋上庭園に花卉を植え、音樂を奏して休息所とし、或ひは、第二地階內部にカールシュタツト・ステーションなる地下鐵廣間を設け、地下鐵と直接の聯絡をとるなど、斷然たる新味を隨所に見せて、こふいふ方面に於て、他の百貨店をリードしてゐると見ていゝ。殊に金錢登錄方法の改善は、日本に於ては、さして珍らしからぬことかも知れないが、ベルリンに於ては、顧客は少なからぬ便益を受けるものと考へられる。

今日迄の百貨店といふものに於ては、客が一個の品物を買ふにはその目的の品物の賣場に於て、そこの賣子に作つて貰つた傳票を、客は、その賣場より相當距離のある金錢收納部迄提出し、相當金額の支拂をして受領印を押捺して貰ひ、押捺濟の傳票を更に買上品渡場に提出して、初めて、買入れた品物を手に入れることが出來るのである。

その買入れた品物を、その賣場から買上品渡場迄運ぶのは、その賣場の賣子の仕事である。しかもその傳票は、一一複寫紙を挾んで、賣子が手で書き上げるのである。

◇

こういふ方法を一般に採つてゐる間に、カールシュタツトは、賣場のカウンターを越して、目的の品物と金錢とを交換して、これを金錢登錄器に直ちに登錄して置くといふ方法を採つた。

これによつて、顧客は、賣場から金錢收納部へ、金錢收納部から買上品渡場へといふ徑路を步む必要がなくなつて了つた。

兎に角『販賣に對する効果條件は、賣場の合目的的なとである。』とするこの百貨店の設立者ヘルマン・シエーンドルフの意見は、この新建築に遺憾なく具現せられてゐる。

この建築の位置してゐるところは、ベルリンの東南部ノイケルン區のヘルマン・プラツツ廣場であつて、ベルリンとしては、商業の中心から稍離れたと見ていゝ地點である。

もとヘルマン・プラツツに南接した小公園があつたのが、閉鎖されて、永い間、その狹い場所に『パンケーキの店』だの、『射的屋』だの、『神經の無い男』や『第七感覺を持つた女』の見世物などが所狹しと立ちふさがつて、二臺のバスさへ辛じて行交へた位の、日本でもよく見る、場末風景であつた。

◇

それが今日では、ベルリン屈指の新らしく、大きく、且つ高い建築物であるカールシュタツトの店が出來て、周圍は全く一變して了つた。如何してカールシュタツトが、こんな所に場所を選擇したかといふと、『地價は、百貨店經濟に決定的なものを持つてゐる』といふ見地からで、結局市の中央部に比して、地價が安いといふことからである。

事實カールシュタツトは、市の主要商店街のそれに比して、約六分の一の地價で、この建築の爲めに一二五〇〇平方米の土地を手に入れてゐる。

その上百貨店の經營上最も必要な商品貯藏場と駐車場とを、この同一ノイケルン區内に持つた。

商品貯藏場は、軌道の接續があつて二四〇〇〇平方米、駐車場は約七〇〇〇平方米である。この建築は、平面及び總ての建築的工學的細目に亘つて、フイリップ・シエツフエルをチーフ・アーキテクトとしてゐる此會社の建築課で、計劃立案されたものであるが、個々の設計は、建築家グルト・ギンターによつてなされ、クルト・ゼンメラートの嚴密な監督の許に、ウヰーマー・ウント・トラハテ會社等の施工によつて、十六ケ月の日子を費し、一九二九年の冬完成された。

敷地はヘルマン・プラツツに正面し、兩側を、ハイゼンハイデと、ウルバン・ストラツセとの二つの道路に接した一二五〇〇平方米の面積のもので、これに建坪八二〇〇平方米の建築が立つてゐる。

階數は、地下二階、地上七階、屋上に四階建の塔屋二基、その上に夫々硝子張の光柱が立てられてゐる。

◇

その各々の高さを擧げると、地下は第二地階床迄六・八米、地上は軒高三一・二一米、塔屋二四米、光柱一五米、合計七〇・二一米で、ベルリンに於ける高層建築の一つである。

この占める容積は、三四〇〇〇立方米、延坪にして七二〇〇〇平方米となり、又階高は次の様になつてゐる。

第二地階	三・三五米
第一地階	三・四五
第一階	四・九〇
第二階	四・四〇
第三階	四・二〇
第四階	四・三〇
第五階	四・三四
第六階	五・〇二
第七階	三・九五
第八階（屋上上屋）	四・〇〇

街路に接する壁面の延長は二五六米、内一三八米が正面でヘルマン・プラツツに面してゐる。

◇

構造は殆んど全部鐵筋コンクリート造で、外部の型式には、全面に細い柱型を並列して、垂直線を强調するといふ技巧を用ひ、この壁面全部を獨逸に於ける最も高級な建築石材ムツシエルカルクを以て極めて平淡に化粧した。自然色彩に於て、感觸に於て可なり素朴簡明なものとなつてゐる。

第二地階には地下鐵が入つて來てゐて、そこにテラツコツタ貼のカールシュタツト驛がある。この驛からは、直接に、南北線とNG線との兩地下線への入口があつてこの一隅には、クイツク・ランチや新聞、菓子、花卉、煙草の賣場がある。

◇

このカールシュタツト驛は、ヘルマン・プラツツ廣場の交通問題を、完全に解決してゐるもので、カールシュタツトだけでも、出勤時間には、約十五分間に、四千人以上の使用人が、全然道路に無關係に舘内に入り得るし、一般の客も大部分、この驛を利用してゐると云つていゝ。

こゝからはエスカレーターで、直ちに第一地階に達せられる。

第二地階のこの他の部分は、設備用の機械電氣室及び商品倉庫に充てられてゐて、十七臺のボイラーと、三臺のアンモニヤ・コンプレツサーとは、こゝの王者となつてゐる。第一地階には、賣場の他に、婦人用のバス、美粧室、男子用のバス、理髮室、小兒用の美粧室等が設けられてゐる。

この階の賣場の特色は、前に云つた金錢登錄器の使用で、その他の賣場でも、殊に第六階の食糧品賣場では、更に大規模に、この制度を採用してゐる。

◇

第一階は、正面と兩側の道路面に廣い入口を設け、内部には正面に十二臺、正面左右に三臺宛、正面入口に近く左右に三臺宛、合計二十四臺の昇降機と、中央左右に二個宛並列したエスカーター二ケ所四個、及び適當に配置された階段とを持つてゐる。

こゝで上下の聯絡機關を擧げて見ると、次の通りになる。

人用昇降機	二四
荷物用昇降機	八
食物用昇降機	一三
自動車用	一
エスカレーター	二四
階段	一二

この建物には三個の六階迄吹抜きの光庭があつて、その廣さは、四七五平方米のもの一個、二三〇平方米のもの二個であるが、どれも上部にガラス屋根とガラス天井とを持つてゐて、その周圍は大理石で化粧された二十一米の柱によつて圍繞されてゐる。この光庭内へは、上部に設けた送風機によつて絶えず新鮮な空氣を送り込んでゐる。

この階は、既製衣裳の陳列や婦人服飾の賣場になつてゐる他、婦人小兒の美粧室や、男子の理髪室があつて地階のものと聯絡をとつてゐる。

こゝの美粧室、理髪室を特色づけてゐるものは、注意に値する消毒室の設備と、料金の驚くべき精細な分類とであらう。

◇

第二三四五階の賣場は綠色のアイヘンホルツの化粧であるが、第三階には八百人を容れ得る喫茶休憩室があつて、壁や柱は、赤いパズークホルツの化粧、五時のお茶の時間には奏樂がある。

第四階にも亦食堂があつて、六百人を容れられ、褐色のチトローネンホルツの仕上になつてゐる。こゝでは、温風冷風によつて、煖冷房換氣を行ふと同時に、隣接する厨房を通して食堂の空氣を排出することによつて臭氣の問題を解決してゐる。

第六階食糧品賣場は、大理石とタイルの清潔な仕上で、陳列棚は冷却され、室内には、新鮮な空氣が送り込まれてゐる。

この階の特色は、ナショナル金錢登錄制を採用してゐる爲め、買物の主婦達の時間を節し得ることゝ、その一隅にランチコーナーがあつて、そこに賣つてゐるものの試食が出來ることとであらう。

◇

第七階は事務室で、經營、宣傳、裝飾等の中樞機關であつて、殘りの一部に、商品置場と使用人大食堂とが附屬されてゐる。

屋上は四〇〇〇平方米の庭園で花壇の間に椅子と卓子とを配し休憩喫茶に充てられる。又その一部は上屋を作つて約三百人を容れられる屋内喫茶室となつてゐる。

屋上に、二個の展望塔の立つてゐることは、前にも云つた通りであるが、この屋上からでも、遙かに續くベルリン市街の俯瞰が出來ウキツツレーベンの放送塔や、テンペルホーフの飛行場なども眼界に入つて來る。

◇

最後に冷房と電氣の設備を概觀して見ると、冷房裝置は、第二地階に置かれ、冷凍機はアンモニヤ式のもの三臺、各毎時四〇〇〇〇カロリーの能力を持つてゐる。

其他空氣洗淨機、冷却機、送風機等主なるものは勿論第二地階にあるが、一部分は第四階の食堂附近等にも置かれ、全館へ導く冷水管は約六〇〇〇米の延長に及んでゐる。これはビール葡萄酒庫　生物ソーセージ貯藏庫、其他賣場の冷藏陳列棚等の冷却や、食堂、喫茶室、菓子パン製造室、厨房等の冷房に使用される。

その分配された毎時のカロリーは次の通りである。

製氷	四〇〇〇〇
經營用諸室	一九〇〇〇〇
日用品部	二五〇〇〇〇
菓子部	七〇〇〇〇
冷房	二五〇〇〇〇
合計	八〇〇〇〇〇

これら冷凍裝置は、フロインドリツヒ商會の工事であり、これに密接な關係をもつてゐる煖房、給湯、換氣等の工事は、ウオルファース・ウント・ウキツトマー會社の施工になつてゐるし、全館に九〇〇〇個の噴出孔を裝置したスプリンクラー工事は、グリンネル・スプリンクラー會社の擔當であつた。

◇

電氣設備は、同じく第二地階にその裝置を持つてゐて、各六〇〇KVAのトランス八個を備へてゐる。

電燈は特殊大型のもの七百個、普通のもの約六萬個と稱される。

照明は、外部柱型に添つてネオンチューブを取付け、夜間に於ける垂直線を强調し、塔頂にある十五米の硝子張角塔を、直接照明による光輝の角柱とし、その下部、展望塔の上部を間接照明によつて浮出さしめてゐる。

又內部に於ては、一般的な照明器具の他、地下鐵廣間や賣場等に硝子製梁型照明器具を用ひて、所謂『光梁』の方法を採つてゐる

又電熱は極度に利用され、料理場、菓子パン製造室にも電氣オーブンを用ひ、殊にパンの製造等には、夜間自働的に燒き得る設備を施してある。その他電話、電鈴工事も共にシーメン社の工事である。

◇

以上カールシュタツトのベルリン新館の大體の紹介をしたつもりであるが、要するにベルリン否獨逸に於て、最も新らしい傾向にさほさしてゐるこの百貨店、獨逸にあつては極度にアメリカ化されたと思はれるこの百貨店の經營方針が、客の愉快と安息とをねらつてゐる點などに於て、食堂や喫茶室に可成りに廣い面積を與へ、音樂やラヂオによつて客への慰藉を企てゐる點などに於て、日本の百貨店のそれと非常に類似したものがあつて、獨逸の他の百貨店とは甚だ趣を異にしてゐるのに興味を惹かれざるを得ない。（完）

ドイツの百貨店二三

藏田周忠

＊

このあいだ生誕百五十年祭のあつたドイツの大建築家フリードリヒ・シンケルの設計圖遺作の中にあつた『ベルリンの百貨店』は一八二七年に意匠されたもので、恐らくそういふ商賣の形式がやつと出現する時代の最初の頃の計畫であつたに違いないし、そういふ從來考へられなかつた新らしい建築の課題への有力な形づけで、それがあつたらう事は史家としてのプラツツ氏も指摘してゐる通りに思はれる。

＊

しかし實際現今活動してゐる百貨店でいへばベルリンの『ウエアトハイム』—Wertheim—が古くて有名で大きい。

伯林の都心圈內で、いつも人の往來の繁昌するライプツイーガア街の現在の建物は一八九六年アレフレツド・メツセルの設計で建築された歷史的のものであるが、此處に同店の開設されたのは一八八四年とかだといふ。廣場に面する方の建物は一九〇四年の增築になるもの。

現今でいへばこの建物もしかしもう古い方になつた。增築に改築に、骨を折つて新らしい室內を作り足してゆく有樣がこの二三年の間にもはげしく行はれてゐる。賣場が增築されたり、食堂が新らしくなつたり……。その新らしい食堂も曲木椅子程度の間に合はせではない。立派な新興建築の室內であるが、そういつた新らしい部分に對立してメツセル時代のユーゲンドスティールのいぶし金が光る莊重な大室があり、賣場もかなり混雜してゐて複雜なプランになつてゐる。正面の全長三三〇メーター、建物の幅一三〇メーター。敷地面積二七二一平方米、賣場全面積一〇六〇〇平方米。一年の電氣消費量五百萬キロワットといふやうな數字もでてゐる。

この『ウエアトハイム』の一方が街の廣場（ライプツイガア・プラ



第一圖 ベルリンの或百貨店の計畫圖

ツツ）に面してゐる。これは一つの特色だと思はれる位、平明な常綠の芝生の前景が快い。芝生には人は入れないが、その外の歩道に花を賣る屋臺店が年中並んでゐて美しい。

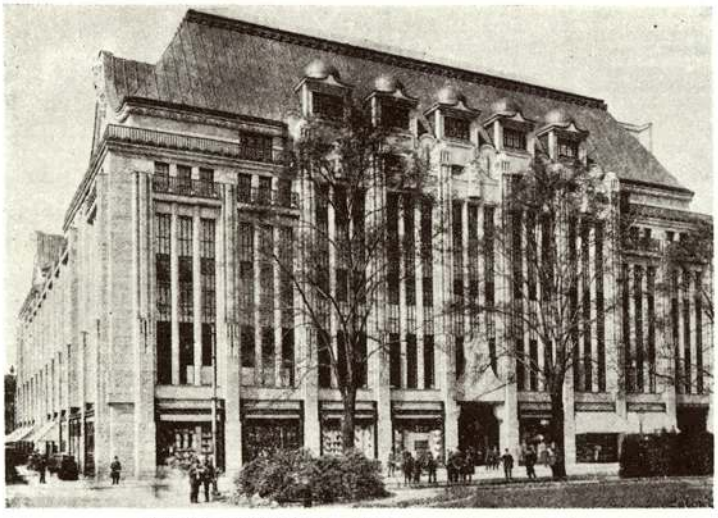
*

この建物と廣場との關係を思出してみると、これはこの『ウエアトハイム』だけに限つてゐない。中央の『ウエアトハイム』と對立する伯林の西の方で大きな百貨店『カー・デー・ヴエー』—Ka-De-We, Kauf Raus des Westens—の一方はこれも美しい草花の花壇があり、中央に地下鐵の停車場建物があり、その兩脇に舖裝した廣場のある大きなウイツテンベルク・プラツツに面してゐる。



第二圖 ウエアトハイム百貨店（ベルリン）

『カーデーヴエー』（日本人は『カデベ』と極く樂に呼びならしてゐる）これも昨年增築を完成し、階層を重ねて上方へ大くなつた。入口に最近流行のぴかぴか光るブロンズの枠や扉を使つたり、增設した昇降機の近所の高羽目に大きく平らにベニヤ板を張つたり上階二ケ所の喫茶所にパイプ椅子を使つたり新しい室內を作つてゐる。



第三圖 ツーテイ百貨店（デュッセルドルフ）



第四圖　百貨店ウエアトハイム（ブレスラウ）

一九〇七年エミール・シヤウト氏の設計した主體はそのまゝにしてゐるので、どことなく古びをもつてゐる。併し『ウエアトハイム』などに比べるとずつと新らしい感じで統一されてゐる。

ショウウインドウはよく新らしく取換へてゐるが、意匠權所有だからコピイや撮影は禁ずるといつて貼札がしてある。新らしい家具の展覽會もあつたが、家具部の全體に各樣の仕切を置いて主としてパイプの家具でセツトを作り、大きな室としても統一ある雰圍氣を作り出してゐた。

流行も百貨店がまづ先に立つて、指導的な立場をとるやうに見える。そうして着々と新らしいもの、合理的なものに人々をふり向けるやうになつてゐる。

*

『ウエアトハイム』とは創業の古さで對立する百貨店『ティーツ』は伯林ばかりでなくずいぶん方々ドイツ各市に支店をもつてゐるが、伯林だけでもドエンホフ・プラツツやアレキサンダー・プラツツに面する店が大きい。が室内のプランから裝飾——建築の取扱ひ方や商品の陳列法などは前記二者よりもまだ古臭い。この點は日本のものに似てゐる。

『ティーツ』の店で新味を持つてゐて注意されるのはデユツセルドルフの建物。それはゼツエシオンの天才オルブリヒの設計した。特に内部の特色あるものがある。ゼツエシオンの建物は本質的にはよほど金のかゝる建物だつたことがこゝでも肯かれる。但し現在の陳列の仕方などは建物の落ついた感じとは違つた効果に眺められた。この建物も一方はケーニヒスアレエの噴水のある廣場に面してをり、一方は幅の廣いヒンデンブルク・ブアルの通りに面してゐる。

*

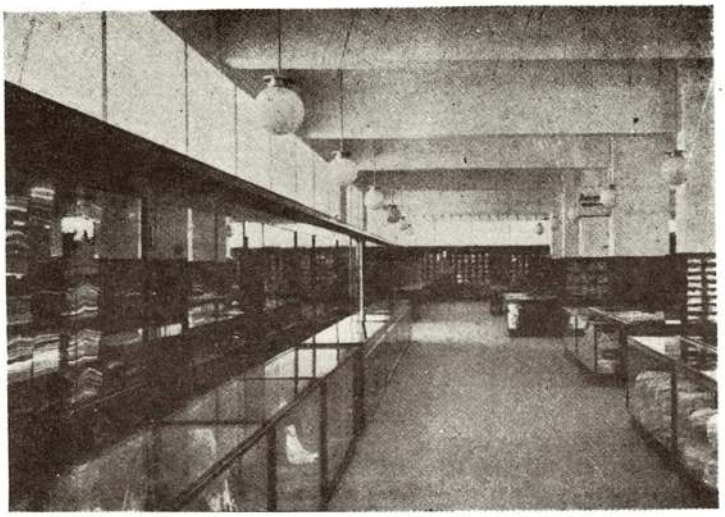
こんなふうに考へてくると、ブレスラウに新らしく出來た『ウエアトハイム』は矩折り型のプランで大きな通りに面してゐながら一端は平らな開放的なタウエンチン・プラツツ、一端は樹木の多いサルヴアトール・プラツツといふ兩廣場の間に建てられたものがある。

つやのあるタイルを壁に使つてゐるが、最近の風で壁面裝飾やモールデイングや、彫像などはなくて清楚なもの。室内の特色も平らで、明るくて、清潔なこと。

ブレスラウではやはり新らしい外觀と清潔な室内をもつて整頓し



第五圖　百貨店ルードルフ・ペーター・フルト（ブレスラウ）



第六圖　百貨店ルードルフ・ベータースドルフの販賣場（ブレスラウ）

た織物商の『ベータースドルフ』を忘れることが出來ない。――エリヒ・メンデルゾーン氏の設計である。

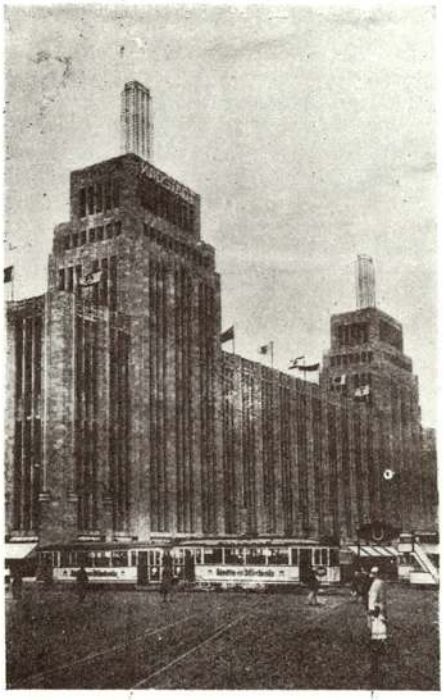
同氏は一九二五年以後大きな百貨店や、いくらか專門的な百貨店風の家をいくつか設計した。この『ベータースドルフ』やベルリンの『ヘアピヒ』などは後者のもの、ニュルンベルクやスツツトガルトやケームニツツの『ショツケン』などはやはり同氏の設計であると同時に最近のドイツの百貨店建築の代表である。

*

『ショツケン』の建物でニュルンベルクのは比較的地味な方になつてゐるが、スツツトガルトのは圓弧のプランを持つた階段室で人目をひいてゐる。この建物の外觀は赤褐色の荒い煉瓦と白土色のトラヴァテイーン、それに大きな文字と大きなガラス面で特色のある建物であるが、室内は特に細かい點まで新らしい手法がこの設計者らしく行渡つてゐるといふ事が注意される位で特にすぐ眞似する樣な細部には氣がつかなかつた。眞似するとすればこの全體の室内――大まかなベニヤ板の高羽目を使つた、平らな白い天井から單に清潔な球の電燈の下つたこの室内の取扱全體を學



第七圖　ケンツヨシ店貨百（スツツトガルト）



第八圖　ツトタシールカ店貨百（ベルリン）

ぶべきであらう。

＊

最近に出來たケームニツツの『ショツケン』は變つたプランを持つてゐるし、水平に通つた窓で、全體の白い石壁と共に清新な感じを與へる。大きく横に通つた窓も室内陳列法によつてその價値がきまる。窓だけの取扱ひで百貨店が完成したのではなくて、窓と陳列法とが適當な構成關係に置かれてこそ、統一されたる建築的効果に達するのだといふことをこの建物あたりから學ぶ。

＊

床面積はそんなに大きくなくても一般にドイツの百貨店は通路の幅が廣い。

＊

通路の幅の廣いことで、もう一度伯林に話を戻してみると、全體が廣々として新らしいのは伯林の『カアルシタツト』であらう、意匠の上ではメンデルゾーンのショツケンには比べられないかも知れないが……。『カアルシタツト』は地下鐵のプラツトフオームからすぐ昇りと降りのエスカレーターで接續してゐる店、七階建で、正面の高さ三十二メーター、塔上まで五十六メーター、エスカレーターの數が二十四個、屋上庭園だけの面積四〇〇〇平方米。

この屋上階に大きなサンルームのやうな室があつてお茶をのませるが、年中いゝバンドが音樂を奏して慰めてくれる。ジヤズもやるがそれも美しくて力強くて立派だつた。

この店は伯林の東部即ちプロレタリア住居圏にあるために、『ウエアトハイム』や『カ・デ・ウエ』に比較して物價が安い。そし一品物も新らしいもの實質的のものが多いので西の方からでもわざわざ買物に人が集まる。

この『カアルシタツト』の建築の圖集的報告が、設計者シエーファー氏によつて出版されてゐるのだけれど、今手元に見附からないので、詳しいことを書けない。

『カアルシタツト』の外觀は灰色の粘板岩一色、こんなに大きな建物でも二基の塔上にコバルト色のネオンの强く光る光塔があつて又同じコバルト色のネオンの線が所所壁を傳つてゐるだけで、だらしのない雜色の彩はつけてゐない。

＊

要するにドイツの新らしい建築の一般と同じく、百貨店も新らしいものは、明快で清潔でそしてドイツ特有の訓練のあるレクラム藝術によつて洗練されたもの。百貨店の數字的成績ではずつと上位のアメリカでも、このドイツの洗練された取扱ひ方には大いに學ぶところあるものといひ、しきりに注目し、まねもする狀勢である。

百貨店建築に就いて

毛利泰三

一般商店に於ても然りであるが殊に百貨店の敷地の選定は最も重要な問題である事は今更喋々する迄もない。其選定を一度誤るならば他の建築其他に於て如何に最新設備を有すると雖も到底其趨勢を挽回すべくもない。故に同營業者間との對抗は言ふも更なり、附近の交通系統を考慮して、所謂『シヨツプイング・センター』に其位置を選定する事は第一要件である。斯の如き事は既に經營者に於て最も嚴密に研究し盡され且つ實行されてゐるのであるから事新しく今茲に言ふを要しない。さて僭越ながら以下百貨店の建築並同附帶設備等について、聊か經驗したその概要を述べて見ようと思ふ。

そもそも百貨店建築の各室の配置は大別して接客部即ち賣場を中心として之に附隨した諸部と、非接客部即ち仕入及賣上品發送其他營業用事務室の二大部に大別される。更に百貨店に於ける食堂の經

營と云ふ事は現今大いに利用されてゐるが、これが將來如何に發達するかは疑問であるとして、兎に角百貨店の利用價値と言ふ事に就いてはこの食堂のみならず、百貨店全般に於て現代民衆、特に都會生活上に最も便利を與へてゐる事は明瞭な事實である。かくてある意味に於て百貨店なるものを民衆が持つ倶樂部建築の如きものであると言ふも必ずしも當を得てゐないとは思はない。

◇

さて現今歐米並我國の百貨店建築に於ける平面計畫は如何と言ふに實に平凡且つ簡單なものである即ち一、入口。二、賣場內の通路三、階段。四、便所、化粧室、昇降機等の位置を如何に配置するかに他ならぬのであるが、此事は簡單で實につまらない樣な事で最も大切である事は言ふ迄もない。即ち之等の位置の選定は百貨店の死活を制する位重要であると言ふも決して過言ではあるまい。

一　出入口の位置撰定は最も重要なことである。角入口にする事も一概に惡くはないが良いものとは言はれない。何んとなれば店內の主要通路との聯絡や間內柱の配置などとの關係で角入口は比較的困難な事が多い。寧ろ角地は陳列窓にして置く方が行人の佇むにも便利であり、有效であらう。勿論之等の事は敷地と道路の關係を考へてからの話であるは言ふ迄もない。

二　賣場內の通路の問題であるが之は各賣場が小賣店の綜合街衢である。依つて此中に大通や横丁の通路も必要になる、即ち交通に必須な區劃整理が極めて巧妙に施行されなかつたならば其商店は如何程廣くとも又設備が完備して居ても商店の能率は擧がらない。故に都市の區劃整理と大小こそあれ少しも異る所はない。この問題は建築の平面計畫の際柱割と共に最初に決定すべき各柱間の寸法によつて大いに影響する事を考へなければならない。

左に自分の測定した我國現在主要百貨店につき實例を擧げて見る

各百貨店柱間實測表

所在地	百貨店名	各柱間(柱心々距離)
東京(日本橋)三	越	6.25×5.9
同	白木屋	6.05×6.05
大阪	大丸	6.35×6.35
同	阪急	7.25×6.35
同	三越	6.05×6.05
同	高島屋	6.65×5.45
同	白木屋	5.15×4.85
同	新京阪	8.35×6.05
金澤	三越	5.45×5.45
横濱	越前屋	6.00×9.85

百貨店內の交通には三の要素がある。第一は客、第二は店員、第三は商品で此三者の交通である。客の交通としては店外への開口である出入口から店內の各部へ客が少しも衝突する事なく、安樂に交通する事が出來る樣に、而も客をして店內何れの部分にも一樣に通達せしむる樣にしなければならない。何れかの入口から吸込まれる客をして何等の苦痛もなく何等の疲勞も覺へしめない樣に店內の隅々まで地階から屋上迄も知らず知らずの中に巡覽せしむる樣設計する事が肝要であるが、この問題は言ふべくしてなかなか理想通りに行くものではないから設計するに當り階段と『エレベーター』との關係等は特に注意して充分研究を要する。

三　に階段であるが之は萬一建物が震火災にでも遭遇した時の事を考ふるならば最も重要なる使命を果すものと言はざるを得ない。早く法規の制定を設けらるべき事を望むものである。かくて百貨店の客用階段幅員に就いては本年七月號建築雜誌に於て、東京市內の主要百貨店に就き實地調査並に研究された記事の發表を見たがこれ等は好參考資料と言ふべきであると思ふ。次に百貨店階段の手摺についてはいつも問題となるが、それは百貨店では老若男女は申すに及ばず無知識の者や子供等の來店を勿論拒まないのであるから、子供が手摺を跨いで滑つたり赤子を差上げて落す樣な事がないとは言はれない。又手摺子の間から物を落したりする事もあるのであるから手摺は成可く壁式にして高さは一・一米以上として之等の點は充分設計上に留意する必要がある。

我國の百貨店の階段が今後如何に變遷すべきかは興味ある問題で

ある。我國人の服裝の歐米化に進むにつれ恐らく階段も米國式になり餘り使用しない樣になるのでないか、而し今日の我國の程度では全部の客が昇降機にのみ依る事とは期待されない即ち大部分は階段を使用するものと見なければならない。從つて所謂歐洲式の大階段も遽には捨てられない、然れども大衆の傾向は米國式になるものと思はれるが我國の百貨店が米國式直譯に行かない點は此所にある。次は百貨店の賣場の床仕上材料は實際建築設計に當つて困ると同樣この階段に於ても其踏面を如何なる仕上材料を用ふるかと言ふ問題も隨分苦しむ事の一つである。之れは橫濱で某百貨店設計に當つて東京市內の主要百貨店について實地調査を行つたが何れも一得一失でその得た所も餘りなかつたが結局、厚さ一・五糎大さ三〇糎（約一尺）『ゴムタイル』を目地無しで敷いた。『ゴムタイル』は値段の點においては少し高いが音響を防ぎ且つ足さはりがよいと思ふ。

四　に店內の交通機關についてであるが、之は其接客部と非接客部との別なく『エレベーター』と『エスカレーター』との二つに據る。勿論貨物の運搬には『ダムウエーター』『スパイラルシュート』其他の設備はあるが人間の交通機械としては此の二による。從つてこれが店內への配置は通路や出入口や階段と相待つて店舖の死活を制する重要なものである。

百貨店に於ける『エレベーター』は最も能率のよい最新式のものを用ふる事は營業政策から言つても凡ての點に於て誠に結構な事であるには違ひないが優良なものは値段も相當高價なのである。何れにしても信用ある會社の物を使用すると云ふ事は大切な事である。自分の設計に關係して此程竣工した橫濱の某百貨店では今まで『エヤー』で開閉してゐた扉を我國で最初の使用である『エレクトリック・オペレーター』即ち電力を使用した、故に『エヤー』に於ける如く扉の開閉に音響を發せない、その概要についてはこの頃我國でも二、三の百貨店には既に使用してゐるが『マイクロドライブ』式である箱の扉は『オーチスセーフテーゲート』である、速度は勿論『ハイスピード』で『ケージ』大さは間二・〇米奧行一・八五米とした、即ち『ケージ』の大さは成る可く入口の幅の廣いのが良い樣である、間口と奧行と同樣なのや、間口より奧行の大きなものは、客の出入に時間を多く要して面白くない。

五　に換氣についてであるが之れは『デパート』として重要な設備の一つである、即ち多くの人が這入る賣場や食堂は是非共機械的に換氣を完全に行はぬと非衛生なる事は勿論である。これには空氣洗滌機を使用して空氣を洗滌し、適度の濕度を保たしめ、換氣さす時は夏冬共に充分効果を擧げ、客に快感を與へ得る。

最近我國の事務所建築とか劇場建築では冷房設備を行ふ事が考慮されてゐるが、之を理想的に行ふには可なり多額の費用がかかるのである。然れ共將來は百貨店建築其他の建築物に於ても冷房裝置を行ふ趨勢にある。これは米國の劇場の話であるが冷房設備のない館には人が這らない位だそうである、そしてその裝置のある建物の玄關入口には必ず館內の溫度が明記してあると云ふ事である。

六　に電氣設備については之も重要な事である。先づ陳列窓の照明を如何にするかの問題であるが之は普通『X レー』を以て間接照明法を採用してゐる。又各賣場の照明も大いに考慮する必要がある、即ち一灯當り三〇〇乃至四〇〇『ワット』の電球を用ひ半間接照明法により又『ショウケース』は『オスラム』の如き『チューブ』電球によつて照明してゐる、食堂に至つては間接照明法と半間接照明法との併用が主である。元來百貨店の食堂は經營者側から言へば附屬物である筈のものが、之れ位民衆に多く利用されてゐるのであるから大いに此の方の電氣照明法等の如き事も考究されて將來の發展策を講ぜらるべきである。（了）

（一九三一年九月二〇日稿）

百貨店の建築

株式會社大丸
專務取締役　里見純吉

百貨店の經營から見て一番大切なことは地位即ちロケーションの撰擇である。不適當なロケーションでは努力してもその効果が擧らない。またそのロケーションの如何によつて經營方針の建て方にも自から相違が出來て來るのは免れない。而してそのロケーションの適否を決定すべき條件も色々と考慮さるゝが、今はそれを論議しようとするのではない。只だ建築に就て語らんとするに當つて先ず以つて百貨店經營上建築されんとする建物の所在、即ちロケーションが建物それ自身よりも更に重要考慮を拂はれる問題であることを御斷りして置きたいのである。

さてロケーションが定つたら、次に大切な問題は無論建物である。

(一)建物の大きさ

建物の大きさ形狀、內部の配置等考慮を要する重要な問題が澤山ありますが、建物の大きさに就ては大都會の百貨店と地方の中小都會の百貨店と自ら經營の規模が違ふので同一に論じられないし、大都會の百貨店でも中心地にロケートした純百貨店(レギュラー・デパートメントストア)と都會の內の一方面即場末の店(ローカルストア)又は稍顧客の範圍なり商品の範圍なりを限定して經營する場合の店とは自ら大きさに差違があるのは當然なことである。都會の土地と云ふものは中々自由に手に入るものでないので自然ロケーションも經營者の思ふ樣に注文通りの所に撰擇することは出來ない。また注文通りの廣さを占有することも困難だ。そこで色々地位や、敷地面積や、敷地の形狀やに支配されて苦しい建物で我慢せねばならぬ場合が起つて來る。我國現在の東西各都市の百貨店の建物を見てもそうである。之は申分がないと云ふ理想的なものは一つもない。皆ドコかに難點がある。只比較的に都合のよいのと悪いのとある丈である。それはいづれも與へられた地域に、與へられた狀況の下に作つた建物だから止むを得ない。乍併若し何等の條件なしに只經營上の要求から考量して純百貨店としての諸機能を發揮する丈の諸施設を備へる爲めには、延坪數七八千坪を以て最少單位と申して差支ないと思ひます。充分にするにはドウしても延坪一萬坪以上を欲しい。それ故我國現在の百貨店は皆經營の見地から見て不充分なものばかりである。アゝもしたい、こうもせねばならぬと心付いて居ることも建物の面積の不足の爲めに出來得られない狀態である。勿論百貨店と一口に云ふても前述せる通り經營の方針が色々に建てられるので、與へられたる地域に與へられたる建物を以てする場合は、それに相應した經營をして行くので別に差支はないが、私の茲に謂ふ處の一萬坪以上要求說は大都會の中心に敷地も、地位も、自由に得られた場合の話である。

サテ坪數が同じでも形狀によつて使用能率が著しく異ることも考慮せねばならぬ、私は正方に近い長方形が一番使用上都合がよいと思ふて居る。長サが過ぎて巾が狹い建物は非常に不利である。同延坪數でも細長いのと、四角張つたのと、ヒヨロ高いのと、平廣いのとでは使用能率に大變損得がある。四角張つて平廣い方が遙かに能率的だ。長さと云ひ高さと云ふも固より程度の問題だがプロポーションの悪い建物は使用の上からも不利である。

(二)採光と換氣

天然採光をやかましく云はれて居る現在日本の建築法では如何とも致方ないが、經營の見地からすれば、天然採光は左程重要なものではない。寧ろ餘り日光の直射することは販賣場としては不適當と

云ふても差支ない程で、米國の百貨店などは全然天然光線を採ることは考へて居らぬ。高層建築が櫛比して居て、その何れもが廣い床面積を持つようになれば天然採光によつて商賣することば到底望めない。其よりも大切なのは空氣である。店内の空氣を清潔にすることは絶對に必要なことだ。殊に多數顧客を迎へる百貨店にはその必要一層切實なるものがある。この點は今後の百貨店建築には他の何事を差し置いても充分の考慮を拂はねばならぬ。換氣と共に附け加へて非常施設さるべきものはその換氣さるゝ空氣の濕度の調節である。今日では室内空氣調節の技術が段々に進歩しつゝある樣だが、百貨店の如きでは人工的に清潔にして、適度に調節せられた空氣を常に店内に供給して居つて、顧客も、店員も、戸外に在り又は自宅に居るよりも店内に在る方が良い空氣を呼吸することが出來ると云ふ風にならなければうそである。

○事務室と賣場

米國の建物は高さの制限が無いから、大概地上十數屏でその内の七八層を賣場に使用し、それから上層の部分は事務室や、倉庫や、荷解場、店員食堂、教室等々の内部の仕事に當られてある。併し我國の建物は百尺の制限故七、八層しか出來ない。各層共に賣場にしたくなるので多くの店が事務室を別館か又は各層の一部に採つて居る。甚しきは事務室はいつもドコかの隅に追やられ、店員の食堂や店員の爲めの施設は殆んど顧みられないのがある。私は百貨店の建物は賣場建築でなく、百貨店としての各機能を最もよく發揮し、各機關が合理的に、能率的に、その所を得た建物であらねばならぬと思ふ。そう云ふ建物が我國にも建設さるゝ秋の來るのを待望するものである。業務能率から云へば、矢張事務室が上層の部分に成るべく集合して設けられ、商品は一旦上層に揚げてから各階に配分され各層の賣場で賣れた品物は、リフト又はコンベヤーで順次下に送られ、店外に發送さるゝのがよい順序だと思ふて居る。即ち米國式の配置が米國に於ける如く同樣に日本の高さでも其の合理的であり能率的であることに變りはないと思ふて居る。

○文明の恩澤、資本の力

百貨店が横暴だとか云ふやうな聲を折々聞きますが、堅牢にして華麗な、清新にして優雅な、大建築内にあらゆる近代科學の粋を集めた設備を施し、從來最も贅澤なブルジョーア階級の人と雖も尚且つ享有せざりし環境を、一文の入料場も入會金も會費も求めずして日々隨時に民衆に提供して、その享樂に任せ、その使用に任せ、單に任せるのみならず、鞠躬如としてその歡心を買はんとして居る百貨店は横暴どころか餘程社會に奉仕して居る。斯の如き安價なる提供物は恐らく他に比類が尠いと思ふ。ホテルや倶樂部にて食事するには直接間接の相當の費用を要する。それよりもモツト立派な食堂で食事をして而かも一膳飯屋で拂ふと同程度の費用で濟む。その乘る處のエレベーターは世界最新最良のものであり、その踏む處の床から、階段、柱等凡て結構の美を盡したるものだと假定せよ。民衆は從來の商店よりも比較的安くよい品物を買ふことの外には此等の高級なる建物上の設備、結構、デザイン等に對して何等の代價も拂ふことなく之をエンジョイするのである。洵に文明の恩澤と云はねばならぬ。大資本による大規模組織の御蔭と云はねばならぬ。私は敢て資本家の御蔭であるとは云はぬが、資本の御蔭であるとは云はねばならぬ。こう云ふことは小規模小資本では出來得られない現象である。段々と世の中は斯樣な道程を進んで行くのであらう。大規模企業による組織の力でその時代の最優最良の藝術と、最高の科學とが産み出す處の立派サと心持よさとを、清潔と便利とを、極めて安價に一般民衆に提供する。そう云ふ目的の建物として百貨店の建築が考へられねばならぬ。其故に大面積を有する建物、華麗にして清新な氣分の建物が要求される。我々の業界には將來益々大建築の競爭、結構設備の競爭が現はれて來るだらう。（終）

百貨店の平面計畫について

絹川豊重

百貨店の平面計畫について商業的立場から少し述べる。

百貨店は同一の建築物内に於て我々の物質生活に必要な物質及生活の内容を豊富にし向上させることに役立つ物資を大衆に販賣して若干の利潤を擧ぐることを目的とするものであつて、小賣商店の高度に發達した企業形態の一である。營業及其に附隨する諸種の業務の全部若くは大部分は同一建築物即ち店舖内に於て行はるゝのが原則であるから、百貨店として適當な位置面積を得た時は、人及商品と建築物とは百貨店構成の三大要素となるものであつて、建築物自體が演ずる商業的役目は、他の商業に於る場合よりも更に重大なる性質を帶びてゐるものである。

○

米國に於ても日本に於ても、近來竣成の百貨店は、益々設備及裝飾を華美にする傾向があつて外觀及其等の持つ商業的効果を輕視することは出來ないが、百貨店建築に於ては、各販賣及非販賣部門の機能の發揮を最も能率的たらしむる爲に平面計畫は更に重要なる價値を有するものであつて、其の計畫に當つては、百貨店の商業的立場よりする要求を完全に理解し且尊重する必要があることは、ナイストロム教授もドブマン教授も等しく書き述べてゐる所ろである。

平面計畫に於て、豫め二つの事を考ふることが出來る。其の一は平面計畫に於て包含せらるゝ諸計畫の相關性と、他の一は、平面計畫の經濟性である。前者は、平面を構成する諸計畫は其の機能の發揮について相互に關性を保ち平面の構成は機械の構成に比し得ることである。即ち何れの構成部分も各自單獨に存在の理由を有するものではなくて、百貨店の商業的目的を遂行する爲に必要なる構成分子の一としてのみ存在性を與へられてゐることである。後者は地代（こゝでは Ground Rent の意であつて Building Rent を意味せず）に關係をもつ問題であるが、百貨店の如き小賣商店の營業成績は建築物の位置に對して非常に敏感であるため、自然交通の便よく繁華なる土地が選定されるから其の地代は高率たるを免れない。此の負擔より來る苦痛の濃度を出來るだけ稀薄化せしむるためには如何にすればよいか。此に對するに立體計畫即階數の問題と平面計畫に於る問題とが生じて來る、階數の問題は別として、平面計畫に於ては、各階及各地點の賣場としての有効率と各階に於る賣場面積の比率とである。此等の積の合計が大なれば大なるだけ、地代の負擔率は輕減するわけである。

○

百貨店の平面を構成するものは勿論其百貨店の大小及豫定商品部門其他の營業方針などによつて適宜決定せらるゝのであるが其の概略は通常左の如くである

一、販賣部門及之に附隨するもの

顧客出入口
ショウ・ウインドウ
エレベーター、エスカレーター
階段
諸サービスオフイス
客食堂、餘興室、催物室、理髮室、美粧室、寫場
休憩室、化粧室、便所
賣場

二、非販賣部門及之に附隨するもの

店員及商品出入口、並に店員用ロッカー
直接商品を取扱はざる事務室及應接室
直接商品を取扱ふ事務室
エレベーター、階段、コンベヤー等店員及商品の交通運搬に供するもの
客食堂、厨房及店員食堂、同厨

房、休憩室、化粧室、浴室、便所
諸機械室

平面計畫の實際に當つては、敷地の位置、形狀、廣狹、豫定階數環境、適用さるゝ諸法令、將來の擴張豫定計畫及環境の變化によつて種々の考慮と判斷が加へらるべきであるが、法定空地をとるべき位置、柱割などは、平面計畫と密接なる關係を持つことがあるから豫め注意されなければならぬ。例へば、法定空地は其の利用率の最も高き位置に適當に割當てらるゝことによつて、平面計畫の欠陷を補ふことが出來る場合があるであらうし、柱割に於ても、エレベーター、階段等主要なる設備の位置、或は陳列ケースの配置、顧客通路の幅員等をも豫め考慮さるゝときは、より能率的な平面を構成し得るであらう。

平面計畫に於る各構成部分の位置を決定するには、既に述べたるが如く、百貨店の目的及其の組織を完全に理解すると同時に、各構成部分の必要なる面積に聰明なる判定を與へて、百貨店經營の方法目的に合致し、綜合的調和と活動性とを十分に與ふることを目的とせられなければならぬが、次に主要なる部分について簡單に述べやう。

震災前までの日本の百貨店の顧客出入口の位置及數は、下足の關係から制肘されてゐたやうであつたが、其後、下足が一般に廢された結果、新築或は改築のものは、自由に計畫され顧客の便宜のため其の數を增し且入口、出口の別を廢するやうになつた、米國に於る百貨店の例を見ても大きさにもよるが五乃至七を有するものは決して珍しくない。其の位置は外觀、道路、電車バス停留場、店內諸配置との關係等を考慮して定めらるゝのであるが震災前の建築にかゝる我國の百貨店で、街角に面したものは、多く街角に入口を有したが、震災後のものは、此の反對の傾向を示してゐる。ドブマン教授は、米國に於ても街角に入口を好むで設けた時代があつたが、街角に於けるショウウインドウの陳列效果を研究した結果、入口よりもショウウインドウにする方が效果の多い事實が發見せられてから、顧客出入口は、街角より少し離れて設けらるゝ傾向に至つたと述べ但し橫町の交通量が少量である時は、此の言葉は勿論適用されないのであつて、むしろ街角には屢々入口が設けられて、表通りは、一杯にショウウインドウに使用さるゝ事が多いことを附加してゐる。最近の設計になるものは、歩行者出入口の他、自動車寄及地階出入口を設けて自動車及地下鐵乘客の便宜を大ならしめてゐるものもある。

○

ショウウインドウは最近の小賣商店には其の大小とも必ず設けられて、或は入口の兩側にあり、或はアイランド・ウインドウを設け或はアーケードの形をなすなど種々あるが、百貨店に於ては、主要道路に面して、出來るだけ硝子面を廣くとらるゝが普通の樣である。米國に於るサックス・ギムベルブラザース　ニューヨーク）マーシヤルフイールド（シカゴ）フエアー（シカゴ）バムバーカー（ニューヨーク）ハドソン（デトロイト）フエーマウスアンドバア（セントルイス）等の各大百貨店は各々三又は四の道路に面してゐる店舖を有してゐるが、顧客出入口及商品出入口を除く大部分をショウウインドウに費してゐる。例へば、フエーマウスアンドバア百貨店は四周に道路を廻してゐて其の延長は九九八呎であるが、其の中六の各出入口と、二のオフイス・ビルディング用入口を除いた七三八呎はショウウインドウに費され、ギムベルブラザースに於ては三面道路に面し其の延長九九七呎の中七の顧客出入口と二の店用出入口を除く、六四〇呎をショウウインドウに使用してゐる。斯の如くにしてショウウインドウの效果を最大に發揮せむと努めてゐる。地階出入口に於るショウウインドウは或は歩道に面せる場合に於る程效果を擧げ得ないかも知れぬが、其の出入口をアクセツシブルにし、地階風景に色彩を與へることなどに於て決して無駄なものではなからう。

○

エレベーター、エスカレーター、階段の三者は、高層建築に於る上下の三大交通機關であるが、エレ

ベーターは、賣場面積より所要基數が算出せられて、一ケ所若くは數ケ所に集合配列さるゝが、近頃の傾向である。其の位置は、ワナメーカーに於けるが如く、二ケ所に集合配列されて賣場を三分してゐるが如き例は、カフマンに於る棧橋の如く賣場に突出する例をも見ることが出來るけれ共、多くの場合は、何れかの側のショウウインドウ或は壁等に平行して沿ひ設けられて、賣場の形狀を不規則にならしめぬ樣にせらるゝ場合が多い。若し賣場から最近のエレベーター若くはエスカレーターに到る距離が相當不便を感ずる樣な場合に、少數のエレベーターが其の附近に設けらるるが一基の設備では其の利用率が低められるので、最少二基の並置は必要と思はれる。又エレベーターのケージは所謂デパートメントサイズを以てよしとするが、徒らにケージのみ大にして速力が鈍いことよりも、顧客をして待たしめることなく然かも高速度にて輸送するとの方が、エレベーターによる宣傳効果は別として本來の目的ではあるまいか。シカゴのマーシヤルフイールドの如きは全店内に七十八箇の客用エレベーターを配置して顧客輸送の圓滑を計つてゐるのである。

エスカレーターは、エレベーターよりも遙かに大なる輸送能力を有するが、概略地上四階位までは有效であり、エレベーターよりも有效であり、其以上はエレベーターが優るとナイストロム教授は述べてゐる。階段は米國百貨店に於ては餘り重要視されてゐない樣に思はれるが、前二者の如く大なる設備資本と經常費とを要しないで、しかも火災に於ては其の交通量は可なり大であり、又混雜時、上下交通の緩和に最も役立つものである。從つて其の幅員は、柱間などによつて制限せらる場合もあるであらうが、出來るだけ廣きを可とし、踏面及蹴上の寸法は、下駄をはける婦人が下降する場合に不安を抱かしめない程度にせられなければならない。以上三者の中、エレベーターは、其の存在の位置を明白にし且比較的接近し易き位置にあるを常とするが、エスカレーター及階段は顧客より見て極めて不便なる位置或は賣場の凹所に設けられたりするが故に、其の利用を躊躇したり又は存在の位置が明白でないやうな場合があつて、其の利用率を低下せしめてゐる場合が屢々ある。斯の如きは位置の撰定の誤謬がもたらした睡眠設備の好適例であつて、此等の交通機關は、賣場の何れの地點からも容易に發見利用し得る位置にあり且、各階の賣場の何れの地點にも、同樣に多數の顧客を誘導するために、局部的に偏在することを避けて、配置されねばならぬ。賣場の中央若くは其に近くエスカレーターが設けられるの例を屢々見るは、以上の如き理由からである。

○

ツーリストブウロウ、プレイガイド、ショツプイングブウロウ其他のサービス・オフイスが設けらるゝ時は、最も有效率の多い一階に必ずおくべきものとは限らないであらう。買上品渡場の如きは最も交通量多き出入口に近接することが、顧客の便宜必要とせらるるが、其他のものは、其の位置如何によつて利用者の數に大なる影響を來さざる限り各階の有效率等を參酌して、或は地階に或は其他の階に設けられてもよいと考へる。

食堂、餘興室、催物室等は實例上殆んど全部の場合、最上階若くは其に近くおかれてゐるが、此等は或は一定の信用を有し、或は常に宣傳に伴ひ或は大衆の興味に媚びるものであつて、其の位置の善惡如何を論ぜずして、大衆を誘引するの力をもつてゐるから、賣場としての有效率に最も乏しい階が常に充てられるのである。食堂には、手洗室、喫煙室又は待合室及客席別室を設ける場合がある。餘興室、催物室の如きは兼用さるゝ場合もあるが、催物室はなるべく北窓を多くもつときは商品繪畫の陳列の場合等に其の陳列效果を助けることが多い。

理髮室、美粧室、寫場の如きは多くの場合、顧客は豫め其の存在を知り目的をもつて來るのであるから、此等に最上の位置を提供する必要はないが、理髮室はなるべく男子用品階又は一階に近く、美粧室は婦人用品階にあることが望ましいが、夏期午后の太陽光線を多量にうけることは考へねばならない。

休憩室は各階に散在しておかる

べきであるが、若し婦人休憩室、喫煙室等が區別して設けらるゝ時は隣接商品部門との關係をも注意して男子用品階に婦人休憩室がある等の不調和を避けねばならぬ。化粧室及便所は、各階に男女別に設けらるべきで、其の位置は、休憩室と共に各階に於る凹所、或は賣場として有効率の乏しい地點が充當せられて差支へないが、賣場の美觀を損せない位置であることも必要である。又設備費用からも顧客をして迷はしめざる點からもなるべく各階共、同一の位置にあることが望ましい。

○

百貨店の平面計畫に於ては、以上の各構成部分及後述の非販賣及之に附隨するものを除いた殘りの部分が賣場に充當さるゝのであるが、賣場は百貨店の平面計畫に於て最大の構成部分であり、又最も重要なる物である。既述の諸構成部分は食堂、理髮室等の如く其自體が一の商業であつて利益を擧げる場合もあるが、原則としては最初にも述べた如く、其等單獨に存在の理由を有するに非ずして、皆賣場の培養機關たるに過ぎず、賣場に於る販賣能率を補助し又は增進せしむるために存在するのであるから其の面積に於ても後述の諸部分と共に必要以上に出ることは許されない。然るに賣場の廣狹は直ちに販賣力の强弱に反映するものであるから（元より其の廣さにも限界効用性が働くことを認めなければならぬが）出來るだけ擴大し、然も有効率大なる階に於て綜合的調和を破らざる範圍で出來るだけ擴大せられなければならぬ。各階の賣場は勿論通風採光にも注意せられなければならぬが、其の形狀は大體に於て正方形若くは其に近き形であることが、顧客はシヨツピングに際して商品の發見接近に便利であり、經營の側より見れば、各階の賣場の有効率を高率に平均化し販賣能率を增進し得て最も望ましいと思ふ。他の諸構成部分は此の點に於ても注意して、賣場の形態の整頓を破らず、消極的にも强固にすることに努めねばならぬ。

○

次に非販賣及之に附隨するものであるが、此等は勿論既述の諸部分と相關聯して百貨店の要求する事務及其の組織を理解して計畫せなければ其の統制上、能率上不便多く經營上無駄を招くことさへある。然して此等のものは、なるべく賣場としての有効率の最も低いところに適當に配置せらるべきことは勿論である。

店員出入口及商人商品出入口は勿論一階におかるゝのであるが、一階に於て此等に費す面積を出來るだけ少なからしむるため直ちに地階若くは上階のロツカー・ルーム或は仕入室にエレベーター、階段、斜道等によつて其々導かるゝが一般である。此等の出入口は表通りの外觀を損せざることに注意してとられるが、店員出入口と商人及商品出入口とは統制上別けらるるのが便利があつて、商品出入口は更に仕入及配送の二に別けらるゝこともある。ロツカー・ルームは採光通風を比較的要求しないから地下室にて十分であらう。直接商品を取扱はざる會計等の事務室は各階に分離散在する時は、其の事務能率上好ましからぬ事であるから、一室に集合執務するやうにせなければならぬ。又商品を取扱ふ配送準備室、商談室、仕入室等の事務室も配送準備室を除く他のものは同一階に集中せらるゝを便とし、通風採光に便多き上階が充てらるゝをよしとするが、地階にあつても近代の科學は地階の採光通風に關する問題を解決するに至つてゐるから大なる不便は感じないであらう。商品倉庫も又必要であるが、濕氣其他に注意をすれば地階にて十分と思ふ。商品の一時倉庫が各階賣場に隣接して、豫定せらるゝ時は其の利用方法の如何により賣場の販賣能率を高めることも勿論である。店員用エレベーター階段は、前記諸事務室、店員用食堂、化粧室、便所、ロツカー等を縱に連結するべく設けらるゝのが最も便利である。コンベヤー、スパイラルシユート等は賣場と買上商品渡場或は配送準備室との間の商品運搬に利用せらるゝ場合が多いが、此場合には賣場の各地點よりの距離、買上品渡場、配送準備室との連絡を考慮して其の位置を決定されねばならぬ。客食堂の厨房は客席に隣接すること勿論であるが、材料運搬に利するために

百貨店の設計

株式會社十合呉服店
常務取締役　木水榮太郎

設計中最も至難なるもの

建築設計中百貨店の設計は最も至難なるものと思ふ、或人は百貨店建築は床と天井さへあればと簡單に云ふが、それは所謂ビルデイング建築に比し間仕切を要しないと云ふ點から極端に云つてのけたもので、勿論しかく單純なものでなく、否最も複雑なるものと云ひ得る。蓋し相當多くの事務所を要する點から一部はオフイス・ビルデイングであり、且つその事務に於ても複雑なるものがあり、一部は食堂建築であり、一部は劇場建築の様な部分もあり、一部は公園設計に類する點もあり、斯く數へて來ると或人の言葉『百貨店は一の都市なり』とし銀行、郵便局、病院等を初め一の都市が有する施設は總てその店舗内に存置せるものなりとの見地からする時は、百貨店建築は各種建築の綜合建築と云ひ得べく、その間に統制を要すること等を考慮せば設計中最も困難なるものと云ひ得べし。

更に百貨店建築に於て最も注意す可きものの一は顧客及び商品の循環の問題である。顧客が店内を歩行する場合に無駄を少なく各所に行き渡る様 dead place を無くすることを要し、商品を荷受けして色々のコースを經てそれが賣場に運ばれ又逆に賣場に於て販賣されたる商品の内配達さる可き物、其他が店外に持ち出さるゝ運轉系統に苦心を要する。顧客のサーキユレーションの點は設計に於て最も良き場所を對顧客施設に供する結果商品運轉系統のプランニングに較べては容易なるものとなすを得るも、商品運轉系統施設は對顧客施設として價値少なき場所を利用する結果殊にその設計に屈れたる苦心の存する所である。

設計工事共に共同作品なり

建築が批評さるゝ場合に、或る場合然も最も素人の場合、其建築の工事請負者の誰なるかゞ問はれ或る場合、しかも比較的建築智識のある人々の場合には、その設計者の誰なるかを尋ねらるゝを見るが私は建築は共同作品であり、設計に於てはそれが設計技師と建築主（經營者）との共同作品であり、建築工事に於ては設計技師（設計監督上より見たる）と建築業者の共同作品なりと解す可きものと考へる。殊に百貨店建築に於てその設計が設計者と建築主の共同作品たる感を深くするものである。百貨店經營者に建築智識が豐富で自ら設計の大體だけにてもそのプラ

食堂專用若くは兼用の貨物エレベーターを持つ必要があらう。客席を增加さす目的のために配膳室と料理室とが區別せられて後者を他階に移すこともあるが、其の面積は配膳カウンターの長さと共に客席數、獻立の種類をも參照して決定さるゝ事が必要である。其他店員化粧室、便所は男女從業員の比率及女子從業員の增加等を考慮して男女別に各階若くは交互に配置されねばならぬ。

○

其他尚詳細に亙ることを避けて現在計劃中の關西の二百貨店に於る各構成部分の總面積に對する比率を揭げて參考に供する。

賣場						
A	5%	5%	5%	7%	14%	19%	100%
B	49%	8%	12%	10%	16%	5%*	100%

備考　A は延總面積約 10,000 坪を超ゆる大百貨店
　　B は 〃 2,500 の中百貨店
　　＊は賣賣室を含まず

ンに於て具體化することが出來ればと考へられ、反之設計者に百貨店經營の智識が豐富でその設計に自然と經營の諸點が具體化されればと思ふが各々專門的智識で兩者を兼備する者なく、一が他を助け即ち經營者が設計者を助けて設計を進む可きものであり、この點に於て設計はこの兩者の共同作品なりと斷ずるのである。或百貨店の建築を見るにこの經營者側からのヘルプが不充分なりし爲の失敗を表はしたものがある。百貨店に於て最も主要部分を占むる賣場に於てもそれを建築だけとして即ち賣場及び商品配列を爲さずして見た場合は寧ろ異據のものであつても商品の陳列を終へて開店した場合賣場としての價値大なるものであつて欲しいのである。私は百貨店の賣場に於ては商品のみを感ずる賣場、建築を感ぜざる賣場を求める。或る百貨店經營者はその設計を專門家に委ねず自己の店舗の設計を爲し得るものは自分のみと云はれたとのことを耳にしたが、少し極端と思はれるが一部の眞理も認められるゝものである。從つて設計者は先づ百貨店に關する一般常識を得、經營者からの各種の註文を理解し得ることを要するのである。

他方建築工事に付ても設計者と請負人との共同作品なりと云ひ得べく結論として建築は設計者、經營者、建築業者の共同作品なりと考へるのである。

經營設計及經濟設計をも要す

設計上、技術設計に對し經濟設計なるものを考へ度いと思ふ。前述設計を設計技術者と經營者の共同作品なることを述べた點より見れば、設計には技術設計と經營設計あるを考へ得べく、更に此處に尙經濟設計なるものを加へ度いのである。言葉は不適當かも知れないが、此處に經濟設計の意味は費用の問題であり之を分ちて建築費(諸附帶工事費を含む)と建築並に諸設備に關する經常費(Running expense)とする。

船舶設計の場合には設計技師は技術的設計は勿論その乘客、貨物の積載量並に速力、更にそのランニングに要する諸費用等にも算定する樣卸いて居るが、百貨店建築の場合に於ても設計と經常費との間には密接なる關係存するものなるを以て、諸機械設備の場合にはその經常費をも算定するを要し且つ、例へば小さい例であるが、眞鍮の棒筒に付ては其磨き手間を作ひ人件費を要する等の點を考慮し諸材料の撰擇に於ても注意を拂ふ可きである。

工業は商業に比し常に進歩的であると認められ、前者に於ては既に相當古く原價計算の點が研究され諸原價費の無駄なきこと、低廉なることに注意されて居るのであるが、現在百貨店に於ても相當進歩したる會計制度の下に諸原價計算を明にして居る。建築費は百貨店資本の比較的多くの割合を占むる固定費であり、從つてその營業原價に重大なる影響を及ぼすものなるを以て建築費に支拂はる可き金額にも營業に及ぼす負擔の見地から最高限度を考へ得るのである既にホテル經營に於てはその室料を基調としてホテル建築一坪に投ず可き費用限度を云はれて居るのであるが、オフイス、ビルデイング百貨店建築に於ても同樣のことが考慮さる可きである。

建築並に附帶工事費がその事業に對する負擔程度を測定するにはこれを家賃に換算するを便法とする。即ち金利償却等を定め且つ建築及び附帶工事に關する經常費を加算して、一ケ月坪當り家賃該當金額を算定して參考に供するのである。

建築及び附帶工事の償却法には一般償却方法と同樣に Straight-line Method. Reducing Balance Method. Sinking Fund Method. 其他專門的には各種の方法があるがその何れによる可かは別問題としても、單に建築及び附帶工事費を一括して償却方法並に償却年限を定める事を避け、附帶工事に關する各種設備は勿論建築主體工事費に關しても償却の見地から之を分解し各部分に付て適當なる償却を試むを至當とする。例へば百貨店の床に付ては之を建築主體より切り離し建築主體より短き年限に於て償却なすを適當とす。これ等の問題は私の所謂經濟設計の內に含まる可く、又經營設計の一部とも考へ得るのであるが、その解決には建築に關する專門智識を要す可く、廣義に解したる設計技師のファンクションとも認め得るのである。(完)

商店街と商店建築

吉田享二

我國各都市の一般商店建築は逐次建替えられる事であらう、正に商店建築は今後我建築界で重要なる物として考えられなければならぬ、都市構成の上に與へる影響は今更言ふ迄もない事である、我國は商店經營上から見て又商店や其内容から考へて歐米とは趣を異にして居る點が多い結果、商店建築の研究は實に將來に待つ事が多く建築界に趣味深き問題として考へられなければならぬ。

商店には種類が多い、我國特有の商品も多い、歐米都市に於ても花屋、肉屋、魚屋、或自動車の如き大型機械商の如きは一般商店とは趣を異にして居る、ベルリン市の卸商店街の如きも亦他の商店街とは其外觀に大なる相異がある。

我國にはえりや、すしや、茶店を初め特種のものが多い、是等を今現代の建築として取扱ふ場合、只に建築的の技巧でなく在來の氣分を失はない樣に店頭計劃に考ふべき事項が少くないのである。

但し商店建築が都市構成の大要素でありとすれば只に個性の發揮に專心して周圍との調和或は對照を等閑視した場合、其都市美を損する事何人も氣付き居る事である、而して現在の我都市に共例の多いのは甚だ遺憾の事である。

□

是れは建築家は勿論、我商業界に商店建築の研究智識に乏しいからと見る他はあるまいと思ふ、何れの都市の一流の商店街も建築物として必ずしも目をひく物が多いとも思はれぬ内に周圍にシックリとした調和がある事を認める。我都市に於て今日眞に心地よき商店街があるであらうか、自分は常に商店街の親しみを思ふ時、寧ろ大阪、京都の在來の商店街に言ひ現はし得がたい懷し味を感ずるものである。今日の銀座の通り以上に過ぎし以前の銀座街に心殘りを感ずる、倫敦のボンド・ストリートや巴里のル・デラ・ペーや伯林のフリードリツヒ・ストラーセや何れにも又是れ等と同じ氣持の憧れがある。

都市として此憧れの生ずる何物かをつかみ度いのである、勿論或一二の優秀なる店頭あるが爲めに其商店街を引立てる事はあるが都市の愛着も亦民衆の力に依つて生ずるものが強い。自分は此點に於て今後商店建築は個々の問題に加ふに其都市の計劃に今日以上に注意を拂はれん事を望むのである。是れには我現狀の如くボツリ、ボツリと建築或は改築されるものには至難事であるから共同的の研究を必要視するのである、關東大震火災の後、東京商工奬勵館當局の方に此意見を提出した爲めに自分は商店建築の講師として連續講演を依頼された事があつた、爾來自分は此種の問題に深く興味を有するものである。

□

最近尙市街地の有志の集合で建築的智識を得んが爲めに建築家の意見を求められる事を見受ける、特に東京の如き銀座に對して起れる新宿街の如き兩商店街に總括的の競爭的氣分を生じ茲に個々の問題を放れたる市街の集中經營に心を引かれる傾向に至つた、各都市共に此總括的共同研究の盛ならん事を望むのである、是れには必ず建築家が中心であらねばならぬ、茲には大都市計劃の問題は無論として一商店街の問題として言ふので直接、商店建築に關係あるのであるから經營者と建築家の共同的善意、純眞なる研究で事足るのである。

我商店建築界に望む事項は多い。何れも陳腐なる意見であるが實社會に對して尙大に考へなければならぬ事の餘りに多すぎるのである。

□

今茲に自分の希望する所を二三擧げて見よう。

(1) 都市計劃上商店街は歩道を廣くしたい、則ち車道に對して歩道のせまい事は東京の如きに其例が多い、眞の商店街としては電車は邪魔とも考へられる、自分が大阪、京都の憧れは電車のある通りには少ない。自分は電車廢止論者でも無いが餘り歩道のせまい通りは不快である。巴里は勿論英國の様な古い町で比較的狹い車道で比較的廣い歩道を見るではないか。

又出來る丈歩道の傾斜は避けたい、自分は一度經驗して以來今日の都市道路計劃に歩道面と車道面を平行せしめて小傾斜をとられる事があるが之れは商店建築には甚だ迷惑である。則ち小傾斜の場合は車道には止むを得ぬとしても歩道は出來る丈垂平面にする事、そして一區劃毎に上げればすむ、車道と歩道との高低は多少の變化あつて差支えるものでない。

(2) 我現狀で建物の高さを統一する事は不可能であらうから店頭の高さを大體に整えたい、之の最も整然たるは伯林市街であらう。10～15 cm の高差の爲めに實に雜然たる感じを與えるではないか、特に間口の狹まい敷地も其店頭を獨立に取扱はず一般に整える時は氣持よく取扱ひ得るのである、大體に或線が一本通る事に依つてすら材料は異つて居ても統一せる好感を與える、我都市は一般に餘り區々の現狀ではないが、しかも何かお祭事で町を裝飾する時は各々統一せる意匠のもとに何物かを列べるではないか、あの整然たる氣持をなぜ日常取入れないのであらうか。

(3) 店頭の意匠に於て第一階の外壁の材料取扱を注意して內外の區別を氣分の上に除去したい、商店の前を通つて店內に入ると言ふ氣持を出來る丈薄くして商店街を歩行する時室內を歩行するが如き感を持たせたい、夜の商店街は照明に依つて此氣持を取りやすいが白晝は建築的の取扱ひに待たなければならぬのである、此點に於て倫敦のオツクスフオード・ストリートは慥かに成功せるものと思ふ自然歩道の表面仕上も亦考慮しなければならぬ、粗惡なコンクリートブロックに限られては面白くない。外壁も頑丈なる石材やタイルは面白くない、此點に於て商店建築の計劃は第一階丈は全然別に考える事が必要となる、一般に立面計劃に於て店頭上と店頭部分とは別に考えなければならぬ、我國の商店は店頭の部分の埋もれたる感じのものが多い、地平線を今一階下げて其間に店頭を造りたい様な感じのものもある。

(4) 我氣候から考えて出來る丈開放的にしたい、商店の種類にも依るのであるが、在來の我商店建築の傾向から見て歐米以上に開放的である事は必要である、歐米でも魚肉屋の如きに思ひ切つて開放的なものを認める、東京神田の古本屋街の如きは全く開放的である。但し此場合は外の氣持を室內に取り込んで內外の區別が無くなつて居る、或は之れも一面考えさせられる點が無いでもない。

(5) 其他材料の撰定を一般建築と店頭とは考をかえなければならぬ、厚板硝子を採用して今尙一般に粗末なる取附け法のものが多いから、破れ易く、くもりやすく、商品が損傷し易い事もある、今尙店頭專門の施工者、材料商に乏しい様に思ふ。

(6) 我國の營業時間が歐米と異なり夜間も日曜日も通しである、自然夜間照明の問題が重要視される、幸か不幸か街路照明が比較的に暗いために店頭內が目立つて居る、ネオン・サインは目下盛に流行して居るが、今後尙進んだ意匠のものが我國にも見られるであらう、東京には此頃建築がランプかランプが建築か區別しがたいものすらある、兎に角營業時間が世界的に長い我國では、夜間を最も重要視しなければならぬ狀況にある事を考えなければならぬ。

□

以上の諸項を希望の一端として擧げて見た。何れの國にも都市の特異性があり其が多く商店建築並に經營法に依る所が多いのであるが、個々建築のみで解決し難い諸點を總合的に解決せなければなら

歐米の店小觀

津田鑿

ぬと痛感するのである。或人が奉天とハルピンを比較して何故ハルピンは如何にも商店街らしいのに奉天は個々の家は別として町としての氣持に物足らぬ所があるであらうと言つた、則ち歐米に比して我建築が決して遜色の無い事は確信するが、何故我商店街に物足ぬ感じがあるであらうかの質問と同じ意味であると思ふ。

我建築界は各都市の商店建築の將來を豫想した場合、必ず賑はしかるべき一面を持つて居る、世界に冠たる我國が此種問題丈取殘されて進む筈がない、其に大なる責任を感ずべき一面でなければならぬと思ふ。

（期限を過して周章記す）

（一）『ショウウインドー』店先に陳列してある品物は、えて割合によく眼につくものであり、又そうなるのが『ショウウインドー』の使命を發揮するのである。そこで陳列棚に載せてある品物を希望するとき取りやすいように棚全體蝶番で內側に開くようになつて居るのを『スイツル』で見受けた。これは頗る便利で賣り手も買手も甚だ都合がよい。

（二）往來から地中室の陳列品を見易きようにしてあるのも一つの方法、又一階の窓下に凹所を設け通行する人の眼につく樣に之れを小陳列場所にしたのもよき思ひ附きであらう。（巴里にて）

（三）個人の經營では百貨店式に何にから何まで揃える譯には行き兼ねる。そこで隣家と始めから談し合の上交通出來る入口が設けられて、自分の處にないものは相當お隣りでお間に合せするからと態々案內をして、客は結局なにがしか買わされる事になるのは、便利でもあり又何んとなく安心が出來るような氣がする。勿論反對に悪い店が結托したものは論外ではあるが、お互に正直な店なれば必ず繁昌疑ひなしであらう。之の方法の店を巴里で見た。

（四）店先きの改築の盛んなのは『マルセーユ』であらう。ベルリン、巴里、ロンドンでもかなりやつてをるが、顧客吸引策として時代の要求は、店を相當飾り、在來古ぼけた店舖をうんと日新らしく新式で行こうと云ふようである。それで必要の店の部分丈け思ひ切つた改造に建築材料の性質を極度に活し、濃厚過ぎる彩色繪畫に、彫刻に、硝子に、金枠の細工に、又意匠に飛び放れた費用を惜まず、實施後の形は建物全體に甚だ有難くない。今假りに五階建てのある建物の一階丈け馬鹿に意氣に改造せられたとすると、殘りの四階との對照の差は頗る不調和になり吾々には全く感心出來ないが、時代の要求は商略上不得止實用化として涙を拂ふより しかたない事であらうか。

此れは『マルセーユ』で聞いた話なれども、商店の利益に對する課稅の內に、利益を店の設備改築に使用した金額は免稅されると云ふ事で、之れが一面爭ふて店を立派



第一圖「ベルリン・ガイサリン」通り一階の店改造



第二圖 巴里「エトアール」附近左側二三の一階店の改造

にすることになり、他面知らず知らずに若干市街の美化にも及ぶと云ふ事であつた。其の政策の良否は暫らくとして最近思ひ切つた改築振りである。

（五）崖地を巧みに利用した店　東京で手取り早く説明すれば、お茶の水橋畔の川に面する敷地に店を造ることで、道路に面した方は一階又は二階位の必要に止め、崖下に階段を増して、つまり普通の敷地と逆に行くのである。昇降機の利用容易なる今日別に不可思議ではないが良き思ひ附きである。之は『スイツツル』『ルザンヌ』にある崖地をうまく利用した店で、崖地に芝或は樹木でも植込み、小公園の様にでもなつて居れば格別、塵芥溜又は面白くもない石垣などよりは、適當の建物のある方が考へ様では風致を増すようである。そうして頗る有利である。假りにお茶の水の敷地とすれば、省線から眺めた場合、現在のきたないはげた崖地は一變して中々面白い事になると想像出來る。敷地利用上、中流向きのデパートには一考の價値ある事ではなからうか。

（六）彩光の爲め床に硝子を嵌めたものは店の中では何んだか地中室のような氣がして歩くに堪だ具合が悪るい。尤も透明ではないにしても又下から人が見上げてをる譯でもなく、尚實際買物に行きそんな餘裕もなからうが、足ざわりと氣持の具合感心出來ない。之れは『マルセーユ』の或横町に出來た新式の百貨店にて

（七）廻廊式になつてをる人道の上に屋根ある上海、香港等の町の店、又巴里のルーブル博物館の横町、其他にある片側店は『アーケード』より大に落付いた氣持になる。之れは片側店の特長で何んとなく緩つくり買物を見出す事が出來る様に感ずる。北國の高川や新潟の町にある『ガンギ』は單に雪を除ける爲め計りでなく店先きの上に屋根のあるのは必要で、多少薄暗いのが却つて品物によつては大に品位を高めよく見せるのではなからうか。尚店先きに屋根あれば雨、風、雪、炎天の日などには可なり通行する客には便利である。

（八）『ベルリン』の百貨店に入口の横に『レストラン』直通の階段と『エレベーター』があつて店の中を通過せずに食堂に飛び込めるのは便利である。勿論戸を押せば店にどこからでも出入自由ではあるが、大抵の場合陳列場の中を相當廻つてから食堂、喫茶室其他直接店と餘り關係のない部分をまご付きながら探すものであるが、始めから直行さるゝ事は大に便利である。



第三圖 「カイロ」新市街廻廊内片側店

（九）『シスコ』にある百貨店の書籍部には場所を充分廣く取り長椅子、テーブル、小椅子を初め書棚の配置よろしく、本を緩つくり讀んでから買ふ事が出來る仕組になつてをるのは大に心嬉しい。書棚に無暗と詰込みならべてあつても却つて賣上げ高はどんなものか商品の性質をよく了解して夫れ〳〵の設備に應ずる處は流石に偉い點である。

（十）『ローザンゼルス』は自動車の街である。一人當り二臺を所有すると謂れて居る位盛んな處で

陳列窓の反映現象に就て

プトノキイ
野地修左 譯

あるが、便利の裏面に自動車で用を辨ずる事が又一つの惱みを生ずる。それは交通整理上無暗と町の眞中には留めて置かれぬ。買物をする人が大抵自動車を利用する爲め裏通りに車を止めて必要の店迄テク〳〵歩くのは相當難物、時代錯誤すると云ふ點から、新らしく繁昌しようとする場所では、始めから五六軒の店が聯合して店先に自動車を横附けになし得べき空地を取る。つまり建物を後退させて建築すると云ふことになる。そうすると顧客は自動車を店先迄横附にして自由に買物が出來双方都合よく其の成績も可なり良いとの事で續々と其の新らしい方法の下に店舗を造るそうである。活動で有名なハリウード附近には盛んに之の式が流行してをる。自然の要求は如何にも尤も千萬の次第である。但し之れは地價の無鐵砲に高い處では一寸考へものであるが。

（完）

近時商人は宣傳効果の立場より陳列窓に對してなさるゝ根本的にして自明の要求が單に滿たさるゝのみで滿足せず、進んでこれを近代的に取扱はんとするに當つて生ずる諸種の問題に今や忙殺されてゐる。又如何にすれば誘發的に陳列し得べきかの問題にのみ專念するのではなく、むしろ如何にして裝飾創作の眞の効果を擧げ得べきか、換言すれば晝夜共に道行く人の注意を惹かしむべきは勿論、特に夜は人工照明の助けによつて美的効果を更に增大せしめ得べきかに懸命の努力をなしつゝある。更に又陣列窓に生ずる反映の問題も益々商人に深い關係を有するものとなり、從つて又日中陳列品を眺むる場合に甚しい障害となる。此の現象を如何にして除くべきかを考究せねばならなくなつたのである。此の反映問題に關してこゝに紹介し得べき適當な改善方法を望み得るならば恐らく全然改築せんとするものも相當出るに違ひない。此の根據のもとに陳列窓を新築し又改造するに當つて、此の反映現象を最小限度となすために、光學上考へねばならぬ點を次に述べて見度い。

平滑な表面を有するものの反映を起すことは衆知の事柄である。表面の平滑なもの程、表面の反射光線の大なるもの程、反映像は明瞭に表はれる　此の點より云へば投射光線を實際的に殆ど全反射してその映像を我々の眼に映ぜしむる鏡が最も完全に働くものと稱し得るのである。透明な硝子板もその平滑な表面に同樣に反映を生ぜねばならぬものであるが、實際に感ずることは極めて稀である。それは反射光線は投射光線の約八パーセントに過ぎぬ事實と、板を通して見る對象は板に生ずる反映像より著しく明瞭にして、從つて反映像を全く認めざるか或は極く僅か認め得る程度である事實とに基くものである。此の現象は例へば日中住宅から窓越しに街路を見るようなもので、若しこれに反して街路から室内を窺き、又黄昏時列車中で外界の景色を眺めようとすれば車内の反映像が景色よりも明るいために此の現象は認められない。

故に窓硝子の反映現象は板に生ずる反映像が、板を通して見ようとする對象よりも明瞭な場合に、何れも障害となるものである。

◇

陳列窓に於ては、それ故、陳列品を外より眺めようとする場合に障害となる反映像のみが自然問題となるので、こゝに於て陳列窓に反映する對象、例へば向側の家の正面の如きが、窓中の陳列品よりも著しく明るい光を有する場合に注意する必要が起つて來るのである。從つて普通の狀態から云へば——若しも窓中の對象の反射能力

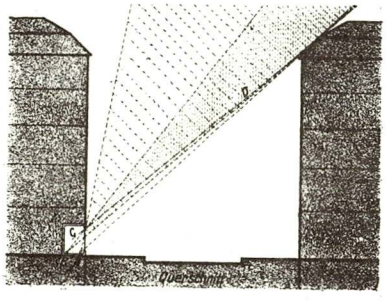
が反映を生ずる反射象の表面の反射能力より著しく高いと云ふのでなければ――日中常に反映像を生ずるものと豫期せねばならぬ。

こゝに反映像を減少せしめ得べきことは以上の現象より直ちに了解し得るであらう。對側の家の光度を減少し、陳列品の光度を增大することは極めて有効な方法であるが、對側の家の反射能力を減じこれが投射光量を減ずることは共に不可能であるから、陳列品の光度を高むることが唯一の方法となるのである。陳列品の反射能力に關してのみ云へば、反映矯正の第一可能性は日光を出來る丈窓中に射入せしむる點に有することが知らるゝであらう。

◇

第一圖は日光の投射關係を示すものであるが、これによつて陳列窓の上部は窓內の採光に對して極めて重要な役目を演ずるものであることを知ることが出來よう。即ち通常の陳列窓に於ては硝子板の近くにある對象は(A點參照)全板を通じて射入さるゝ直接天光を有して居るが、後方の陳列品は僅かに(B點參照)板の上部丈を通過した光を受けるのみである。後壁の前方に視野の最も重要な中央部分に生ずる反映像が最も障害になるのであるから、陳列面の後部特に後壁は反映防止の上に最も重要なる部分である。床上の最も明るい陳列品は、比較的暗い從つて餘り邪魔にもならぬ鋪道の映像で覆はるゝのであるが、比較的光の弱い後壁には強い光の天の一部の映像と、直接太陽光線に熱せらるゝ對側の家の正面の著しく邪魔になる映像とが生ずる。そこで後壁に出來る丈光を與へるといふことが問題となつて來るのであるが、この事は陳列窓開口の最上層を光が遮ぎるものもなく通過し得る時に始めて望み得るものである。

第一圖



AB

こゝに第一の要件として

硝子窓は出來る丈高く、天井迄達せしめ、又陳列床の後部に光線の達するのを妨げる上緣及無用の裝飾と庇とを排すること（例へば光の餘り通過せぬ硝子板の小面積に上層を分割するが如き）

第二の要件としては

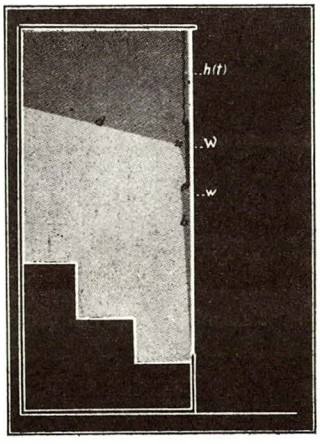
最も反映像を生ずべきおそれあるものとあつては。從來陳列窓の前上部に設備した通常の照明裝置を排すべきこと。

◇

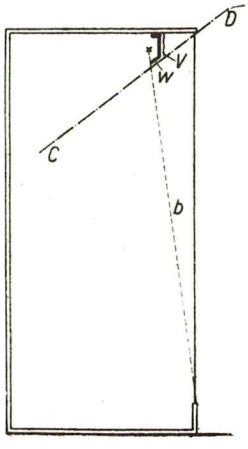
第二の要件に對しては第二圖に示すが如く照明裝置を低めるか、第一圖のC―D線即ち屋頂と窓楣とを結ぶ線內にすべての照明裝置を配置するかにある。（第三圖參照）

第一の場合には照明裝置を低めたために通常光線の充分な陳列床の前方のみが稍光を遮へぎらるゝに過ぎない。日中は後方より遙かに前方が强く照らされて居るのであるが、これがために床面の照明が或る程度迄均一となるであらう。第二の場合には天光の射入をも妨げらるゝこともなく、又適當な隔板(W)を用ひ、適當な電燈を選べば陳列窓硝子の前下部迄床面を照すことが出來るであらう。（第三圖b線參照　第V節は無趣味となる恐ある隔板を裝飾するものである）裝飾するに當つてはその取扱に注意を要するので、決して照明裝置の足部と陳列窓との間に、平かに垂れて邪魔な影の出來ないようにせ

第二圖



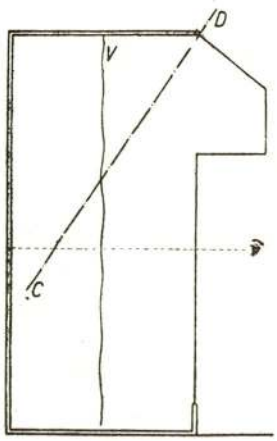
第三圖



ねばならぬ。

◇

次に陳列窓の開口は前面から入る光量を絶對的に限定する隔板となるものである點を一言して置かう。從つて何か外方に突出部、例へば天窓を附加して(第四圖)窓の内部に出來る丈多量の光を射入せしめようとすることがあるが、事實何の役にも立たぬものであるがこれに反して陳列窓の深さを淺めるのは比較的効果のあるものである。他に重大な條件のない限りC—D線が後壁を切るに際して、その切點を視點より高からしむるように、陳列窓の深さを決定するとよい。此の要件は既存の陳列窓に對しては姑息な手段ではあるが、疊み込み得る明るい幕を作つて、最も反映現象の甚しい時に下すようにすれば、容易に達することが出來る。(第四圖)然して陳列品は幕の面には豫め配置せぬことが肝要である。幕の後の陳列品が一日數時間陳列効果を失ふのであるがこの設備に多額の費用を要するわけでもないから先づ忍ばるべきものであらう。。



第四圖

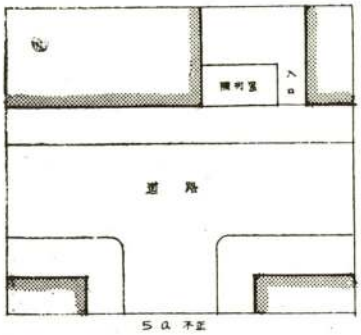
上述の事柄から店内の見ゆる陳列窓には普通の部屋の大さ、道路巾のものにあつても、店内の後壁には全く光線が射入しないから深い強い反映像が生ずることを知り得るであらう。

◇

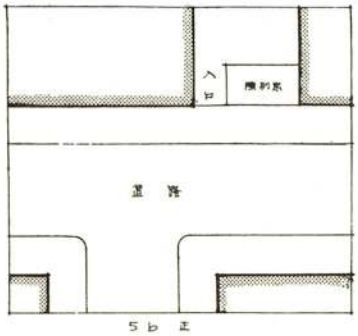
反映のおそれある場合には陳列窓の内部裝飾に特別の注意を要する。妨害となる反映像を減少せしめんとすれば、陳列品の明るさ、即ち陳列窓内の光度に關係のあるものであることを先づ知らねばならぬ。然して此の光度は投射光量及び陳列内部の反射光量に關係するものであり、然も陳列窓中に射入する光量を增大せしめんとするは容易な業でなく、又安價には取扱ひ得ざるものであるから、出來る丈明るい室内裝飾として室内の光度を成る可く高めるやうに力めねばならぬことゝなる。比較的反映現象の弱い時には此の方法で容易に改善の目的を達することが出來るであらう。(こゝに反映を生ずる木の磨きの如き表面は、人工照明をなせば不愉快な眩惑でない迄も、強い反射を生ずるものであるから、絶對に避けねばならぬものである)。

新築或は改築の場合には上述した諸點に加ふるに次の事柄に注意せねばならぬ。陳列窓の向側に輝ける家の外面、或は空地、直交する

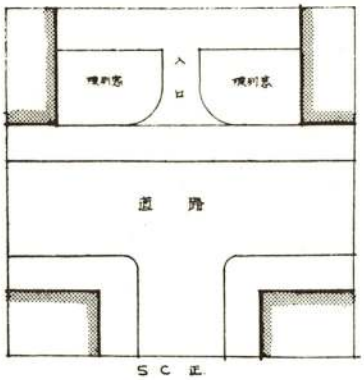
第五圖



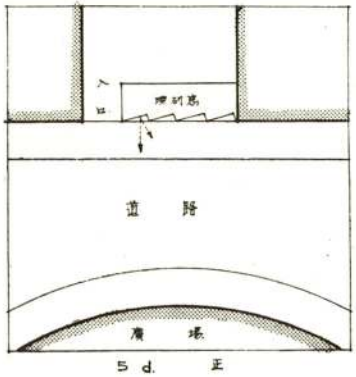
5a 不正



5b 正

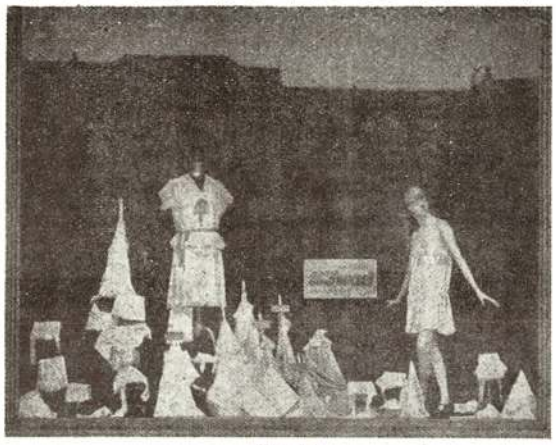


5c 正



5d. 正

第六圖　（説明は第六、七圖とも本文の終りにあり）



第七圖



る道路等の存在する時には、場所の許す限り、適當な位置に入口を設け(5b)或は陳列窓硝子の面を取ることによつて(5c)——場合によつては(5d)の如く——不都合な配置のものに比すれば著しく反映現象の害を減少せしめ得るのである。

◇

反映を一層減少せしめんとすれば、強度の人工照明によつて明るい裝飾と後壁との光度を更に高めねばならぬが（第六圖及第七圖參照）此の場合に要する强度は夜の照明强度の數倍を要し、且つ照明設備の計畫に當つてはその設備をなし得るや否やを豫め充分檢討する必要がある。比較的少い力で間に合せようとすれば、姑息な手段ではあるが、投光機によつて唯一つ乃至一小群の商品丈を照すのである。——又陳列品の小さい場合には陳列窓を極度に小ならしむるものである。何れの場合にも、經濟的の立場から購買力を大ならしむる全陳列窓の効果を、犧牲とせねばならぬのも、亦已むを得ない。第一の方法は第二に比して全然建築的用意を要せず又早朝及び日暮方には反映現象の恐れは非常に減少さるゝのであるが通常の陳列窓の照明設備によつてよく反映を堪へ得べき程度に減殺し得べきものであるから、全陳列窓を完全に効果を擧げしむることを得る大なる得點を有するものである。

◇

要するに陳列窓を計畫し、これを建設するに當つては充分反映の問題を考慮すべきで、反映減少の手段として以上述べたところを約言すれば次の數點となる。

一、陳列窓の位置を適當ならしめ比較的暗い部分にのみ反映を生ぜしむ。

二、硝子板を成る可く高くして多量の光線を窓内に射入せしむること。

三、硝子板の上部に透過率の小なる硝子を使用するをさけ又照明設備を設けざること。

四、陳列窓の奥行の小なるに從つて、日中後壁は强く照らさるゝ故、反映現象の恐をして小ならしむることを得べし。

五、裝飾、後壁、陳列品を共に明くして反映を小ならしむべし。

六、反映の大なる時は適當なる位置に强い照明設備をなすべし。

以上詳論せる注意とこれが適用とは——殊に新築の際には——所有者にも施工者にも不快な意外な現象を少なからしむる上に役立つものであらう。

（圖面説明）

第六圖　人工的照明を施さざる陳列窓（明瞭なる反映に注意）

第七圖　人工照明を施したる陳列窓（弱められたる反映に注意）

(Die Baugilde, 1930, Heft 1 所載)

商店と廣告

—主として夜間廣告に就いて—

星　廣文

今更言ふまでもなく街が明い程その街にある店が繁昌する。又同じ街でも明るい店と暗い店があると人間はどうしても明るい店の方へ吸付けられて了ふ、故に商店の繁榮を期する爲には先づ夜間の照明を豊富にする事を第一に數へなければならぬ。其の方法としては左の二つの方法である。一は連合街頭照明、二は各商店各々の照明を充分にする事である。

時代の進歩につれて世の中は益々多忙となり、商業街の主要時刻も晝間よりむしろ夜間に移りつゝある。この傾向も今後益々大きくなるものゝ様に思はれる。この重要な營業時間である夜間には照明が如何に重要な要素であるか今更言ふ迄もない事である。

○

一體に商業街で交通の閑散な所よりは繁榮な處の方が商業が繁昌するであらうとは常識からも判斷し得られる事であつて、商業街の繁榮は通行人員の多少によるとまで極言してゐる學者もある位である。街の通行者が多ければ多いほど店頭を通る人も多く、それだけ多くの人に店の存在を知られ、從つて賣上も多くなるが、通行者が少なければ少ないほど如何に店頭店内の設備がよく共その店頭を通る人も少く從つて賣上高も少なくなるであらう。



第一圖　最も効果的な建築化照明の一例
（但し本建築は外部の模様替をせるもの）
上野伊三郎氏設計

どの店も種々の方法によつて顧客を吸集しようと競走してはゐるが、是等は自己の商店のみを主眼とし何等の共同的意味を有せざりし、あまりにも偏狹的な方策である。

自己の商店の繁榮を圖らうとするには先づ自己の街全體の繁榮を圖るべきであらう。

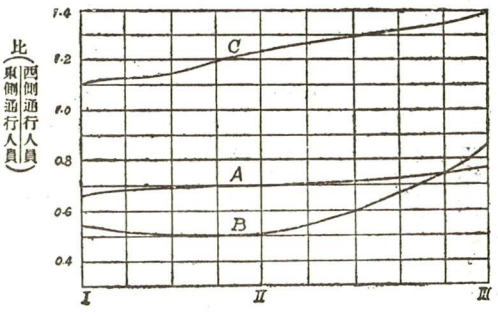
この方策として第一にあげ得るものは街路照明施設である、實際適當なる街路照明設備を施したるため商業の中心地になつた實例もある。これによつても明るい街には人が集る。街路照明はよき道案内者である。その有無良否によつて交通密度或はそれによる賣上が如何に影響するか二三の調査實例に付き示して見よう。

長野市中央街に於ける調査（東京電燈株式會社照明課調べ）
大正十五年十一月下旬

A　東西兩側點灯の場合
B　東側のみ點灯の場合
C　西側のみ點灯の場合

に就て各一日宛。午後五時に點灯して午後六時から八時迄交通密度を調査した。詳しい記錄を示す餘裕はないが、消灯側よりも點灯側が二百人以上（總通行人員の約三

第一表　街路照明の有無と通行人員



分の一位）も多くなつてゐる場合もある。

第一表はその調査の結果を綜合して圖示したものである。圖の横軸は街路上の距離、１２３はその實測箇所で、從軸は西側通行人員の東側通行人員に對する比であるAとBとを比較すれば、東側のみ點灯の際には如何に東側に人が吸收されるか、又AとCとを比較すれば西側のみ點灯の際には西側に如何に人が吸收されるか、明であらう。たとへば2の調査箇所に付て述ればAは約70％Bは約50％Cは約125％であるから西側點灯の場合には全通行人員の約59％が東を通り約40％が西側を通つてゐる。しかるに東側のみ點灯の場合には東側を通る人は約三分の二に增加し西側は三分の一に減少してゐる、即ち第一圖全通行人員の約8％位の人が西側から東側に吸引されてゐる。又西側のみ點灯の場合には東側を通る人は約44％に減じ、西側を通る人は約56％に增加してゐる。即ち約15％位の人が東側から西側へ吸引されてゐる事になる。言ひかへると東側のみ點灯によつて西側通行人員の約20％の人が東側に吸引され、西側のみ點灯によつて東側通行人員の約25％の人が西側に吸引されたことになる。これによつて見ても街路照明の有無が通行人員の多少に影響する處が如何に大きいか首肯し得るであらう。

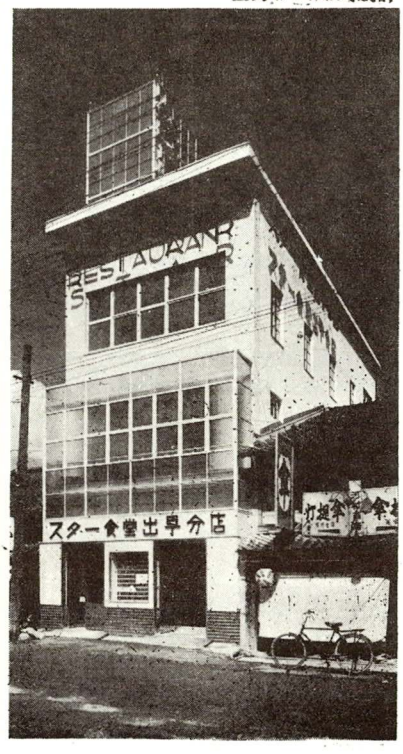
○

名古屋市に於ける調査（東邦電力株式會社管井氏調べ）

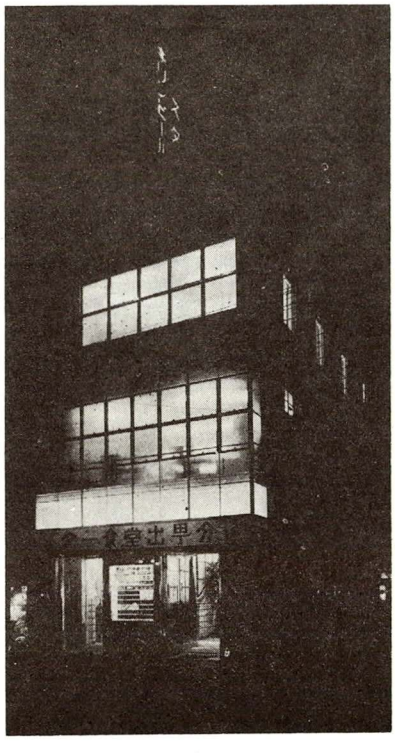
本調査は稍異つた資料である。名古屋市の十ケ所に就いて大正十四年六月二十八日から七月二日に至る五日間毎夜午後八時から九時まで調査し、各町の調査地點から四〇―五〇米宛を實地各戸に付いて看板、店内、門灯等の燭光、燈數を取調べ、此處に街路灯及び露店電灯に至るまで通行者に直接觸れる處の總計を各街に亘つて調査したもの（奥行の非常に深い店では七米（四間）以上の奥にあるものは通行者に直接影響しないものと見做して切り捨てたのである）を各戸間口の總米數で割つたものを照明を表す數値とした。

統計によれば日によつて大差のある街と差の少ない街とあつた、天候は主として曇天で最後の日は晝間二、三回雨が降り、午後九時

第二圖　最も効果的な建築化照明の一例（但し本建築も外部の模樣替をせるもの）
設計　伊三郎氏上野



第三圖　第二圖の夜景



過ぎは又雨となつた様な天候であつたために歩行者が少なかつた。通行人員は五日間平均をとつて第二表の様な統計を得た。

第二表（イ）

町名	建物總間口	米一燭光一時間當り	一燭通行員一時間當り夜人	一燭通行員一米當り人	摘要
新柳町四…七丁目	1057M	72燭	3.655人	51.0人	24M路名前小ふ巾線、驛廣言り屋りと道電あ古通路
榮町二…四丁目	610〃	161〃	7.162〃	44.5〃	
新榮町二…四丁目	435〃	56〃	2.189〃	39.0〃	
新榮町五…六丁目	740〃	16〃	729〃	40.5〃	
萬松寺筋	765〃	103〃	3.761〃	36.5〃	4M觀る街巾至に店半音商
大須門前	280〃	144〃	5.883〃	41.0〃	
南大津町一…二丁目	860〃	33〃	928〃	28.0〃	路、小路、あり廣岐車の電
平均				40.0〃	

第二表（ロ）

町名	建物總間口	米一燭光一時間當り	一燭通行員一時間當り夜人	一燭通行員一米當り人	摘要
大池町一…二丁目	505M	18.5燭	1.123人	61人	33巾車新屋大
大池町五…六丁目	460〃	24〃	1.592〃	66〃	電り古の
岩井町前線津町上門前	820〃	28〃	2.230〃	80〃	巾、あ名一路道米が設第道
平均				69〃	

第二表（イ）は公園線一直線で、名古屋唯一の大道路で巾員も三三米あり、一端は公園に接し、一端は最も繁華な大須近邊を控へてゐるために、一般に暗い割合に率はよいので平均六十九人となつた。

以上の統計によつて見ても如何に街の照明が繁華に影響するものが明かで、一時間七千人の交通のある榮町も七百人に及ばない。新榮町六丁目もその通行人員はその街の明さに比例し、間口一米一燭當り約四十人であることは暗い町も明るくすれば交通が頻繁になり、商業が發展することを示してゐる。假に街で共同して間口一米に付き十燭光宛明るくすれば一時間に四百人の通行を增し、大體この割合で增すものとすれば一夜約二千人一ケ月六萬人の人を町内へ吸收し得ることゝなるのである……。以上の如き實際調査により街路照明が如何に繁榮を導くよい道案内者であるかと言ふ事が明かにされた譯である。

以上の目的から店頭照明は店頭を明るくし、顧客の吸收と共に自己の店名及び商名を夜間ははつきりと明示するものでなければならない。

○

我が國の小賣商店は只單に建物の正面の一部に店名なり商店なりの看板を揭げるか、或は又醜惡極りなきブリキ製看板が臆面もなく屋根を覆ひ軒をふさいで居る有樣であるそのいづれにもせよ殆ど晝間丈のものにして夜間には何等の廣告價値もない、ポスター、宣傳ビラ、新聞雜誌の廣告、チンドンヤ、等……と遠距離射擊を盛んにしながら肝心の店そのものが夜間その存在を明示し得られないと言ふ事は餘りにも不合理な戰術であらう。看板……それは一つの商業美術として決して街頭の邪魔物であつてはならない。ぎり〳〵の經濟の中でも活動する新しい美學の立場でつゝましく微笑させる大衆の工藝であり、美術でなければならない。晝は美しき造型美術として夜間へ夜は全力を捧げて輝かしい光を流



第四圖　照明効果の完備せる店頭及店內の一例（食堂出入口）

動させよう。

○

最後にショーウインド、それは前述の如く買物（散歩）時刻が夜間であつたなら、その照明には特に充分の注意を要しよう。大商店には殆ど見受けないが、比較的小さい小賣商店で、ショーウインドや店内に盛んに裸電球をその儘點けてゐるのを見受ける。いくらまづい照明だと言つてもこれ位まづい照明は先ずないと言つてよい。之は電球から出る眩しい光が眼を射るため、折角陳列した商品も却つてその光のためによく見る事が出來ないのみならず、電球から出る光のうちに有効に商品を照らすものは極く僅かで大部分はショーウインドの外に洩れたり・不必要な箇所を照らしたりし照明能率が非常に悪い。それで專門の能率の良き反射笠を使用し、而も光が前に立つ人に見えずにウインドの前面に取付る、斯くすると眩しい光が眼に見えないのみならず、反射笠から出る光は盡く、陳列した商品を有効に照らす故能率も非常に良い譯である。

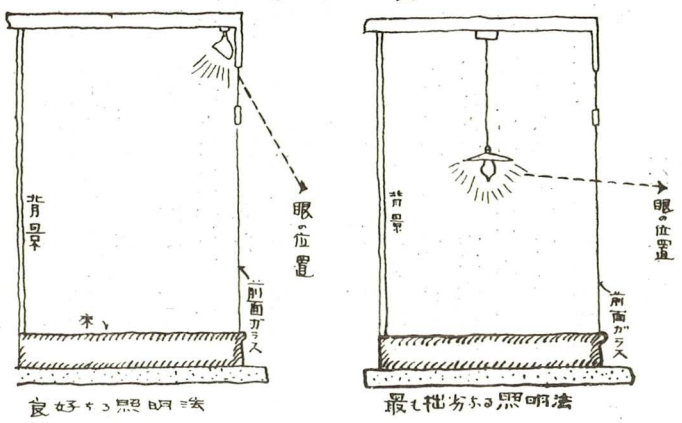
○

次ぎに背景を通して店内の明りが外から見えるのは甚だ拙劣である。晝間明りを取る必要のため透明の部分を置く場合には夜間店内の光が逆に飾窓に透らぬ様適當の裝置を施す必要がある。

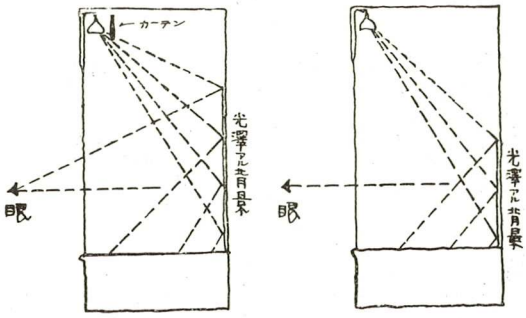
街路照明と同時に飾窓照明良否如何により賣上が如何に影響するか最近の調査實例を示して見よう某市に於ける商店照明効果調査實例。（東京電氣會社照明課小西氏調）

最近某市タケ屋洋品店、並に同市エンドウ屋小間物店の二商店に於て、實驗を行つて見たのであるが、左にタケ屋洋品店に於ける實驗に就て大體を說明する事にする

第三表



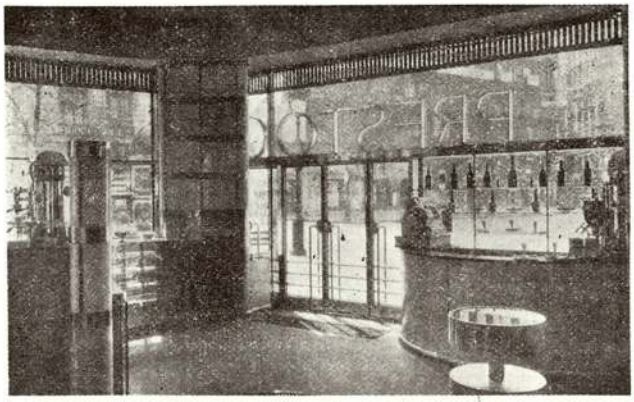
第四表



タケヤ洋品店は同市の銀座通りとも言ふべき町の中央にある一流の洋品店であるが、其の改良前に於ける店内の照明設備は、一流商店として誇るに足るものはないのである。

◆改良前の照明設備

燈數　店内四　一〇〇燭　二個
　　　　五〇同　二個
　　飾窓三　五〇同　三個



第五圖　照明効果の完備せる店頭及店内一例（入口出食堂）

使用電球　眞空タングステン電球
使用器具　アーセード（白色扁平笠）
電球總ワット數　五〇〇ワット
一ケ月平均料金　一三圓

實驗のために、右の照明設備を左の如く改良した。

◆改良後の照明設備

燈數　店内六　一〇〇ワット　四個
　　　　一五〇ワット　二個
　　飾窓六、一五〇ワット　六個
　二　ケース一二、二〇ワット一二個
四　使用電球　瓦斯入電球

使用器具　店内、高級グローブ　六個
　　飾窓、エッキスレー反射笠（ジヤック型）　六個
　　ケース、スクーペット（最小型エッキスレー）　一二個
電球總ワット數　二一四〇ワット
一ケ月平均料金　四〇圓八〇錢



第六圖　興行的にも最も効果的な建築化照明（入口劇場）

改善に要したる費用
器具費　四九三圓七〇錢
配線費　二五一圓六三錢
合　計　七四五圓三三錢

右の照明改善後、四月から九月まで、六ケ月間に亘つて、來客數、賣上の變化等に就て、詳細な統計をとつて見た。今其の賣上を前年同期間の賣上と比較して見ると、次の通り驚くべき增加を示して居る事を知る事が出來る。

六ケ月間平均增加率　四七・一%

（但し數字は賣上個數を示す）

月別	賣上增加率
四月	七九%
五月	四〇%
六月	四六%
七月	三八%
八月	三七%
九月	四三%

更に照明狀態の變化が顧客の集り方に、如何なる變化を與へるかと言ふ事に就き同じくタケ屋に於て、左の如き實驗を行つて見たのである。

（一）飾窓の照度を低くした時に窓に立つ人數の變化
（二）店内の照度を低くした時に店内に入る人數の變化
（三）ショーケースの燈を消した時に店に入る人數、及び買つた人數の變化
（四）看板の燈を消した時に店に出入する人數の變化

これ等の結果は、第五表の通りである。

右表に就いて見ると飾窓を暗くした二十六日には、飾窓に立つた人數が一〇四人から五一人に下つ

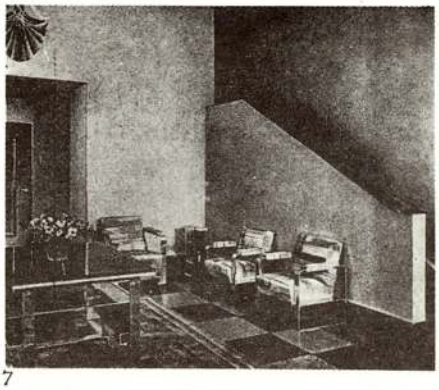
第五表
照明狀態の變化が顧客の集りに變化を與ふる調査表

月日	天候	照明狀態	窓に立つた人數	店に入つた人數	買つた人數	備考
七、二五	晴	平常のまゝ	一〇四	四九	四三	午後八時より一〇時に至る二時間
同、二六	同	飾窓を半分の明るさに	五一	三一	二一	
同 二七	同	同	五五	二七	二一	
同 二八	同	平常に復す	五七	三一	二五	
同 二九	同	店内の燭力半減ケース消燈	八〇	二三	二一	
八、三	曇	前上の外、飾窓を半分の明るさに	四五	一七	一二	
同 五	雨	平常に復す	四〇	一九	八	
同 七	晴	ケースのみ消燈	八〇	一六	六	
同 八	同	看板のみ消燈	六六	二七	二七	
同 九	同	同	六一	二一	二〇	

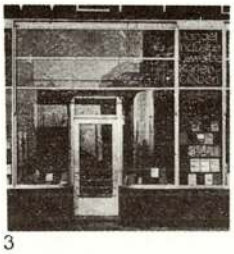
て居る事、店内燭力を半減した二十九日に窓に立つた人數八〇人に比し、店に入つた二三人と言ふ數が非常に減つて居る事。更に八月三日に店を暗くした上に、更に飾窓を暗くした結果四五人と言ふ少ない數が表はれて居る。而も店内に入つた人數は、たゞ一七人に過ぎなかつた事、更に七日にケースのみを消した實驗で八〇人窓に立つた中で、入店者が僅か一六人だつた事、而して實際に買つた數が入店者の半數にも足りなかつた事である。これは他に何にか原因があつたかも知れないが、天候を見れば八月三日、五日の兩日を除いては皆晴天であるから大體照明の影響であると言つてもよいと思ふ。前述の如き次第であつてタケ屋洋品店に於ては照明改善後、月々の電燈料は約二七圓八〇錢の增加は示して居るが、一方に於て毎月の賣上は、平均四割七分の增加となつて居るのである。今假に毎月平均賣上が三〇〇〇圓あつたとして四割七分增加すれば一、四一〇圓の賣上增加となり、電燈料の增加は全く問題とならないのみならず、照明改善のため要したる費用七四五圓の如きも二三ヶ月の中に償却し得るのである。斯の如く、此の實驗は良照明が店を繁昌にみちびく効果を雄辨に語つて居る譯である。

○

要するに商店を新築する場合は勿論、店頭、及び店内一部の改造でも看板屋や出入大工に任せずに專門建築家に設計を依頼する事が肝要である。多少設計料に支出するとも、建築費の節約と外觀の美のみならず、店内の設備一切其の商店に適當な建築をする事が出來るのである。（終り）


7


6

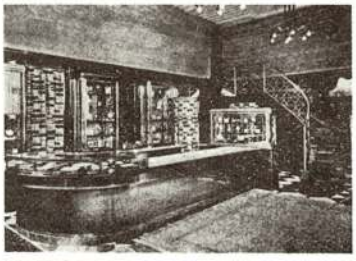

3





4　5


1


2



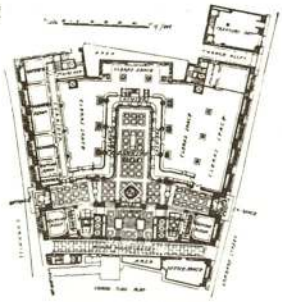
瑞西新小寶店 • 1–2 ルセルン市の時計及寶石店（設計　メーリー＋クレーブス兩氏）3–5 バーゼル市書籍店（設計　フオン•デル•ミユール＋オバーラウフ兩氏）　6–7 ジネーブ市衣裳店（設計　ギイヨネー氏）

切　取　線





1 2



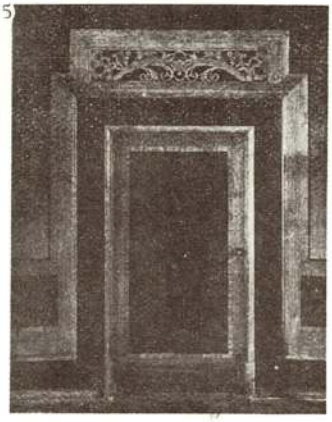
3



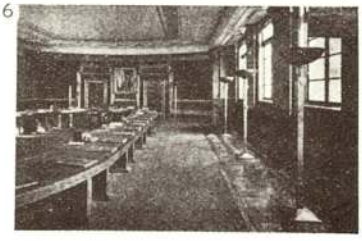
4



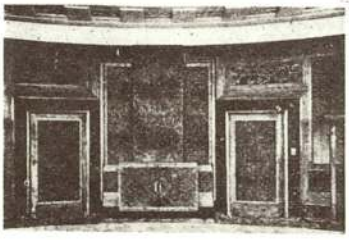
5



6



7



1 外觀（コーンヒル側）　2 平面圖　3–4 營業室　5–7 會議室

倫敦コーンヒルのロイド・バング本店（設計バーネツト＋キヤンベル・ジヨーンス兩氏）

切　取　線

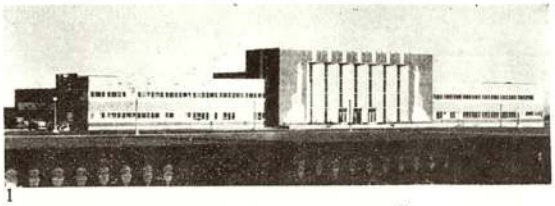
新刊　日本趣味を基調とせる　**最近建築懸賞圖集**　定價 70錢 稅 10錢

新刊　**世界最新建築圖集**　定價 50錢 稅 8錢

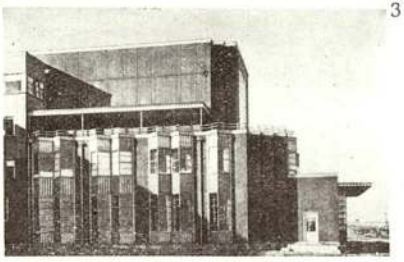
補增三版　**學校建築圖集**　定價 100錢 稅 18錢

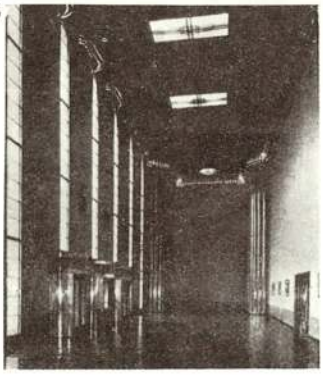
婦人と住宅知識　定價 100錢 稅 12錢

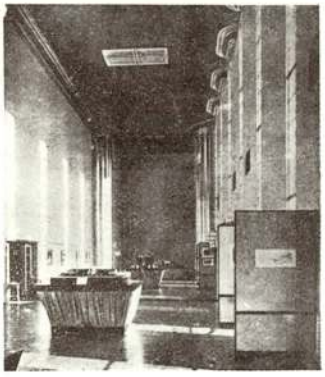
社團法人 **日本建築協會發行**　大阪西區大同ビル720　振替口座大阪39975　賣捌 丸善本支店 柳々堂書店


1


2


3


5


4

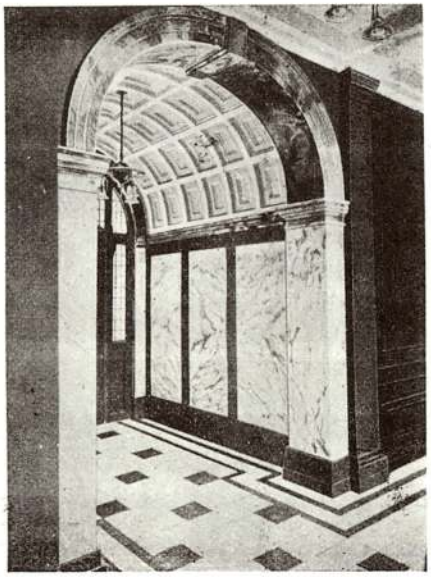

6

1−3 外　觀　　4−5 玄　關（陣列室）　　6 會議室

米國シカゴ『進歩の一世紀』博覽會の營理館　（設計　ベネット＋バーナム＋ホラバード氏）

切　取　線

DUNLOP RUBBER FLOORING

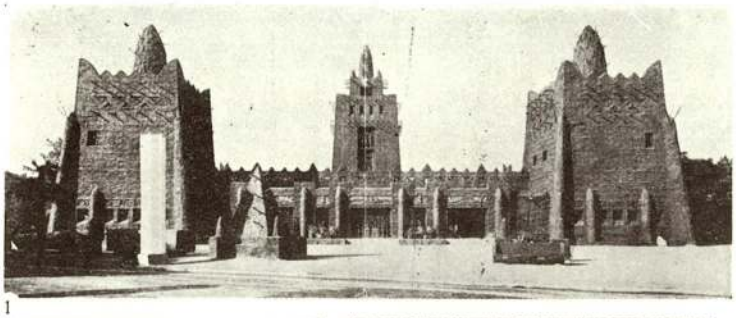




弊社製ゴム床敷は既に數多の官衙、會社、汽船並に諸家庭に敷込まれ、快適なる其の感じは御使用家各位の御滿足御賞讃を得つゝあります。
御必要に應じ何時にても社員を派し詳細に亘り御要求事項を御說明申上げます。

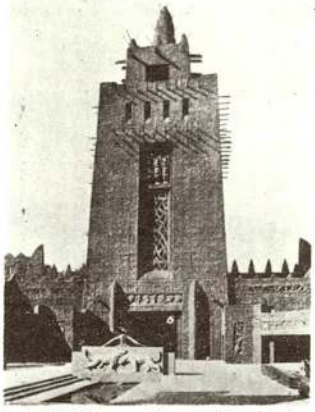
神戸市脇之濱
ダンロップ護謨（極東）株式會社
各地出張所

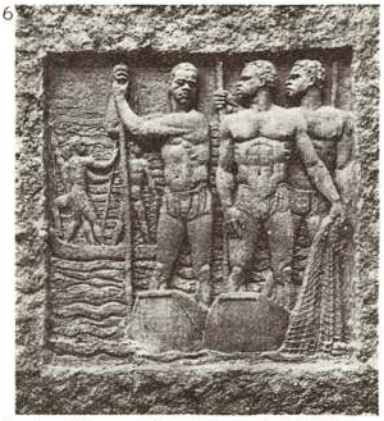
ダンロップ護謨床敷













1 主要外觀　2 中央塔(45米)　3 中　庭　4 陳列室　5 獅子噴水　6 浮彫『漁』(サラベヅル氏作)

佛國巴里殖民地博覽會『西アフリカ館』(設計オリビエ+ランベール兩氏)

切　取　線

純國産日金印シリンダー錠

シリンダー錠の種類及寸法

種類	寸法	ケース	バックセット	フロント
五〇一號	長	一四五粍	六三粍(二吋半)	二〇三粍(八吋四分ノ一)
	巾	九二粍		三二粍
	深	二八粍		
五〇二號	長	一四五粍	六七粍(二吋八分ノ五)	二〇三粍(八吋)
	巾	九四粍		三五粍
	深	一九粍		
五〇三號	長	一〇六粍	五〇、五粍(八分ノ七吋)	一四八粍
	巾	七〇粍		一二粍
	深	一六粍		
特殊安全裝置付五〇四號	長	一四五粍	六七粍(二吋八分ノ九)	二〇三粍(八吋)
	巾	九四粍		二五粍
	深	一九粍		
一〇二號	長	一〇八粍	六三粍(二吋半)	一五二粍(六吋)
	巾	八六粍		二五粍
	深	一九粍		



◆商工省奬勵金受領
◆優良國産品推奬
◆價格低廉機能優良
◆至便至利安全無比

◆合鍵絶無、盜難除完全
生命財産の安全無類
◆ボタン一つの作用にて
外部よりは鍵無くしては開扉不能なるも内部よりは鍵を用ひずして開扉自由なる故地震火事等の非常時に安全且便利至極
◆貸事務室、アパートメント、ホテル、住宅玄關、應接室用として絶好必須
◆不體裁なる棒鍵に代ふるに優美高雅なるニッケル製鍵となる
◆五〇四號は特殊裝置を施し安全の上にも更に安全の構造となつて居りますから重要室、玄關用として天鎖の扁音マスター鍵は御希望に應じます

特徴及用途

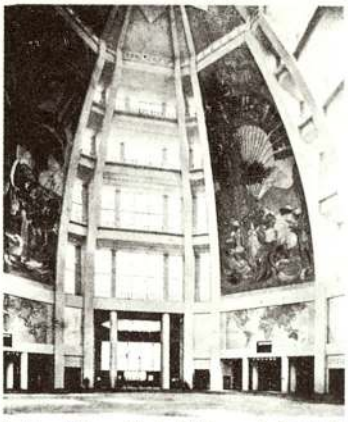


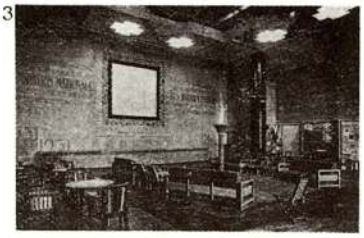
本社　大阪市西淀川區大仁東二丁目
電話土佐堀(41)五八五番二八五〇番
五八六番四一〇六番

出張所　東京市丸ノ内有樂町報知ビル
電話丸ノ内(23)四九七二番
三六〇四番

日本金具株式會社









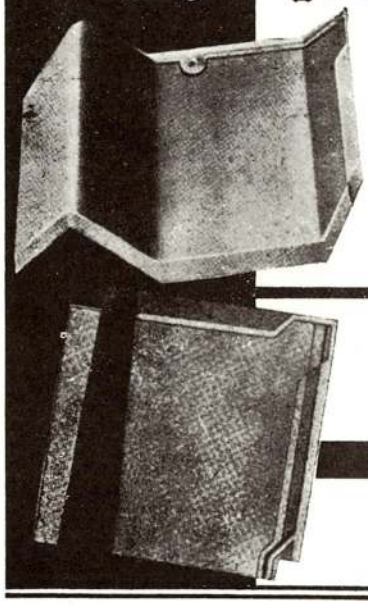




1 外觀　2 大廣間　3 休息室　4 傍塔　5-6『アンコール寺院』
『ラ・シテー・デ・ザルホーマシヨン』（設計 ブールゴン＋シユバリエ氏）

切取線

高松式昭和瓦



營業品目
各國産日本瓦
同色昭和瓦
敷瓦壁地張瓦
洋スパニッシュ瓦
伊太利瓦
フレンチ瓦
其の他瓦全般

製造販賣施工

高松菊治郎商店
大阪市末吉橋通四丁目三十一番地
電話船場(83)一四九番

代理店　工材社
大阪市西區京町堀通一丁目十四番地　電話土佐堀(44)五八〇九番


1


2

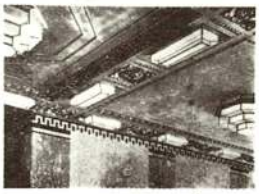

3


4


6


7


5


8

1 外　觀　2 主要入口　3 銀行營業室　4 廣　間
1—4 米國オハイオ・オハイオ銀行
（設計ミル＋ラインス＋ベルマン＋ノルドホツフ兩氏）

5 外　觀　6 廣　間　7 入　口　8 廣間天井
5—8 紐育フラー・ビル（設計ウオーカー＋ジレット兩氏）

最新發明　防水工事界之革命

專賣特許

セメファルトプライマーに就て

發明者　阪口芳三郎

防水工事の施工に際し從來アスファルトをコンクリートに完全に密着せしむるにはアスファルトプライマー（アスファルトを輕油等にて稀釋したるもの）をコンクリート面に塗布しこれに依りてコンクリートとアスファルトとの密着を容易ならしむる方法を採り來りたるも該方法は某國人の有する特許權（特許第四八六三號）に抵觸するものにして識者の等しく患ひつゝある處なりしが發明者は此コンクリート面にアスファルトプライマーを塗布する事の前述の如く既特許權に抵觸する事は吾が國防水工事界に於て由々しき問題なる事に留意し何等該特許權に觸れずして施工簡易なるプライマーを發見する事に努力し遂に今回優秀なる理想的プライマーの本邦獨自最初の特許權を獲得するに至れり。

一層有効且つ經濟的なるプライマーを發見する事に努力し遂に今回優

次に從來のアスファルトプライマーは次の如き缺陷あり。

1、コンクリートが完全に乾燥せざる場合はこれに塗布する事を得ず即ち水氣の爲浮上りてその用を爲さざればなり。（施工能率低下）

2、アスファルトプライマーは塗布後猶相當時間の經過を待たざれば防水工事を施工することを得ず。（施工能率低下）

3、アスファルトプライマー塗布後防水工事前に於て降雨等ありたる時は洗ひ流さるゝ虞あり。（膠着性不足、防水能力不備）

4、コンクリートとアスファルトとの密着度弱し。（膠着性小）

セメファルトプライマーはアスファルトと最も完全に融合する特性を有し且つ以上の缺陷を補ふべく案出せられたるものにして次の特徴を有す

1、特性　コンクリートに水氣あるもアスファルトを完全に密着せしむ。

2、施工能率の增進　塗布後一時間内外にて防水工事を施工することを得。

3、防水性　セメファルトプライマーはそのもの自身にて大なる防水能力を有するを以て塗布後降雨等の爲絶對に洗ひ流さるゝことなし。

4、膠着性　セメファルトプライマーはコンクリート内部へ迅速に浸透し、且其上に塗布したるアスファルトと强く結合する故にコンクリートと防水層とを完全に膠着するものなり。

5、施工簡易　セメファルトプライマーは淡褐なる液體にして乾燥早きが故に刷毛引きにて施工最も簡易なり。

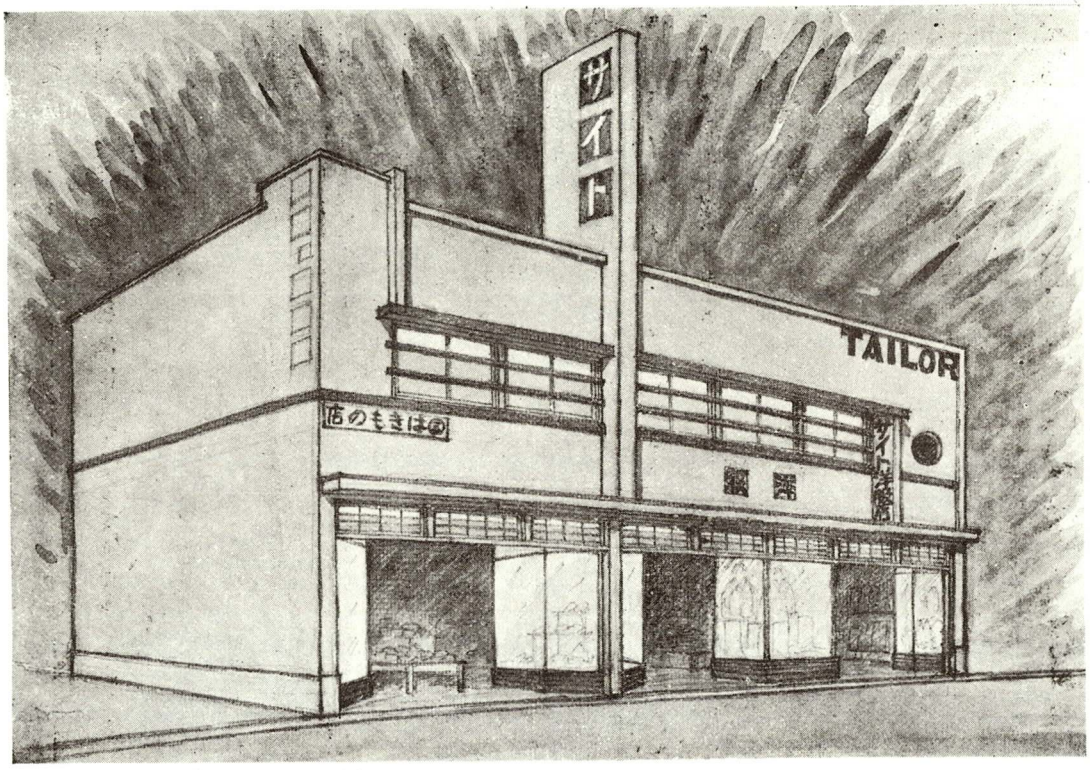
別途使用

1、本劑は防濕防蟲の特性を有するが故に建築物床下等に塗布すれば衛生上最もよし。

2、右の外（糊が非常によくつく）の特性をも有する爲リノリウム下塗布用として最も推賞さるべきものなり。

發賣元　工材社

本社　（大阪市西區京町堀通一丁目四〇番地　電話土佐堀五八〇九番）
出張所　（東京市芝區南佐久間町二丁目三番地　電話芝二五〇六番）



サイト洋服店（明石市東本町）

明石市に於て二百年の傳統を誇る商店の舊家屋を改築（正面）と改造（店內）したものがこのサイト洋服店であります、店は間口を七三として洋服店と履物店の二つに分れています、サイトと書いた塔の文字は照明により夜間兩方面より遠望できます、塔の高さは三十三尺。

ちなみにこの建物が日裏と道路巾の關係で寫眞がとりにくかつたので圖案にいたしました。

改築でモダーンとなつた商店の例

計設　宮　飼　克　二

吉祥山正傳寺

（下）

工學博士　天沼俊一

鐘樓（第三十四圖より第四十八圖まで）

本堂や庫裏に比べれば、鐘樓は遙に低く、今では畑中にあるが、別に位置變更の必要もないから、多分當初からのまゝ建つてゐるのであらう。第三十五圖でみるやうに、東側には丸太を集めてさしかけをつくり、上に生子板をのせ、其下で仕事をするやうにしてあり、南側には杉の枝を切つたのを束にして寄せかけ、其上から丸太を數本、勾欄又は柱へもたれさせて繩で縛りつけ、まるで物置同樣といふよりは、寧ろこれ以上に虐待してゐる。動かすにしても容易でなかつたから、最初は其まゝ寫眞をとつたが（第三十五圖）、餘り日陰になるし、全形もはつきりしないから、思ひ切つてとり片つけて、もう一枚とつてみたら（第三十四圖）、漸く珍らしい袴腰のところが見えてきた。尤も實は大騷ぎをしてどけたところで、屋根が生子板では、何としても殺風景で手がつけられない。けれどもこればかりは、急にどうすることもできぬから仕方がない。

最初の二圖は小さい寫眞ではあるが、袴腰がどこでも殆んど總て內方に反つてゐるのに、此は反對に起り上つてゐるのが目立つのである。鐘樓の初りはどんなであつたか、飛鳥時代の遺物がないためよく判らぬが、天壽國曼荼羅の一部に殘つてゐるのなどから見當をつけると、大分形式も面白かつたやうである　奈良時代のはないけれども、法隆寺西院のを以て代表させ得るかと思はれる。さうすると平安時代のが反てないことになるが、併しこれ等の乏しき遺物からでも、大凡の形の想像はつけ得、さうして其形式は一種であつたやうである。ところが鎌倉時代になると、東大寺の樣な頑丈な大規模なのと、法隆寺東院や新藥師寺の如き、謂はゆる袴腰付のと、形式に二種類できたやうである。後者はさうすると鎌倉に初めて見出された樣式で、或は例の禪宗について入つてきたのではあるまいかと思はれる。さうして割合に勢力があり、あちらこちらに採用され、江戸時代に入りては、廟建築になくてはならぬものゝ如くになり、單獨に又は鼓樓と竝び、通路の一側又は兩側に建てられたが、これ等はきまりきつて袴腰付のものゝみである（日光東照宮境內、朝鮮國獻納の鐘を吊つてある建物は四脚の寶形造でゐるが、あれは除外例で、ほんとうの鐘樓は鼓樓と相對して建つてゐる）。

此等の袴腰が內方に向つて反つてゐるのは殆んど通則のやうであるのに、此は外方に反つてゐるから、それで珍らしいと思ふのである。さうして出入口を少しく横によせてゐるところ等、小さい點まで計劃者の頭はよく働いてゐる。その出入口の片引戸は、とうの昔しに亡くなつて了つてゐるが、起つてゐるため第三十四圖に於いて、そこのところが面白く見えてゐる。

次に椽下の組物は、大きな建物になつてくると二手先位を用ふるのに、此場合はたゞ持送りをだしてゐるだけである。鐘樓其物が小さく、從て椽幅も狹い、だから人が此椽の上を歩くではなし、また歩けと言はれても這つてならとにかく、起てば殆んど頭がつかへてどうもでき

ぬし、先づ裝飾といつた部類だから、これ位のことでいゝのである。

此腰組代用の持送は、隅も平も妻も同じやうな繰形を有し、渦も若葉もついてゐるが、餘計でてゐる隅のは薄く、平と妻との短い方が厚い。これは反對にした方が合理的でもあるし、みたところもいゝと思ふが、なぜかさうしてない。其形は第三十九・第四十圖に明らかである。

第二十六・二十七・三十八の三圖は、主として勾欄を見せるためのものであるが、第三十六・第三十八圖によると、椽葛の上に薄い板が貼つてあるやうに見える。事實地覆は薄いので、第三十七圖では、可なり厚いやうであるが、之れは見下ろしたせいで、上端も見えてゐるためである。此は架木と共に、特別勾欄を形づくつてゐる。さうしてよく須彌壇等に用ひられてゐる略式勾欄で、平桁を缺いてゐる上にこれは架木も圓形ではない。親柱は四角で少しばかり型がくづれてゐるやうであるが（第三十七圖）、これは新しいものは皆かういふ工合である。さうして枓束も連葉束もなく、平では二所、妻では中央に一所、よく雛形本などの車寄の圖の、飛貫と頭貫との間にかいてあるところの蟇股と、其上の枓と、それに含まれてゐる繪樣肘木と一所にしたやうな、至極拙い融合式蟇股の如く、變つてはゐるが形はどうも感心できない。此勾欄は材料も異るし、大體に於いて隨分粗末だから、或はことによつたら後に變つたのかも知れぬといふ感がなくもないが、私はやはり當初のまゝと思つてゐるのである。

上層へでゝみると、何分小さい建築だから知れたものだが、細部に時代の特徴がでゝゐることがよく判る。構造は頗る簡單で四隅に圓柱をたて、上で頭貫を組合せ、柱上には枓尻に繰形のある大枓を置き（第四十一圖、第四十二圖）、平の方向には軒桁、妻の方向には虹梁を組合はせ、其高さの差を調節するため、桁の方向には繪樣肘木を入れてある。この繪樣肘木は、天竺樣からきたといつても唐樣からといつても、どちらとも言へやうが、側面にくり形がついてゐるところからは、唐樣といつた方がいゝかも知れぬ。とにかく簡單なものである（第四十一圖二・三圖）。

然るに虹梁の鼻は背が高いから、其まゝだしたのでは、どうしても恰好がとりにくい、そこで出たところは細工をして、下端に繪樣をもつた木鼻を入れ、そこのところを巧におさめ、少しも目立たぬやうにしてある。極く小さなことであるが、中々うまく取扱つてゐる（第四十二圖）。

頭貫の鼻は大していゝ形ではないが、相にく寫眞の方（第四十二圖）は一番先きが少しかけてゐるため、形が變つて見えるから、一層思はしくない。併し第四十四圖にかいたのと同じものである。これでみると上及び下から渦がほつてあるが、かういふのは既に室町時代からある式で、たゞそれに若葉をつけただけのことである。

然らば室町のものには、渦紋ばかりで若葉は絶對にないかといふと、さうでもなく、ずつと終りに近くなるとある。一例は土佐神社（高知縣土佐郡一宮村大宮）の建物に用ひてある虹梁袖切には、若葉附渦紋がほつてある。社傳に元龜元年の建築とあり、それでよささうであるが、かういふ工合に室町末の丁度桃山との境位だと、勿論あつて差支ない。併し普通は室町にはもつて行けぬ。此場合また然り。尤も土佐神社に於いて、かゝる部分は桃山時代の修理の際の補加かも知れぬから、さうだとまた問題が別になるが、今のところ私は後補とは思つてゐないから、それでこゝに例にひいたのである。

梁間に架渡せる大虹梁の內外面には、兩袖切のところに渦や若葉などが刻んであるが、之れが內外面共異なつてゐる。これは態々異ならせる必要もないところから想像すると、兩面とも同一にしやうといふ考へもなく、實はいゝ加減にほりだしたので、この樣な結果になつたから、そこでもう一本の方も同じやうにしたのではあるまいか、と思つてゐるのである。後に述べるが、北門本柱間の虹梁の兩面の繰形や彫刻が異なるのとはわけがちがふのである（第六十二・六十三圖）。果して偶然の結果ならば、此時代までも、この樣なこまかい所は、さうやかましく言はなかつたものと思はれる。第四十七・第四十八圖は其一例で、內外で斯の如き相違があるのである。さうして弓眉をとることは、或は當初の考へではなかつたのか、下の方に渦紋をほつておいて、後に眉

を削つたらしく、折角ほつたのをあとから弓眉をとつたため、削り殘りの部分が極少しばかり、虹梁側面と弓眉との境の線のところに見えてゐるから、かういふ風に考へてみたのである。第四十七圖の弓眉の下の方を少し注意してみると、削り殘りの渦紋が少し殘つてゐるのが判るであらう。眉を先きにとつて了へば、このやうなことには到底なり得ない。外部の渦や若葉は割合に巧（といふよりは寧ろ普通）で、內側のはこれに比べると遺憾ながら拙い。

其虹梁の中央には大瓶束がたててある。結果は甚だ簡單で、後に記す東門の夫れのやうに面白くはないが、形が割合にいいのと、それから勿論裝飾にはなつてゐるが、これよりかここでは、構造上非常に役立つてゐるのである。蟇股にしてみても、外觀は面白い筈であるのに、何故にさうしなかつたのであらうか、といふことを考へてみると、次のやうな理屈をつけることができる。

其理由は第四十五圖を觀れば略ぼ想像がつくであらう。左上から太い木が、棟木の下に棟木と平行して、半分虹梁に、半分大瓶束に入り込んでゐるが、此太い木からは餘り形のよくない寶永四年の鐘を吊り下げてゐるので、これに澤山の重量がかかつてゐる。今は知らぬが、以前はたしかに突いたので、ただ裝飾にぶら下げてあるのではない。だから充分荷重にたゆるやうにしてなければならぬ。其ためには兩妻の虹梁で此木の兩端をもたせる必要がある。之れには虹梁とあひ缺きにしたのではお互に弱くなるから、殆んど上にのせねばならぬ。さうすると鼻が外へでるから體裁が惡くなる、だから其鼻をかくすと同時に、虹梁の中心に於いて何等かの方法で化粧棟木を持たせねばならぬことになる。

化粧棟木をもたせるためには、蟇股をおいても、大瓶束をたてても よろしい。前者とすれば無論板蟇股で、彫刻入裝飾蟇股では、例へ荷重にたえても、見たところが弱はさうでいけない。そこで板蟇股としても、奈良時代のやうだと、それは甚だ容易であるが、當代のやうに薄くなつては、それは不可能である、尤も現在のやうに研究が進んでゐるか、或は餘程思ひ切つて其當時の形式を破り、用ひればよろしかつたであらうが、この時代には望めないことである。そこへ行くと至極適當なのは、後者即ち大瓶束である。太い頭丈な、この樣なのをたてれば、虹梁上へ充分のせ、束の中へも充分入れ、いくら劇しく鐘を突いても大丈夫のやうにできる。さうしたところで屋根は輕い柿葺だから、重量は知れたもので、容易に上の荷を受けることができるのである。

大瓶束上の枓及繪樣肘木は、柱上のと同じものである。これで夫れ夫れ化粧棟木及び桁を支へ、あとは踈垂に裏板といふ至極簡明な屋根裏である。枓といつても四本の柱及び大瓶束上（第四十五・第四十六圖）に一つづつ、合計六個何れも天竺樣系統のを用ひ、唐樣系統の大瓶束や木鼻に、和樣の柱垂等、三樣式の混淆折衷してゐるところに注目すべきである。

以上述べたやうな次第だから、屋根に生子板があてがつてあつても、遠方からみてきたならしい壞れかけた不景氣な建物だといつて馬鹿にしてはいけない。殊に吊つてある鐘は江戶時代の拙い形だから、ともすると建物迄を鼻であしらふ虞がないとはいへぬ。宜しく近づいて充分に觀察すべきである。

東門（第四十九圖より第五十七圖まで）

總門（第七十五圖）を入つて行くと、途中でみちが二つに分れてゐる。右をとれば庫裏の前へでるし、まつ直に行けば此門にでることができる。ところが今では實用にも何もなつてゐない、いつも閉切であるが、いふ迄もなく昔しは方丈への正門であつたので、此門を入つて眞直に敷石の上を行き、右へ曲ると方丈の東南隅の上り段（第一圖）のところへ出られるやうに、まことに工合よくしてある。此は何といふ名の門か判らないから、其位置により「東門」と假に呼んでおく。

昭和三年發行、京都市編纂の【京都名勝志】のうち、正傳寺の記事中に、「一角に唐門あり、これ御成殿の遺物なり」、といふ文句がある。唐門などは、どこを探してもない、のみならず、一角とはどこを指し

たのか判らないが、多分これは、切妻妻入の此照破風とでも見誤つて、かう書いたのではないかと思はれる。とにかくこれは唐門とはいへぬから、やはり位置から「東門」の名稱を用ひておくことにした。

一間一戸切妻造妻入で、正面左右に圓い本柱、後方に控柱を立つ。本柱は下に礎盤上に粽があり(第四十九・五十・二・五十三圖)、唐様の三材に同じく木鼻を備へてゐる(第五十二・五十三圖)。木鼻は側面に若葉がつけてあるし、鏑のところには兩方から圓鑿で突いた跡があるところ、全然室町式といつてよろしい。側面の若葉は法隆寺南大門(永享十一年)・瑞花院(Zuike In)本堂(奈良縣磯城郡平野村大字飯高・嘉吉三年)の夫れ等と、性質は全く同一といへる(第五十四圖)。本柱上は斯の如く賑かであるのに、控柱のは全く異なり、方杜で上は三材、どこ迄も控は控で、正副の區別は明らかである。

正面の頭貫虹梁間には波形の連子が入れてある(第四十九・第五十・第五十二圖)。殊に門扉を開き遠方からみたところはまことに美しく、人里はなれた——は少しばかり誇張かも知れぬが——山寺の門に相應しい感がある(第五十一圖)。門の側面は珍らしい形で、その奥行は屋根の1/3位に見える。かういふ立面はさう多く見出せないであらう(第五十一圖)。

左右本柱の上部及び同じく左右控柱の上部枓栱の間に虹梁を架渡し、其中央に大瓶束を立ててあるが、正面の分は枓栱三枓で、前後と左右の方向とで形式の異なつた繪様肘木を用ひてゐる(第五十五・五十六圖)が、背面の方は後ろだけに少しばかり略したものか、大枓だけで三枓にはしてない、從て之れだけ大瓶束の背が高くしてある(のは當然である)。のみならず大枓上の繪様肘木は、前後にだけで左右にははでてゐない(第五十七圖)。此等で化粧棟木を支へてゐる(第五十六・第五十七・第五十八圖)。

大瓶束の結綿は割合に大きく、蕊懸魚によく似てゐる、といふよりは寧ろ全く同じといつた方がいいかも知れない。懸魚はすべて平たい一枚の板だし、この方は少し後ろの方へまるみをもつてゐるから、うつかりしてゐると感じがちがうから氣がつかぬかも知れぬが、第五十五・第五十七圖をみれば、別に詳細説明をしないでも、誰人と雖も容易に看取できる筈である

結綿と懸魚と同じ形式なのは、前者の發達しないときに見當らぬのは當然である だから鎌倉は勿論、室町にもないと思ふ ところが桃山となると、何にしろ結綿も隨分進化して大きくなつたから、このやうな形は勿論できて來なければならぬ。例へば花園妙心寺勅使門(慶長十五年)の場合も亦、同様に全く同形式であるのである。さう思つて第五十五圖乃至第五十七圖をみると、鎌倉から引つづいて用ひられた圓鑿でついたやうな跡が其面にあり、さうして結綿の形が形だから、自然これは桃山あたりへ落着くのである。

鎌倉時代のやうな、大瓶束が漸く輸入されたばかりのときには、結綿は中中發達しなかつたから、懸魚の形に似たものは、先づ八双(出八双)の末端の曲線か、途中にもう一つ茨を有する四葉又は六葉か、或は上下殊に上端の蕨座の先端のところ(殊に幣軸でもあつた場合、上端の蕨座の形は猪目まで立派にできてゐるから懸魚と全く同じといつていゝ位である)位である。室町また同斷と考へていいが、末期に近づくとこのやうな實例がありさうにも思はれるが、今一つでも例證をあげ得ぬのを遺憾とするのである。

門でも贅澤なのになると、例へ小さくても天井をはる。板天井のやうな簡單なのではなく、驚くべく手の込んだものもある 桃山時代にいくらも美事なのはあつたらうが、今日に殘つてゐるのでは、折上小組格天井をはつたのなどがある。日光東照宮唐門の如きは、板を少しばかり中窪とし、天人を浮彫にしてある。立派なことは立派であり、彫刻其物だけを考へてみれば、優秀なる半肉彫といへやうが、門の天井としては少し大袈裟すぎて、しつこい感がなくもない。

一方にこのやうなのがあると同時に、物も場所も異なるけれども、これはまた頗る簡單明瞭、疎棰木舞裏、どこ迄も輕快にしてあるところ、本堂の軒裏と釣合がまことによくとれてゐる。

破風の中央から下つてゐるのは、立派な鰭のついた蕨懸魚(第五十五、五十七圖)。此等の圖を熟視するならば、結綿と懸魚との似てゐるとかゐぬとかいふことは直に了解できるであらう。

北門

（第五十八圖より第七十四圖まで）

東門の兩方からでてゐる土塀のうち、南のものは高地にぶつかつて、そこでしまひになつてゐるが（第四十九圖）、北のものは土藏のところで直角に曲り、本堂戸袋のところで了つてゐる。其土藏と戸袋との間に、切妻造起破風の藥醫門のやうな棧瓦葺の小さい門がある。中門といつた方がいいやうであるが、北側にあるから北門としておく。第五十八圖は本堂庫裏と此門との關係を見せるためで、第五十九圖はもう少し近くへよつて東南方からみたところである。これだけでは平凡な門のやうであるが、もつと近づいて細部を觀察すると、頗る獨創的意匠の働いたもので、どこへだしてもひけはとらない優秀なもの。こんなに小さくて、こんなに氣のきいたのは、國寶建築にだつて、さう澤山はあるまい。

本柱も控柱も四角で、門の大棟は丁度其間の邊にある。藥醫門のやうなと書いたのは其ためである。さうして蟇股とも束ともつかぬが、どちらかといへば、蟇股と見られる新案の裝飾と實用とを兼ねたもの（第七十二・第七十四圖）や、これもまた鎌倉室町時代の背の低い板蟇股から暗示を得たやうな形の、同じく新案の虹梁とをもつた、珍らしい樣架式が用ひてある。

本柱の上は少しばかり粽があり、門扉のあたる飛貫の上に竹の節をつくり、そこに透彫の欄間を設けてある（第六十二・六十三・六十六・六十七圖）。竹の節の間には、普通對角線に吹寄せに襷を入れたり、或は捻子（ヒネリコ・横連子のこと）を入れたりするが、ここで透彫の板にしてあるのは、當代によく見るところで、室町時代から既にこの傾向があつたのである。此例に於いては、中心を通り直角に交叉せる線に對し、上下左右共に相稱であるかかる透彫は桃山から江戸初期へかけて、書院の欄間によく用ひられてゐるが、門の上の方に應用した例は他に有無を知らぬ。

本柱上部には、東門の如く虹梁が用ひてある。此は表と裏とで袖切のところが異なつてゐる。表面は第六十二・六十四・六十八圖の如く、裏面は第六十三・六十九圖の如く、裏の方が遙に簡單にしてある。實はこれ程の差をつけてゐたところで、大して注意をしてみる人はないのであるが、それにも係らず明らかに取扱を異にしてゐるところ、さすがによく考へてゐると思ふ。

第七十二圖でみるやうに、化粧棟木は虹梁中央の枡で受けてゐる。ところが虹梁のまん中へ枡を唯一つのせたのでは、それこそかなり變なもので、形も甚だとりにくい筈であるが、かういふ工合に上の方を蟇股のやうにして、少しばかり埋め込むと、まことにうまく納る。さうして下の方が平たくては、それこそ蟇股の宿乘りで、全然ものにならぬが、この樣な工合に下端をくり上げると、これで形がとれてくる。桃山以前の虹梁に、蟇股の樣に上端に一つ茨をつけたのや、下端を二つくり上げたのは、あるかも知れぬがつい私はみた事がない。此れは全く板蟇股から考へついたものであらう、といふ事が一目瞭然のやうに、第七十三圖をつくつてみたのである。

此蟇股式虹梁は、日光廟の建築、例へば東照宮唐門や大猷院唐門其他に用ひられてゐるし、京都に於ける一例を擧ぐれば、東山妙法院の電車通に面せる南端の四脚門（本名は知らぬ）にあるが、これ等は何れも江戸時代――何度もかく通り勿論廣い意味に於ては桃山であるけれども、ただ德川の天下になつてからといふ意である――に入つてからの新案ではないので、既に早くこの樣な所に迄用ひられてゐたのである。桃山の遺物が澤山あつたら、もつと多く見出されたらうが、今ではさう實例は殘つてゐぬやうに思はれる。

此虹梁の兩端は、一は本柱上の枡に、一はもう少し下の梁の上に乘れる、束のやうな蟇股のやうな一種の彫刻の上にのつてゐる。あれを「蟇股式虹梁」といつていいのなら、これは「間枡束式蟇股」といひ得るであらう。併しながら名稱が長くてまづいから、こゝでは蟇股としておくが、いくら新意匠でもこれは大して形がよくない。これだけの腕前の建築家なら、もう少し何とかなりさうなものであつたと思ふ。あたりとの調和を考へずに、こんな形のものを持つてきて、据えたの

はほめられない。即ち上の虹梁と此蟇股とは、全然別種のものを二つ寄せ集めたやうで、どうも調子が一致しないが、とにかく此二つの枓が化粧母屋を受けてゐる（第七十二圖）。

次は此蟇股をのせてある梁の鼻先に一つづつ枓をのせて、其枓で化粧桁を受けさせてゐる。北方の分は、第六十四・第六十五圖のやうに、鼻が木柱から僅かでてゐるだけで、其先きのくり方は普通であるが、側面につけてある若葉のうち、西面のは單なる渦紋に過ぎぬ（第六十四圖）。然るに東面のは、彎曲せる線の途中に、外方に向つて鋭き茨をつくつてゐるのが非常に目立つて見える（第六十五・第七十一圖）。かかる形は以前高知市にあつた熊野神社（大正十一年燒亡）の木鼻其他此建物の細部に見出されたもので、それ以外に存在を知らなかつたのであつた。ところがここに初めて簡單ではあるが、このやうなのがあつたので、亡熊野神社が其當時桃山か江戸か判然せず、止むを得ずいろいろな點から推察して、慶長後ではないかと考へた（雜誌【史林】第八卷第四號第一二八頁）ことがあつたのと、ある程度まで一致してゐたので、確めやうにも手がつけられなくなつた此神社の年代も、桃山位でよささうになつたのである。

いくら兩面異つた彫刻を用ふるとしても、斯の如き小さい細かい所迄注意をしてゐるのは、此亦稀れであらう。さうして其上の枓と控柱上の大斗（此は第七十二圖の左端に僅かに寫りかけてゐる）とで軒桁を受けてゐる。其正面の腕木上の枓は、第六十四・第六十五圖に見る如く、下に一種の繰形がつけてある（裏面のも同樣である、が寫眞にはでゝゐない）。此繰形の據て來たところは、最早煩はしいから略しておいても、讀者諸君は容易に推察されるであらう。鐘樓といひこれといひ、相互に連絡があつて而も餘程面白いやり方である。

控柱は方形の斷面をもつてゐるが、どこか他所に用ひてあつたものを、後にここに應用したのではないかと思ふ。といふのは位置も梁の眞下でなく、少し傍によつてゐるし、柱身にも長方形のあながあいたままであつたり、或は埋木がしてあつたりすることが、これを證明してゐる。

此門の屋根は、中央の化粧棟木、其兩側の母屋、其兩側の桁と、總計五本の四角な木の上に化粧裏板をはり、これで棰の見えてゐない化粧屋根裏を形造つてゐる（第七十二圖）。だからつまり此門は、獨創的意匠で充ちてゐるのである。

終りに圖の順序は逆になつたが、破風と懸魚とのことをかいておく。第六十圖は東側破風の拜みのところの全形を示し、第六十一圖は懸魚を大きくしたもので、元來本體は蕪懸魚であるが、其兩方にきれを下げたやうな形をつくり、上部の普通擂線形を竝べてあるところは、內方にでなく反對に外方に膨んでゐる。さうしてそこに打つてある四葉も、大分形がくづれ、形に應じて平たくつぶされたやうになり、めつたに見られぬ形をしてゐる。併し懸魚全體としては、江戸時代の雁股懸魚だの切懸魚だのといふ、大して愉快でない形のものに比べて遙によろしい。破風板の眉及び木尻の形も亦、室町系なること多言を要しないのである。

總門（第七十五圖）

寺への入口だから、勿論一番最初にあるのである。宜しく第一圖に揭げ、最初にかくべきであらうが、實は寺にある建築物のうち一番新しく、細部も拙いしするから、やめやうと思つたが、これ一つぬいて了ふのも惜しい氣がしたので、反對に最後にだす事にした。形式は藥居門で平凡。後に建て直したものであらう。

結尾

以上個個の建物に就いて記したところを綜合すると、本堂の樣なのは他にも類似のものがあり、方丈建築としてはさう珍らしくもないが、鐘樓と門二棟とは、よく獨創的の意匠を働かしてある。だから非凡の手腕ある建築家でない限り、これだけのものをつくりだす事はできなかつたであらう。時代が時代だから當然であらうが、和・唐・天の三派がまことによく混淆折衷され、迂濶にみてゐたのでは、計劃者の苦心

は了解できず、從て其眞髓も捕捉できず、其結果ただ眺めてゐるだけである。中には強いて判つたやうな顏をして、傍觀者に自己を眞價以上に評價せしめ、體裁をつくろつてゐる位が關の山で、ほんとうのことは理解できてゐやしないのもありさうである。これでは計劃した建築家に對して氣の毒千萬で、もう少し苦心のあるところを觀て敬意を表さねばなるまい。

本堂と門二棟とは伏見城の遺構ださうで、それを寛永年間にここへ移したのださうだから、桃山式の建物なるとはいふ迄もあるまいが、鐘樓及庫裏の建築は、寛永年間のものとみて差支あるまい。寛永のものとしても、桃山建築として何等不都合のないことは、既に屢々記したところである。此等のうち本堂のみが國寶に指定されてゐるので、これだけは何等心配がない筈であるが、併し現狀は雨が洩つてゐても、應急手當をする資力さへなく、洩つてくると疊をあげてバケツで點滴を受けておく始末だから、このまま放置しておいて數ケ所も洩りだしたら、手のつけやうがなくなるであらう。

庫裏は正面のところは相當によくできてゐるが、可なり住みあらしてあるから、當分預りとしておく。鐘樓及び門二棟は、小さいがために當局から注意されてゐぬやうだと洵に遺憾である。小さくても大きくても、いふ迄もなく優秀なものは優秀であるのだから、形の大小荒廢の程度を以て論ずべき限りではない。最初に記したやうに、一日も速かに適當に保護の途を講じたきものである。

* * *

今回は圖版のうち、殊に木鼻や持送り等の圖を多くしておいた。これ位大きくだしておくと、形がはつきり判るから、樣式の研究者にも新に計劃をする場合にも、相當役にたつであらう。さうしてこれ位示しておけば、最早この次からは、桃山時代のことをかくときにも、さう澤山に圖示せないでも、大概見當がつくであらう。多過ぎるやうだが、將來のことも考へて、少し餘計だしておいたのである。

* * *

旅行前時日すくなく、書くべき原稿が重なつたり、校正が衝突をしたり、暑いも何も考へて居られず、隨分いそがしい思ひをしたので、思ふ樣に意志の發表もできなかつた上に、同じ文句や言葉が何度も重なつてゐたり、まるで體をなしてゐない。特急でかき了り、一度は讀み返したが、ゆつくりしてゐるひまがないため、甚だ拙いものとなつてしまつたのは遺憾であるが、止むを得ないのである。

（昭和六年八月二十二日稿了）

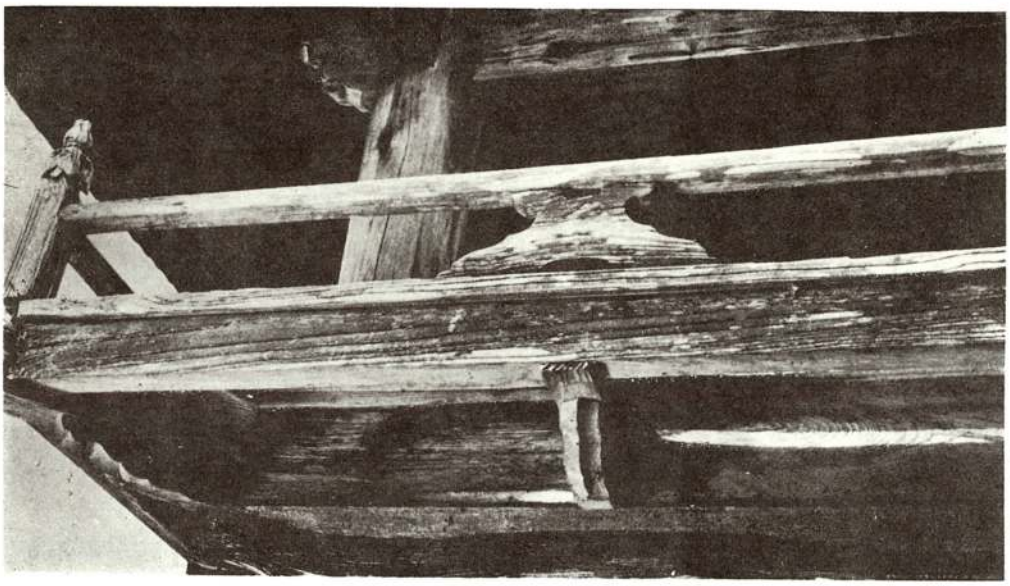


上。第三十四圖　正傳寺鐘樓を西南よりみる
下。第三十五圖　同　東南よりみる

（昭和六年四月十二日）

鐘樓は屋根の柿が全部腐朽したので、今假に亞鉛の生子板を以て覆ふてあり、其他寫眞でみる如く、甚だ慘憺たる有樣であるが、袴腰が外方に膨んでゐたり、勾欄が特殊であつたり、大分珍らしい手法が用ひてあるのみならず、全部桃山式の至極優秀な作品である。





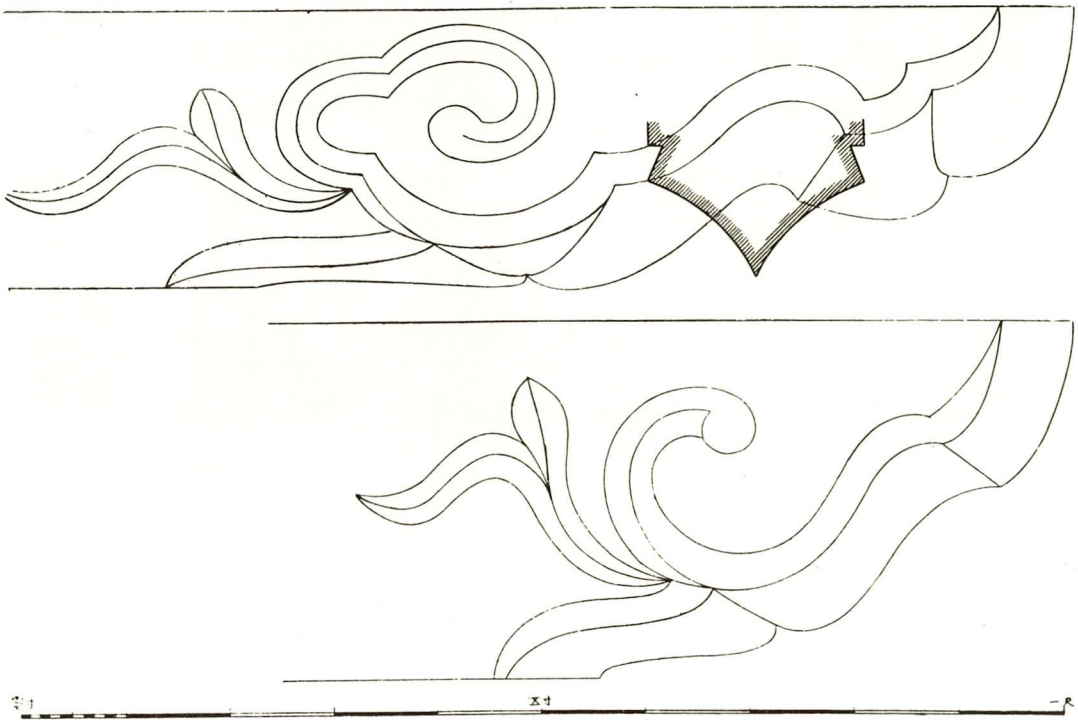
第三十六圖　正傳寺鐘樓勾欄



第三十七圖　同勾欄親柱（右方に立てるは曲尺の約五寸（六吋））



第三十八圖　同勾欄見上げ（以上三圖昭和六年四月十二日）

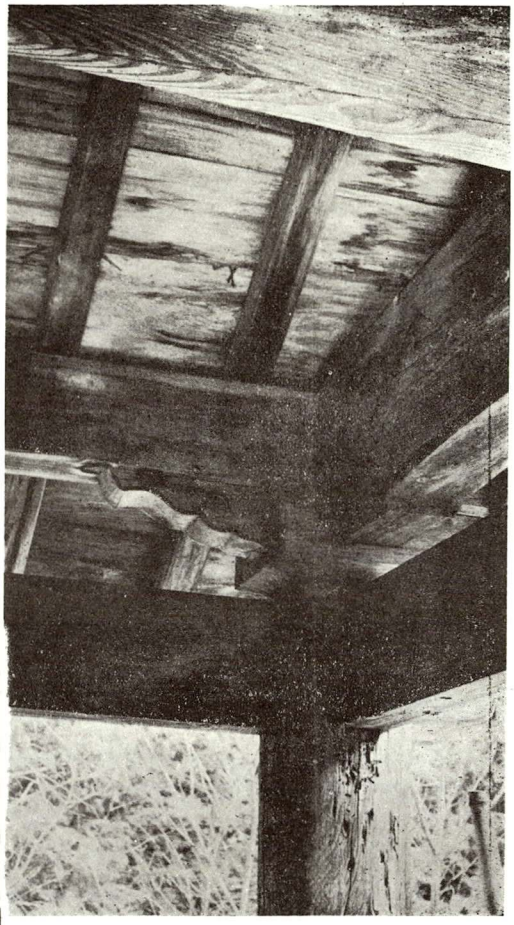


上。第三十九圖　同様隅持送り
下。第四十圖　同正側面持送

勾欄は甚だ簡單で、地覆と架木とのみで平桁を缺いてゐる。地覆も普通の場合の如く背が高くなく、平たい方で、架木また圓くない。親柱は四角であり、柱頭の開花蓮の形も亦特殊である。殊に束の様式は江戸時代以降　車寄玄關等の頭貫虹梁間に賞用せられた融合式蟇股の如くで、變つてはゐるが、どうも形は感服できぬ。大和法華寺須彌壇羽目板中央の束も亦此種類である。

此勾欄の廻らしてある椽は、出が少ないから、腕木をだして持送りで支へてゐるだけで、枓栱等のやうな大袈裟なものは、つかつてない。隅のは持送りのせいがひくく出が多く、平のは其反對であるが、其側面　簡單な彫刻をみると、木鼻虹梁等の夫れと同じで、小さいながらも桃山に多く用ひられた若葉までが添へてあり、鎬は多くて「しがみ」もできて居り、どこまでも時代をよく現はしてゐる。

斯程迄にしてあつても、餘りあれてゐる上に、屋根の生子板でいや氣がさし、近づいてみやうといふ氣があまりしないが、細かいところまでよく注意の行届いた建物である。



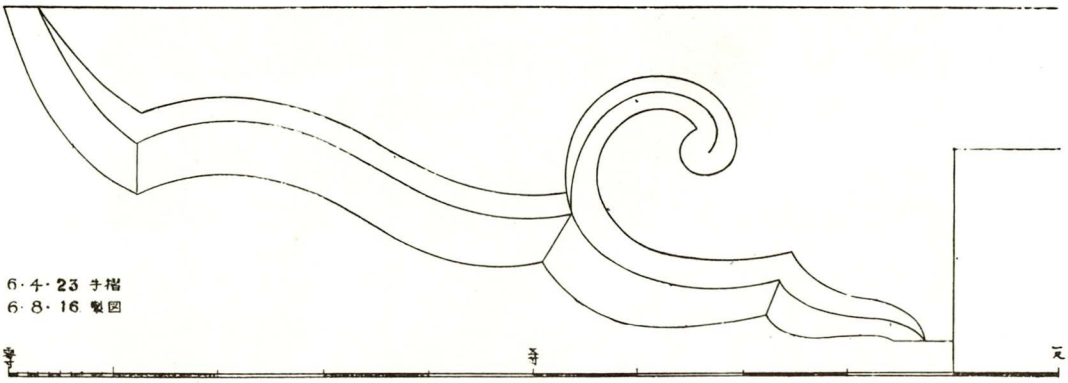
右。第四十一圖　正傳寺鐘樓上層隅を內部よりみる

此は東南隅を內部よりみたところで、第三十四圖なら右端、第三十五圖なら中央の柱の內側である。柱上大枓の下には簡單な繰形がつき、兩妻には虹梁を架渡してあるが、平は桁にしてあるから、其高さの差をなくするため、その下側に肘木と持送りと兼ねたやうなものを入れてある。持送りは第四十三圖に明示してある。



左。第四十二圖　同上層西北隅詳細

前圖と反對の側の反對の隅を南方からみたところ。頭貫の鼻と、虹梁の鼻の下端添物の木鼻と、平西流の桁下端の持送りと、此等三つの繰形を見せたのである。此等のうち、殊に頭貫の木鼻は、例の若葉が二つもついてゐて、前頁の圖面及び虹梁の夫れ等と共に、最もよく時代を現はしてゐる。（大枓上に立てる寸は曲尺の約五寸六寸）



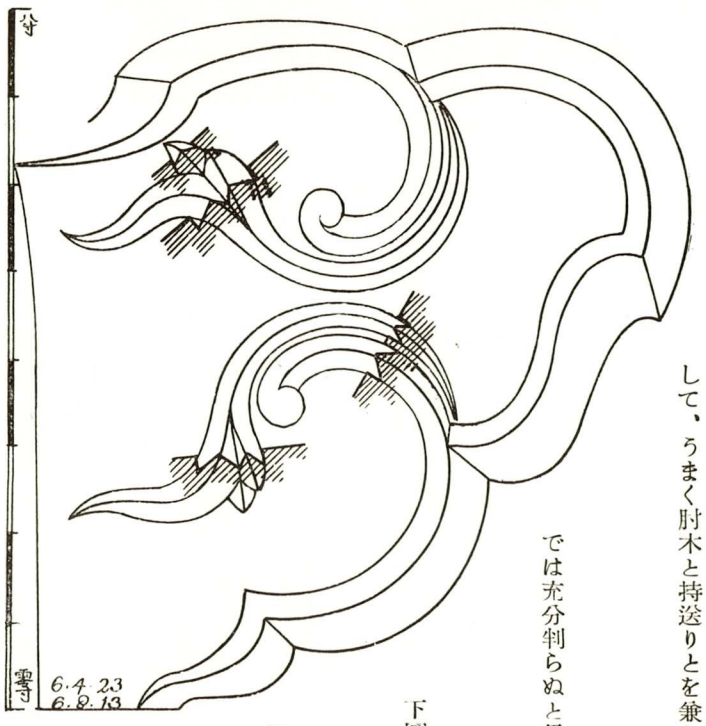
上。第四十三圖　同桁下持送りの圖

下。第四十四圖　同頭貫木鼻

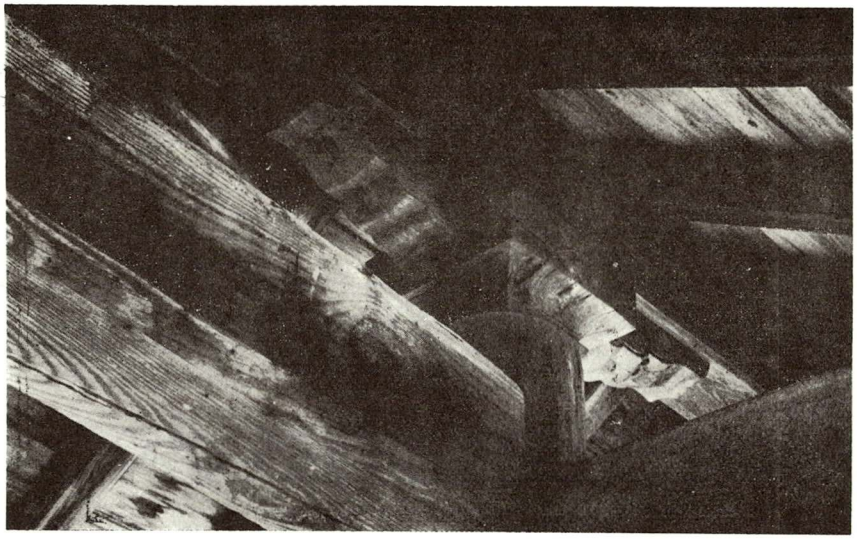
（昭和六年四月二十三日の摺本より）

（同）

上圖は餘りいい形ではないが、天竺様の木鼻でも唐様の夫れでも、とにかく簡單なグリグリ式のものを長くのばして、うまく肘木と持送りとを兼ねたやうな形のものとしたのである。前頁の圖では充分判らぬと思はれるから、ここに圖示したのであろ。



下圖は第四十二圖のと反對の南側の柱から西の方にでてゐるものの摺本から製圖したので、若葉等の形も幾分異なつてゐるが、要するに意味は全く同じであることを看取すべきである。



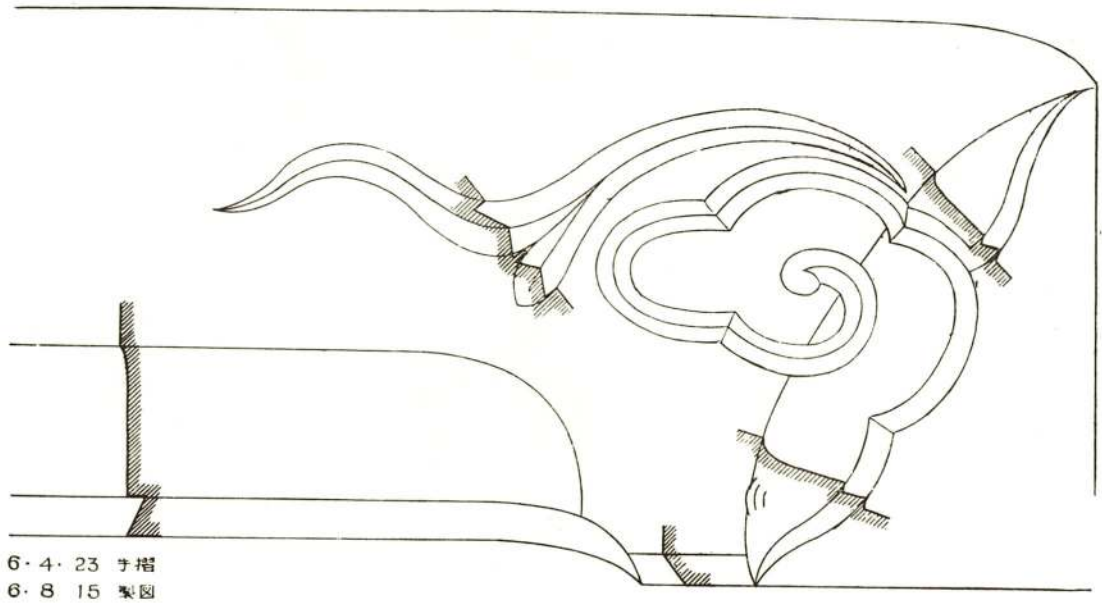
上。第四十五圖　正傳寺鐘樓南側大瓶束　（昭和六年四月十二日）

下。第四十五圖　同　北側同　（昭和六年四月廿三日）

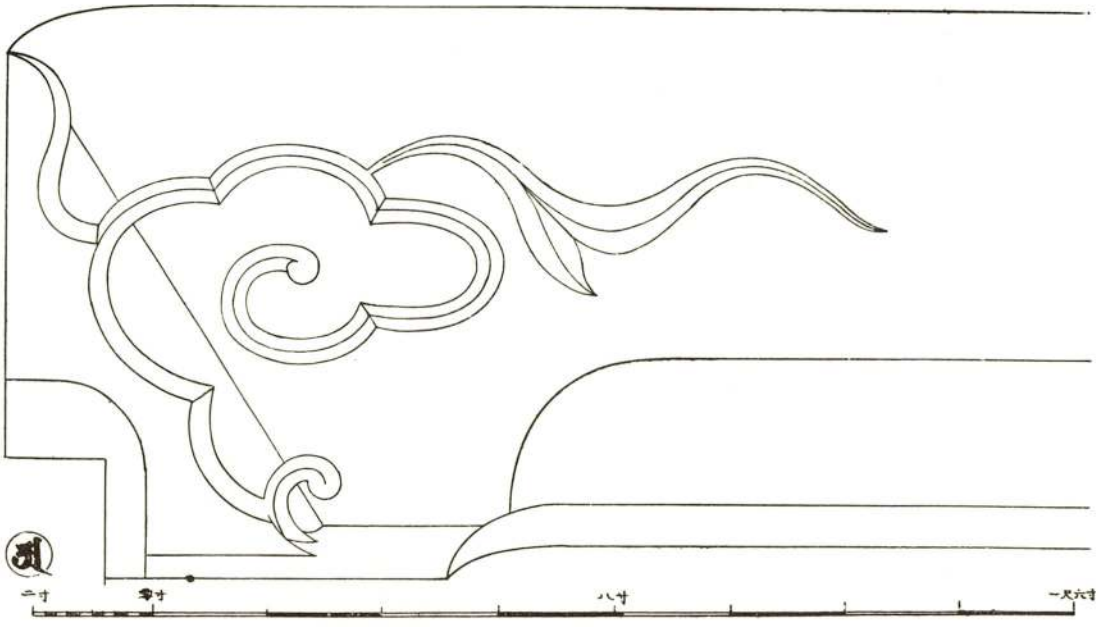


上圖は虹梁上中央に立てる大瓶束を內側から、下圖は同上を外側から見たところである。鐘を吊るために、太い梁を棟木と平行に虹梁に架渡してあるが、其鼻をうまく隱すため、丁度いいものだから大瓶束を用ひたのである。そこを見せるために二つ寫眞を揭げておいた。

大瓶束上の大枓も亦、四方の柱上のと同じく、下端に天竺樣からきた皿枓樣のくり形をつけてあるところに注意せよ。



6·4·23 寺揃
6·8 15 製図



上。第四十七圖　同南妻虹梁東端外側繪樣

下。第四十八圖　同　　內側繪樣

內側と外側とては，大分に繪樣が異ふ。內側の方には少しく不自然のところがあるから，外側の方がいいと思ふ　何れにしても例により例の如き，きまりきつた繪樣である。內側のは下の方に小さい渦があつて，はつきりしてゐるが，外側のは弓眉をとりすぎたせいか，或は故意にしたのか，此渦を殆んど削りとつてしまつた。外側のは，どこのもかうなつてゐるところをみると，特に後にかうしたらしい。

右。第四十九圖　正傳寺東門を東北方より見る



下。第五十圖　同　西方より見る

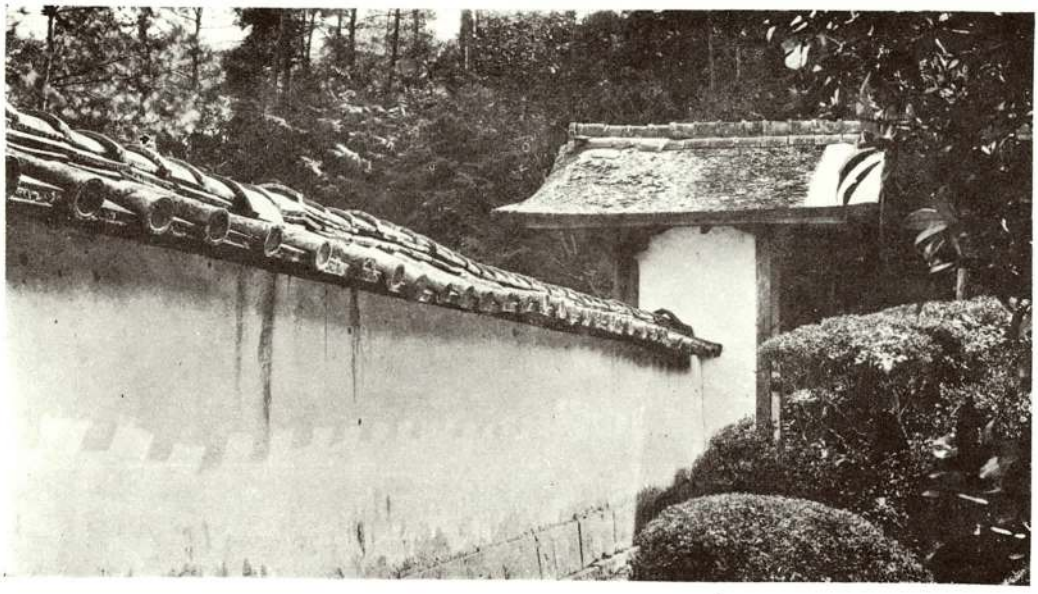
左。第五十一圖　同　北方より見る

（昭和六年四月十二日）

（以上昭和六年三月二十二日）

此門を入つて眞直に敷石の上を行き、右に曲ると本堂の東南隅、第一圖及第四圖に見えてゐる「上り段」のところへでる。下圖は扉を開いて內側からみたと（次頁へ）





（前頁より）ころ、幅の狭い敷石は、即ちこの「上り段」のところへ行く道である。

此門は切妻妻入で、一間一戸。正面兩方に礎盤附の圓柱をたてて本柱とし、其後ろに控柱として方柱をたて、照破風柿葺瓦棟の屋根を以て覆ふたので、兩側面は柱間に貫もなく、全體が白壁になつてゐる。正面の頭貫と虹梁との間に入れてある弓欄間が、第五十圖に示したやうに特に著しく目立つてゐる。

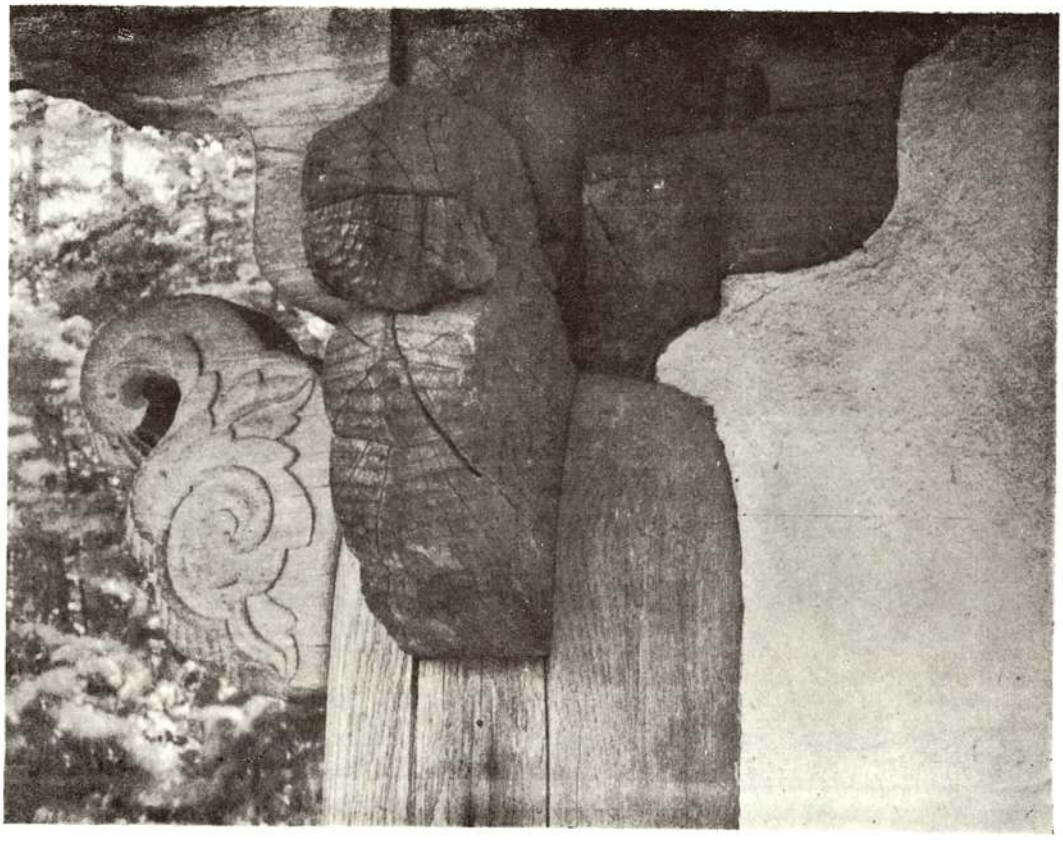
本柱の上は特別入念の木鼻や三枡等で、中中賑かであるが、控柱上は大枡に肘木を含ましただけで、其肘木は繰形がついてゐて、いくらか舟肘木よりはいいが、それにしても隨分淋しい。天井なく木舞裏、前後に軒の出が多いから、側面からは、見樣によつて屋根の中央$\frac{1}{3}$が、漸く柱間に支へられてゐるやうに見える（第五十一圖）。

斯樣な門は何といふ名で呼んだらばいいか、玄關にしては離れすぎてゐるし、中門でも變だし、止むを得ず東にあるので「東門」と假に命名した。變つた形で甚だよろしい。

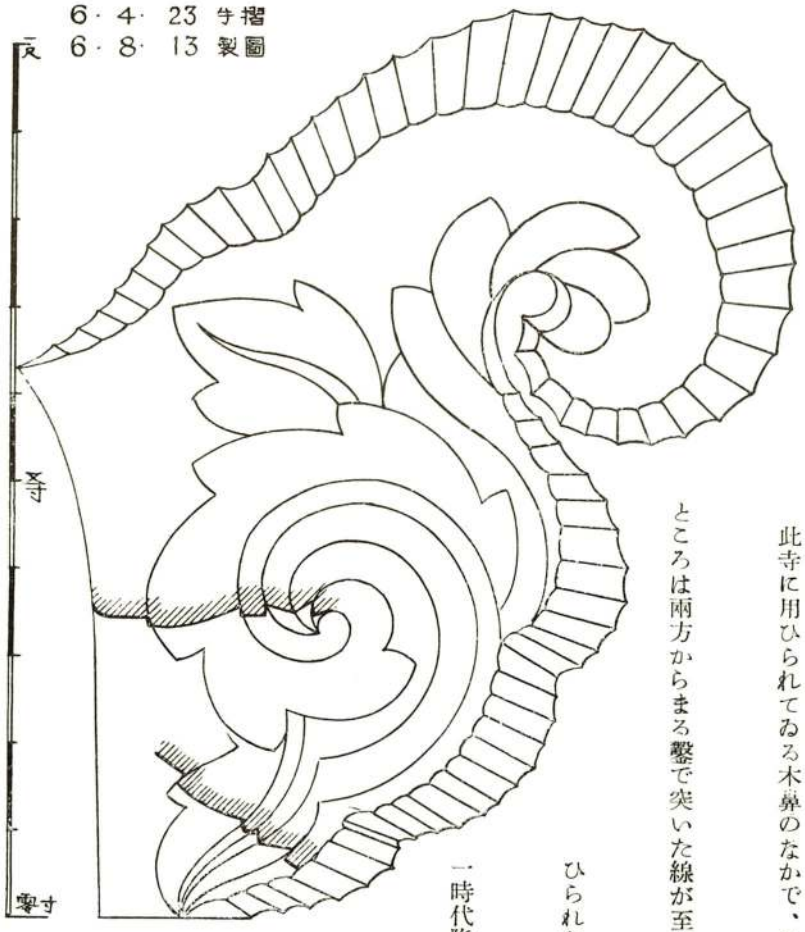


第五十二圖　正傳寺東門北側本柱上木鼻及枓栱

（昭和六年四月十二日）



第五十三圖　同（但し北方よりみたるもの）（昭和六年三月二十二日）



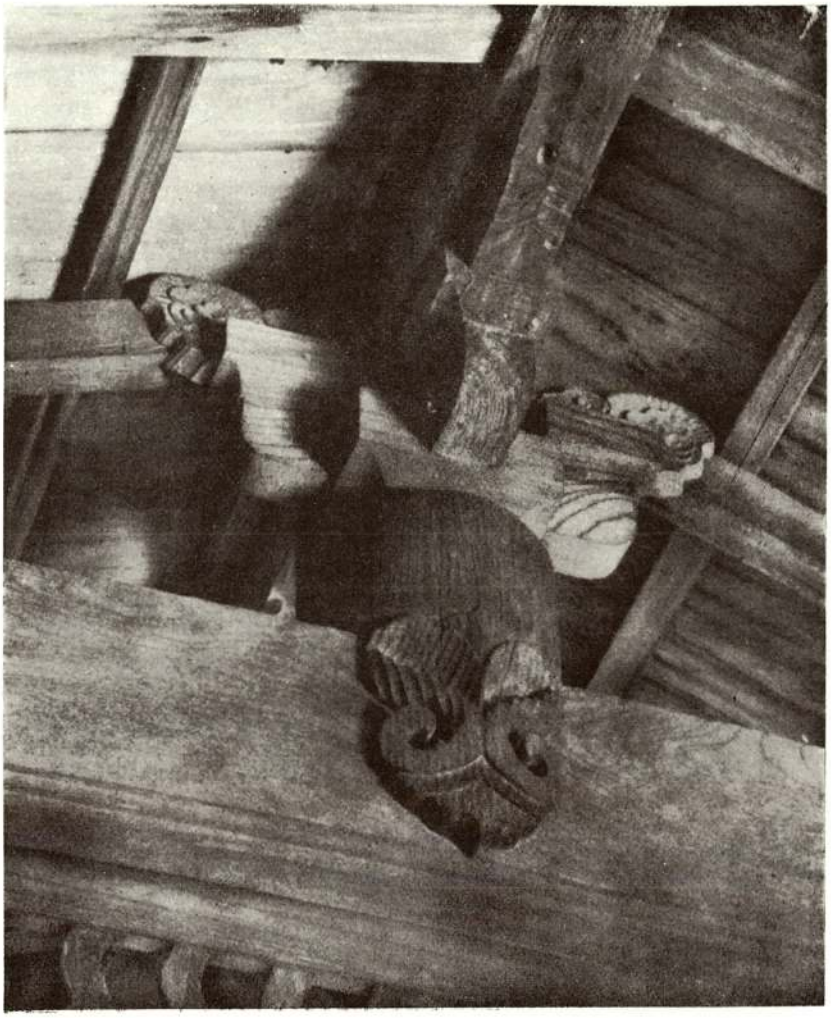
第五十四圖　同南側本柱頭貫木鼻西面

（昭和六年四月二十三日の手摺本より）

此寺に用ひられてゐる木鼻のなかで、最も手の込んだものである。側面には若葉を薄肉に刻みだし、鎬のところは兩方からまろ鑿で突いた線が至極明瞭に現はれてゐる。此種の若葉は室町時代から木鼻の側面に用ひられた――法隆寺南大門・瑞花院本堂向拜（奈良縣磯城郡平野村飯高）――もので、一時代降ると木鼻の形は變つてくるが、葉の現はし方の要領は同じことである。

花園妙心寺勅使門控柱上の夫れの様に、のびて出やうとした鼻をたゝかれて引込ましたやうな形で、桃山にかういふのはよく見出される。

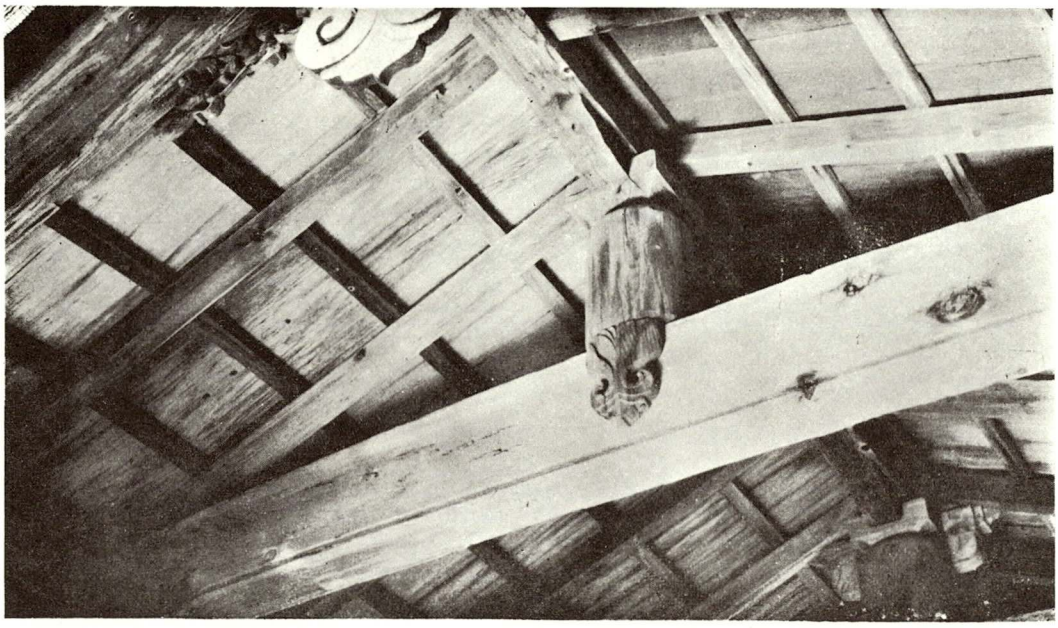




上。第五十五圖　正傳寺東門正面一部　（昭和六年四月十二日）

下。第五十六圖　同　大掘束　（同　年同月同　日）

左上。第五十七圖　同　後面一部　（昭和六年五月十四日）



第五十五圖は、第五十二圖のもう少し左の方が見えてゐるのである。虹梁の中央へ、比較的結綿の大きな大瓶束をたて、三枓を組み、左右へは木鼻の如き繪樣を有する花肘木、前後は化粧棟木との間に、第四十三圖の如き繰形の實肘木を入れてある。

第五十七圖即ち背面の方は、同じ樣な結綿を有する大瓶束を用ひてあるが、上は大枓だけでずつと畧してある。其ため大瓶束のせいも、正面のよりは高いのは當然である。

此兩圖に破風の懸魚が寫つてゐる。完全ではないが、殆んど九分通り——後圖のは半分だが——見えてゐるから、よく判ると思ふが、其下に下つてゐる謂はゆる蕚懸魚と、第五十六圖の結綿と比較せよ　此比較に便せんがために、態々大きくしておいたのであるが、いつも書く通り、同時代の形には、共通點があるから、一つ判ればあとが皆判ること、此一例を以てでも了解できるであらう。圖鑿でついたところのあるのは、木鼻との關係上、裝飾にもなるからつけたのであらう。





上。第五十八圖　正傳寺北門全景其一（昭和六年四月十二日）

下。第五十九圖　同　　其二（同 年 同月二十三日）

此は藥醫門のやうなもので，中門とでもいつたらいゝのかも知れぬが，北側にあるから，東門に對してこゝでは「北門」としておく。上圖は本堂•庫裏との關係を示したので，下圖は近よつて東南からみたところである。此土塀を右へ行き，右へ曲ると東門になるので，第五十一圖の土塀に沿ひ，左折すればこゝにでる。

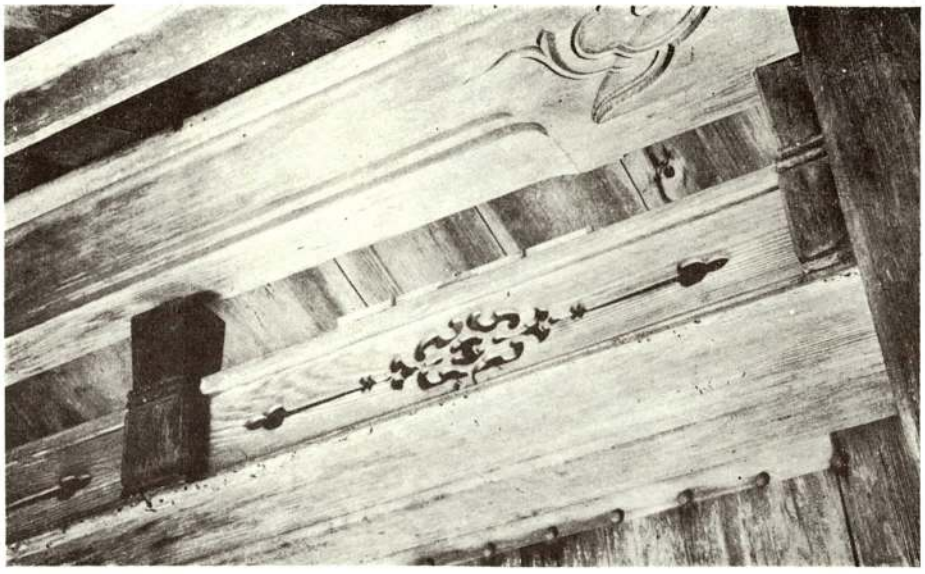
上。第六十圖　同東妻懸魚
下。第六十一圖　同　詳細

（昭和六年三月二十二日）

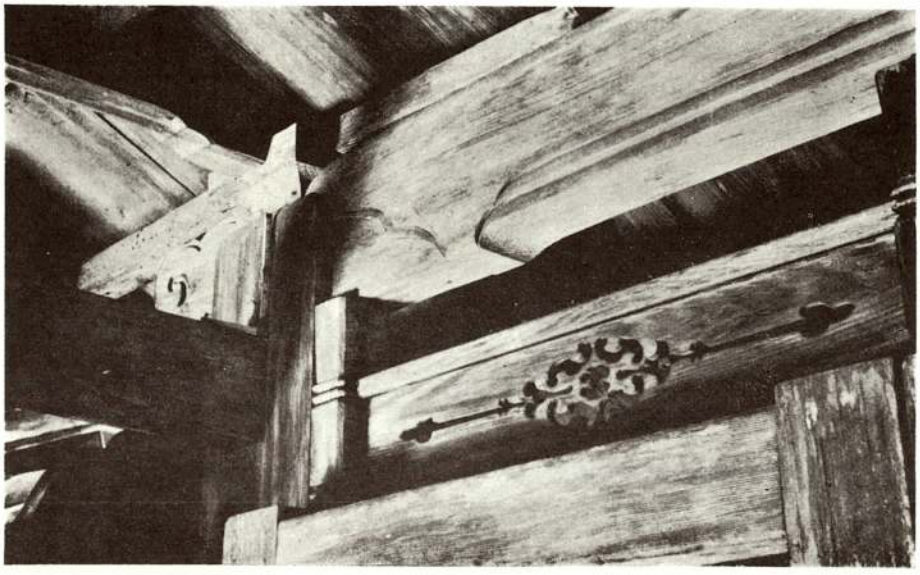


此門の兩妻の懸魚は、全く他に類例がないといつてもいい位に、獨創的形式を備へてゐる。よくみれば菌懸魚から考へついたことは直に判るが、それにしても形を隨分に變へ、兩方にきれに象つたやうなものを下げ、上のところが狹くなつて了つたものだから、四葉には違ひないが、まるで形をかへ、異樣なものにしてしまつた。とにかく此懸魚は推奬に値する。





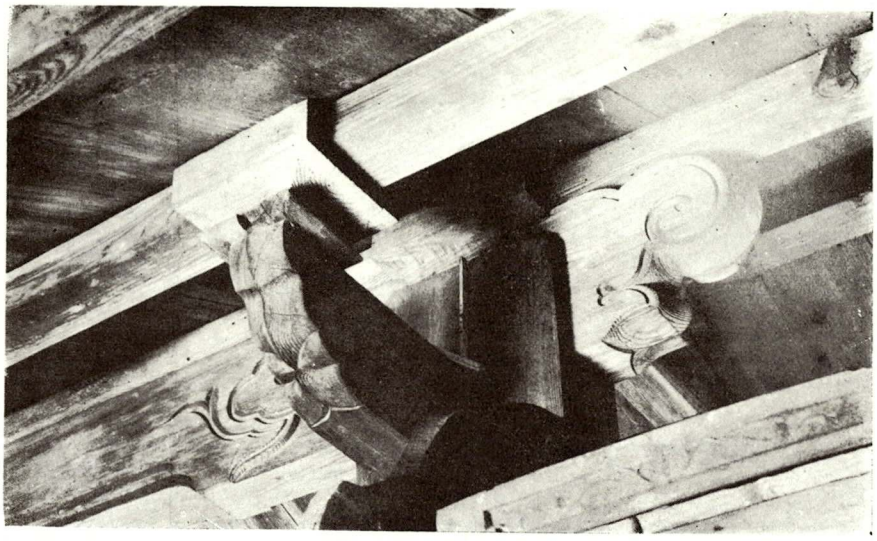
(欄間上に平たくあるは曲尺の約一尺(一呎))

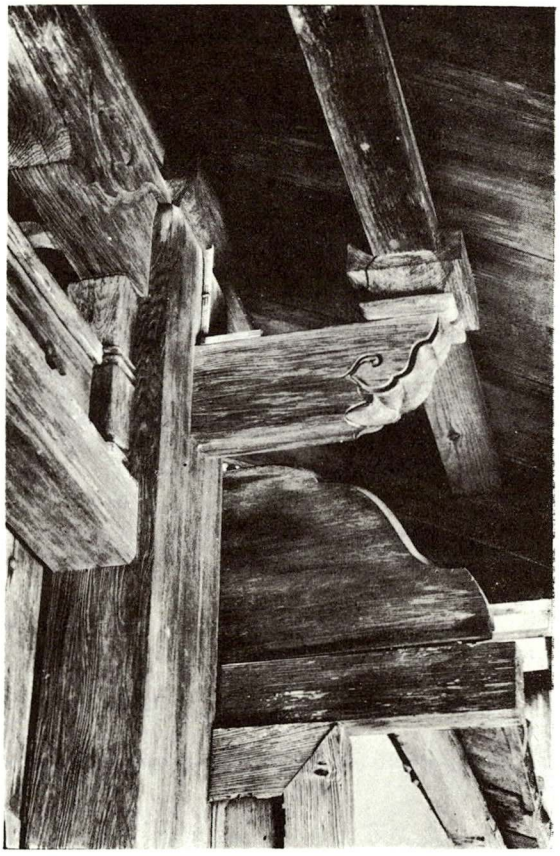


上。第六十二圖　正傳寺北門欄間透彫及虹梁を北方より見る
下。第六十三圖　同　南方より見る

戸當りの貫上欄間には，桃山一流の左右上下相稱の透彫を入れ，本柱の上，普通頭貫をおくところに虹梁を架渡してあるが，此側(上)と南側(下)とでは，袖切のところの彫刻を異にしてゐる(第六十八・第六十九圖參照)。小さいが中中こつた意匠がしてある。

(四圖共昭和六年四月十二日)

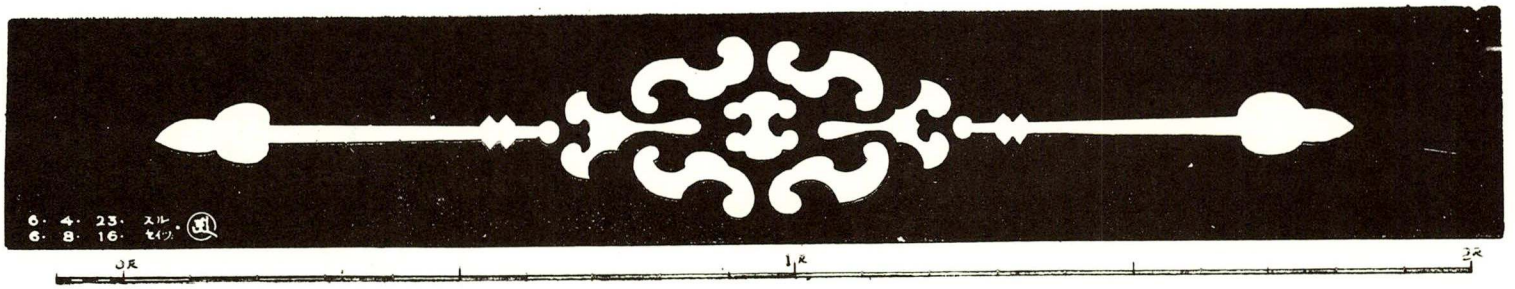




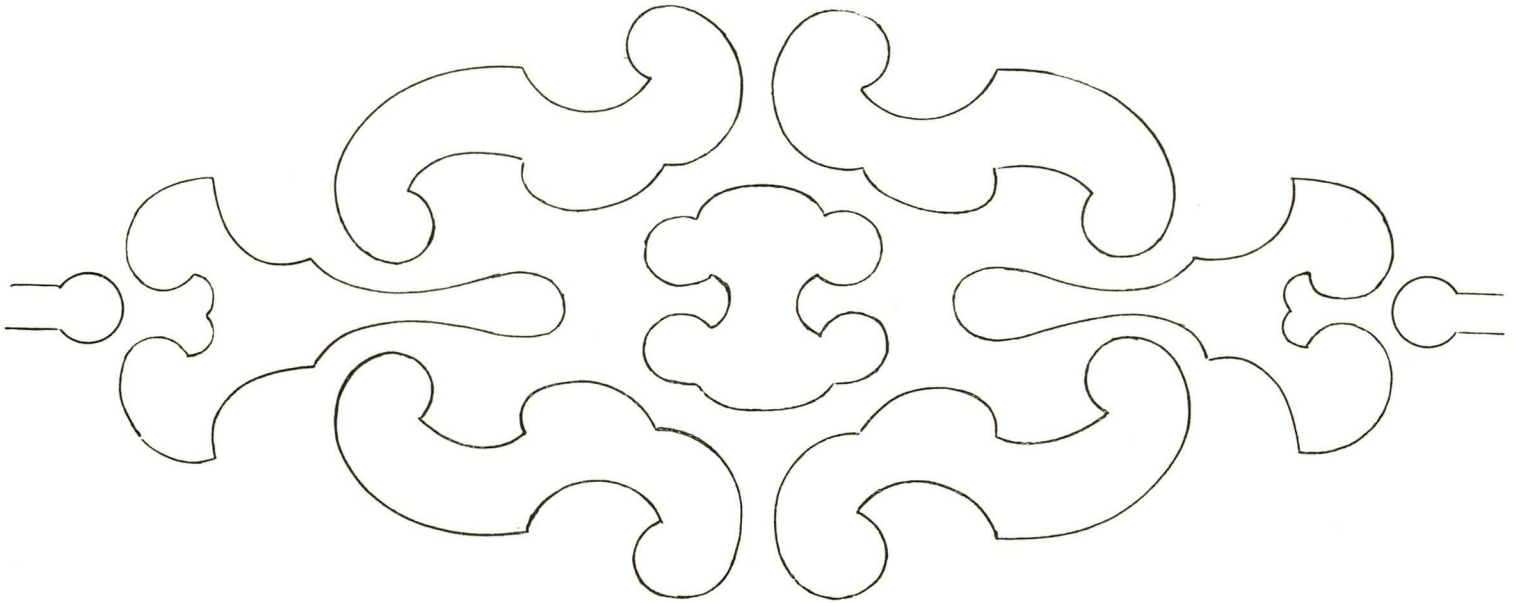
上。第六十四圖　同西方木鼻を北側より見る
下。第六十五圖　同西側本柱より北方に出たる腕木を東より見る

上圖の虹梁と、第六十二圖のとは同じもので、右方にでてゐるのは其鼻である。前方にでてゐる肘木は下圖の右方にでてゐるのと同じもので、ただ反對の方向からみただけであるが、東側（下）と西側（上）とで繪樣を異にしてゐる。こんなところ迄、これ程の注意を拂つてゐるのである。尙此腕木上の卷材には、皿材樣の繰形があり、其來由を明らかに物語つてゐる。

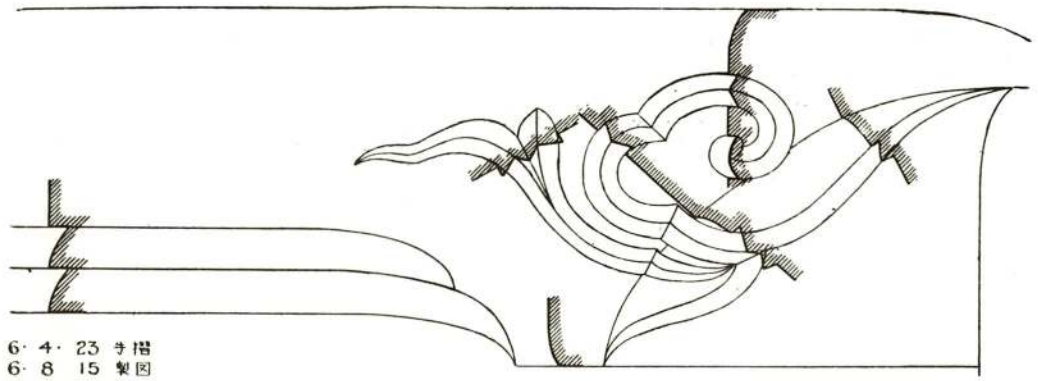
（二圖共腕木上に立てるは曲尺の約五寸（六吋））

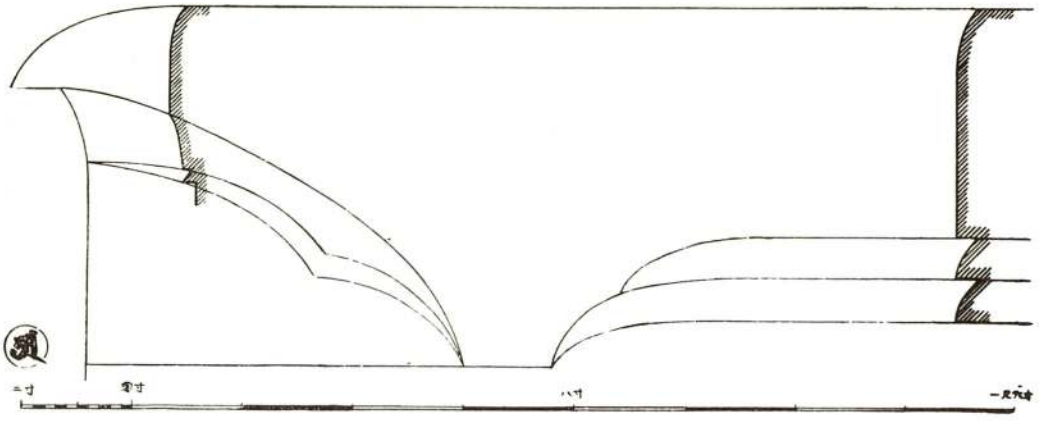


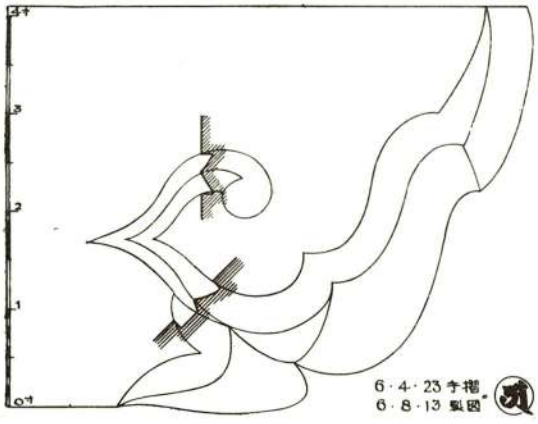
第六十六圖　正傳寺北門欄間透彫

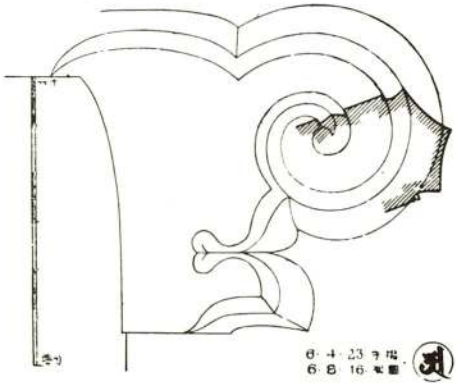


第六十七圖　同中心飾詳細









上。第六十八圖　同虹梁正面（北側）袖切苔葉及眉

中。第六十九圖　同　背面（南側）袖 切 及 眉

下右。第七十圖　同木鼻

下左。第七十一圖　同正面西側腕木東側繪樣

上二圖は虹梁西方の袖切の取扱方の正面及裏面を示したものである。木鼻は二つとも兩面同じであるが，正面にでてゐる腕木は，右と左とで繪様を異にしてゐる。



第七十二圖　正傳寺北門內部見上げ

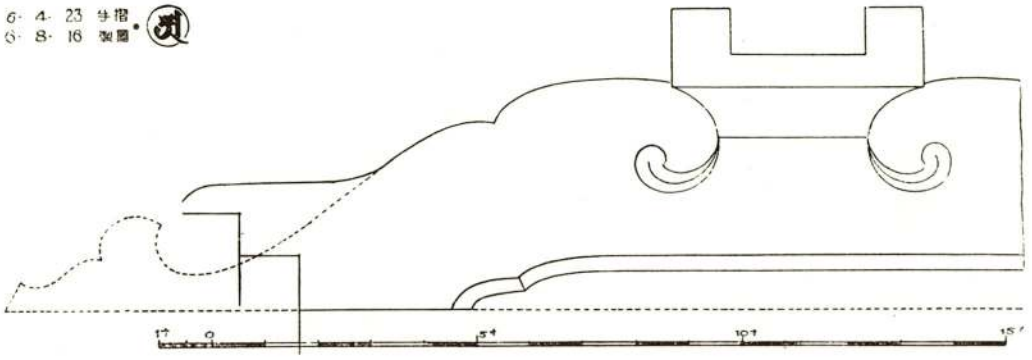
（梁上に立てるは曲尺の約五寸（六吋）・昭和六年四月十二日）

北門を入つて西の方を仰いだところ。右下に見えてゐる竹の節は、第六十二・六十三・六十五圖と同じもの。第六十三圖の六吋の物指をたててある梁は、此圖の同じく物指をたててある梁である。

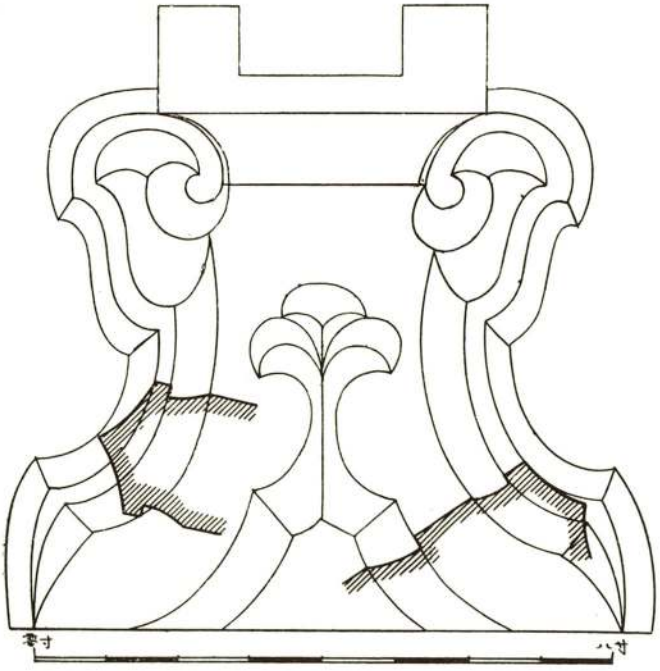
門の內部の構架式は、此圖でみる通り、本柱の上の方を貫いてゐる梁の上に、發達した束とも退化した蟇股とも、どちらにでも考へられる彫刻を置き、更に其上に、此もまた虹梁とも蟇股と見られるもの——であるが、板蟇股に暗示を得て考按した特殊の虹梁とみる方がよろしいと思ふ——を架渡し、中央の枓で化粧棟木、次ので母屋、北の方へでた腕木の枓、及び此梁を支へたる控柱上の枓で軒桁を支へ、化粧棰も木舞もなく、直に裏板を此等の母屋の上に貼つてある。

斯樣な小さな門、而も田舍の寺——今では京都市內だから田舍ではないが——の、殆んど誰れも氣がつかぬやうなところに、これだけの意匠を施したのが他にあらうか。本柱の上の方に貫を通して戶當りとし、此貫の上に竹の節を應用して透彫の欄間をつくり、夫（次頁へ）

6·4·23 手稿
6·8·16 製圖



（前頁より）れと直角に梁を本柱に貫き、北方即ち正面は腕木として兩面異なれる繪樣を刻み、天竺樣に起原を有する枓をのせ、以て鐘樓と連絡をとり、內部は第七十二圖の如き巧妙なる構架法を用ひてゐる。



梁上の束とも蟇股とも、どちらにでもとれる異樣のものは、獨創的意匠はよくでてゐるが、恰好としては餘り感心できぬものである。これだけの腕をもつてゐる棟梁であつたら、もう少し何とかなりさうなものであつたらうと思ふ。第七十四圖によく判るやうにかいておいたから、充分みるとよろしい。

第七十三圖は此虹梁も板蟇股も、曲線の性質に於て全く同じことが誰にも了解できるやうに、特に點線でかいておいたのである。

上。第七十三圖　同虹梁（點線を以て板蟇股と同性質なる事を示す）

下。第七十四圖　同梁受蟇股立面



第七十五圖　正傳寺總門（昭和六年四月二十三日）

此寺は今こそ淋しいが，門前には可なりの廣場があり，老松等も生へてゐて，其昔しの隆盛を偲ぶに充分である。惜しい事に建てかへたと見えて，門は美的價値に乏しい。總門だから最初に圖示すべきであらうが，以上の理由で最後にしたのである。形式は藥醫門。

——(終)——

新刊紹介

○建築・風景

三浦耀氏著

四六判　紙表裝　二五六頁
昭和六年九月　東京岩波書店發行
價　一、二〇

風景とは神の造つた建築で、建築とは人間の造つた風景である。この書にはかういふ見方で建築や風景を眺めたと著者は序文で述べられてゐる。先づ著者の建築觀、近代建築思潮から始まる。そして高潮に達して、伊太利や北歐の旅行記に至ると、音樂、繪畫、建築の造詣の深さから、音、色、形の敏感なおのゝきに著者の穩やかな情緒が織込れて、諸藝術の諧調、綜合された美しさが讀者を魅する。『建築と機械』で著者の建築觀の最近の方向をうかがへる『梁川星巖の舊居を憶ふ』――著者の生れ家が偶々星巖の舊居の鴨沂小隱であつたことから――その家を圖示せんと幼い記憶を辿りつゝ、家の外形、間取はもとより、井戸のあつた梅があつた、松があつた、枇杷があつたと果ては池の形まで、前裁の有りし樣を描き、星巖の詩など一々思ひ浮べつゝある著者を思ふ時、この最後の頁を閉じるのが如何にも殘り惜しい。近來の良著

○レイモンドの家

七寸×七寸　紙裝幀
コロタイプ二十四葉
昭和六年六月　東京洪洋社發行
價　一、三〇

『わが友レイモンドは、日本の家からあらゆる不自由な點を除き去り、その最も本質的なところ、この最も優雅なところを採り、家をして一個の箱たらしめる代りに、之を以て一の衣裳、生きるため、呼吸するための要具たらしめ、しかもこれに生物たる溫みを與ふると共に、一方感覺の流露をも防げざるものを創り出さうとした』クローデル氏序文。
レイモンド氏の住宅の寫眞集

○市街地建築圖集

金杉哲伊氏著

四六倍判　コロタイプ三十葉　紙帙入
昭和六年七月　東京洪洋社發行
價　一、八〇

小店舖の案五十種。各種の平面、各種の樣式、仲々の氣の利いた意匠がある。簡單な說明が附けられてゐる。

○美術建具組物圖集

阿部正雄氏著

四六倍判　コロタイプ九三葉　紙帙入
昭和六年七月　東京洪洋社發行
價　三、五〇

建具組子類の圖案集。古來より定評のあるもの、著者創案のもの等圖案數十種に、曲線物の製作說明の圖解をつけ加へてある。

○明治製菓銀座賣店競技設計圖集

四六倍判　コロタイプ二八葉　紙帙入
昭和六年九月　東京洪洋社發行
價　一、五〇

○創業五十年史

小野田セメント製造株式會社著

菊判　背皮クロース　七五七頁
昭和六年九月　非賣品

小野田セメント一會社の沿革史ではあるが一面本邦セメント製造の變遷をうかがうべき貴重な文獻である。

本會發行新刊

○世界最新建築圖集

（一九二九―一九三〇年版）

四六判　紙表紙　アート紙百枚
價　〇、五〇

本協會編輯に於て年來月々廣く外國雜誌から最新優秀建築物の寫眞を拔萃蒐集したのがこゝに百頁に及んだ、周圍よりの希望によつて單行本として新裝することになつた、小柄な本に眞珠の樣な寫眞これで歐米の建築の最近傾向は充分に知り得る、建築家、學生の絶好の參考書なるは信じて疑はぬところである。

○日本趣味を基調とせる最近建築懸賞圖集

四六倍判　銀紙表裝アート紙　四八頁
價　〇、七〇

最近四大懸賞――東京帝室博物館軍人會館、京都美術館、日本生命館――其れが皆日本趣味を基調とした、これは確かに懸賞競技として一の時代を劃するものと思ふ。當選圖案を集めて一本とするも有意義のことであらう。清楚な裝幀上質アートに鮮明な寫眞版はその內容と相俟つて是非建築家の机上に飾らるべきものである。本協會の利益を度外視した廉價は誰しも直ちに認めるであらう。

○學校建築圖集

增補三版　四六倍判　價一、〇〇

昨春發行したる所大好評を受け、久しく版を絶つてゐたが、今回更に新築代表的のもの數十葉を犧牲を拂つて增補した、益々其の完備に近づき、その權威の高まつたことに確信を有してゐる。

（高橋榮治記）

『建築と社會』昭和六年度特輯計畫

新年號（一月發行賣切殘本なし）
震火災と建築（二月發行賣切殘本なし）
保健と建築（三月發行賣切殘本なし）
小住宅（四月發行濟殘本あり）
鄉土建築（五月發行賣切殘本なし）
建築事務（六月發行濟殘本あり）
新興建築と都市問題（八月發行濟殘本あり）
住宅（九月發行濟殘本あり）
小賣店・百貨店（十月發行濟殘本あり）
映畫館と劇場（十一月發行豫定）
高層建築（十二月發行豫定）

本年の特輯計畫も好評の裡に十月號まで出しました。十一月は「映畫館と劇場」十二月は「高層建築」に就て夫々特輯の豫定です。兩者のうちで御研究のものはどし〳〵御投稿下さい、歡迎致します、原稿の締切日は前の月の十三日です。本誌の表紙圖案（昭和七年度用）を募集します詳細は會告を觀て下さい

『建築と社會』編輯部

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	五拾錢	貳錢
十二冊	六圓	貳拾四錢

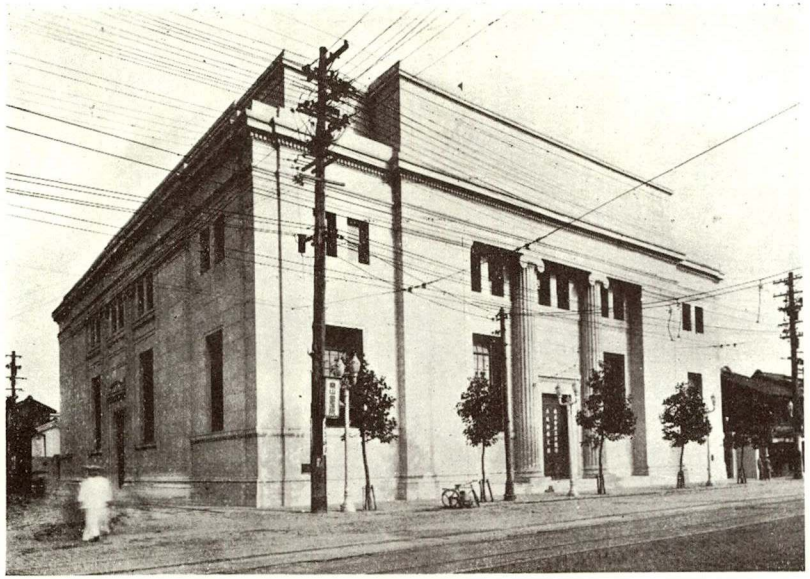
廣告掲載料金

普通紙	一頁一回	二五・〇〇（円）	普通紙半頁一回	八・〇〇（円）
普通紙（前附第一頁）	一頁一回	四五・〇〇	普通紙（前附第二頁）	一頁一回	四〇・〇〇
普通紙（後附第一及最終頁）	一頁一回	二五・〇〇	アート紙（中挿）	半頁一回	二〇・〇〇
表紙二	一頁一回	六〇・〇〇	表紙三	一頁一回	四五・〇〇
表紙三	一頁一回	五〇・〇〇			

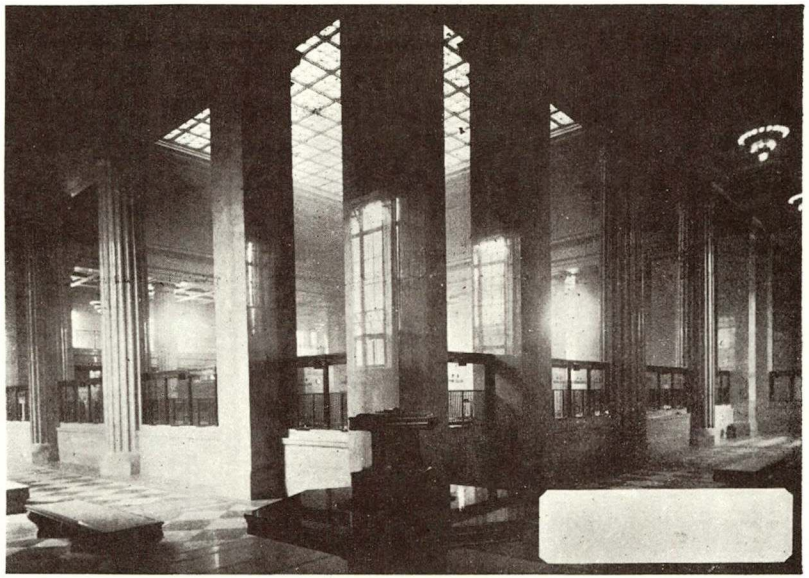
昭和六年九月廿七日印刷（毎月壹回）
昭和六年十月一日發行（一日發行）

兵庫縣武庫郡今津町浦風五六番地
發行兼編輯人　鷹取陽
大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷人　鷹取陽
印刷所　大阪活版所
大阪市西區土佐堀通一ノ一大同ビル
發行所　社團法人　日本建築協會
電話土佐堀四二六五番　振替口座大阪三九、九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番　振替口座大阪二二〇八四番

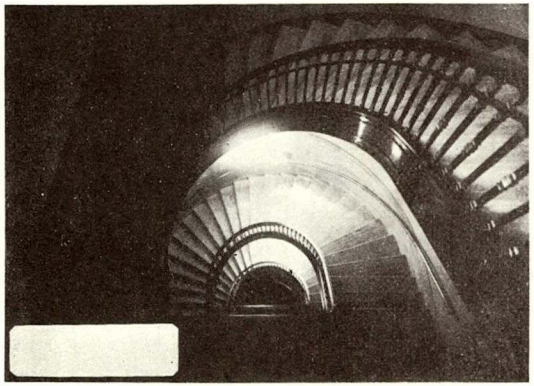
御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替で前金御拂込を願ひます。



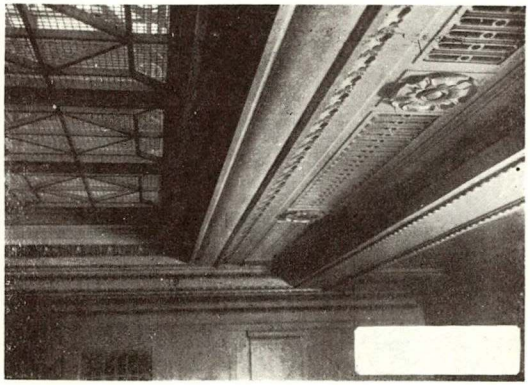
外　　觀



營業室（客溜より見たるもの）



階段（ブロンズ大理石・上より下を見る）



營業室一部天井詳細

外部・構造は鐵骨にして鐵筋コンクリート造外壁北木島産花崗石積出入口廻ブロンズ製

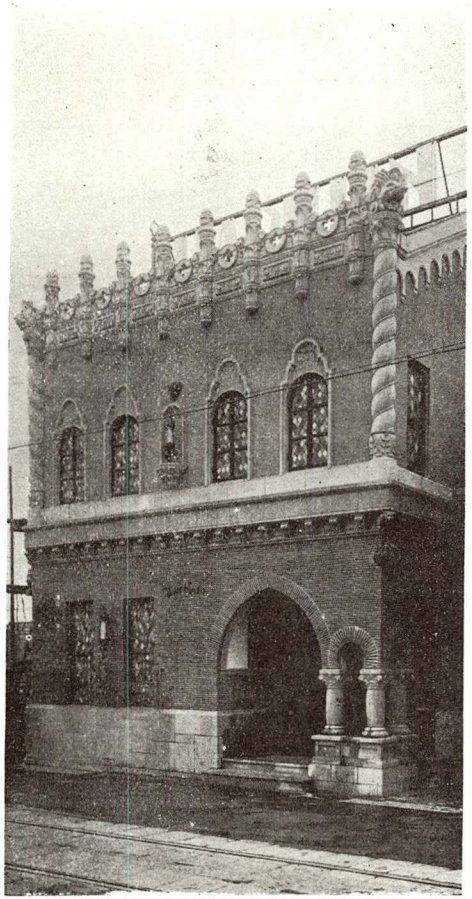
客溜りの壁及柱の大理石は伊太利産ボテチーノ『スクリン』チエクデスク等ブロンズ製・客溜床は大理石『ドラバーチン』及『レバント』とす

階段は鐵骨にしてブロンズ裝飾をなし踏面蹴込等は大理石伊太利産『トラバーチン』壁石は『ボテチーノ』とす

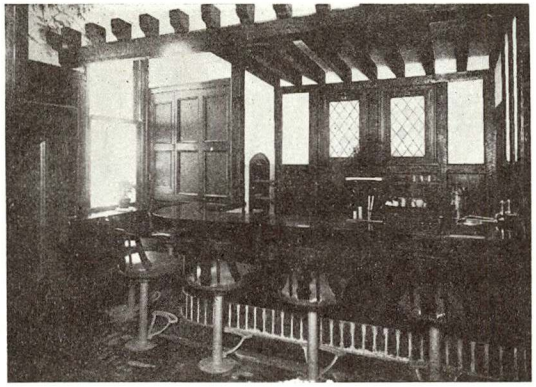
營業室天井の格子の上には『サイエナイトワイヤグラス入りのサツシュを嵌込む他は鐵骨下地にプラスター塗オイルペンキ仕上げとす

大阪（東區南久太郎町二丁目）・株式會社三井銀行大阪船場支店

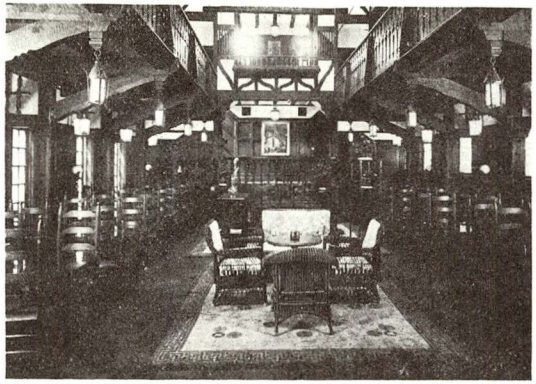
設計　**トロープリツヂ・エンド・リビングストン事務所**・施工　**竹中工務店**



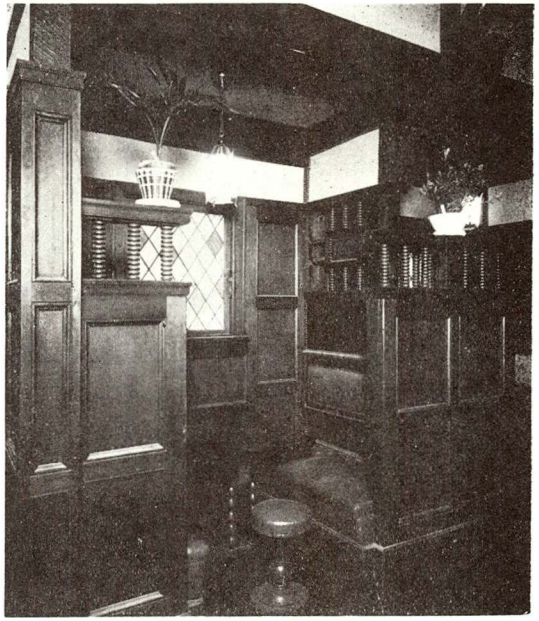
姿　　圖



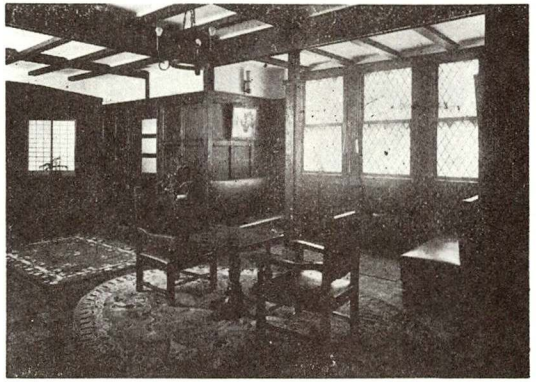
階下グリル



階下グテンドホール



階上アルコーヴ詳細



階上ローンヂ

大阪（南區末吉橋三丁目）・もり半本店

設計・施工　東京木田組

建築と社會第十四輯第十號

廣告目次

ア
有山組……一三
安藤組大阪支店……一三
旭硝子株式會社……四七
淺野スレート株式會社……二五
淺海商店……四四

イ
池田建築事務所……一〇
池田谷建築事務所……一〇
池田組……一三
伊藤建築事務所……一〇
石川商會建材部……四九

エ
榮進社……二三
衛生工業商會……五六

オ
オリエンタルメタル製造所……四三
オキナ商店……四二
大阪ビトロライト工事合資會社……二六
大阪製鎖所エレベーター部……一四
大阪窯業セメント株式會社……三
大阪伊丹商店……一四〇
大阪橋本組……一四
大林組……一四
大倉土木株式會社大阪出張所……一三
大野製作所……一
小笠原建築事務所……一〇
奥村重兵衛商店……三四
岡部建築事務所……一〇
岡本工務店……一四
置鹽建築事務所……一〇

カ
葛野建築事務所……一〇
龜谷開作商店……一五

キ
木下謹三商店……四〇
桐田商會……四一

ク
國枝工務所……一〇
熊坂谷熊次郎商店……一五
黒川化學工業所……二六

コ
鴻池組……一五
駒井喜鐵工所……一五
工材社(阪口芳三郎)……八
金剛商會大阪支店……五二
宗建築事務所……一一

タ
竹中工務店……一六
高松菊治郎商店……七
太陽社書店……六一
田中昌司商店……二八
田島工業株式會社……五五
大理石ー業株式會社……五四
ダンロップ護謨株式會社……五
大和工業株式會社……六三

ト
朝永建築事務所……一一
東洋リノリユーム株式會社……五一
東洋工業株式會社……五九
橋本建築事務所……一一
原科建築事務所……一一

ヒ
日之本建材商會……五六

フ
古塚建築事務所……一一
藤木工務店……一七
福原工場……二二
藤田商會……二四

ベ
ベニス工房……四四

マ
マルエス工業株式會社……二一
眞水三橋建築事務所……一二
松村組……一七
政正合資會社……五三

ミ
ミナト製作所……三六
三井物産株式會社……二〇
宮島康夫商店……五九

ム
村上建築事務所……一二

モ
森本建築社……一七

ヤ
安井建築事務所……一二
山中商會……四五
山泰商店……三九
矢橋大理石商店……二四

ユ
ユーニオントレーヂングコムパニー……五八

ヨ
横河工務所……一二
横河橋梁製作所……三五
米本商店……四六
米野商店……六一

レ
玲光社(木内眞太郎)……四六

サ
佐伯組……一六
佐久間建材工業所……一八
笹岡家具裝飾店……二八
阪本商會大阪出張所……三二
佐渡島西店建材部……五七

シ
清水榮二建築事務所……一〇
清水組大阪支店……一六
城口研究所大阪支店……五〇
設樂建築事務所……一一
島貿易株式會社建材部……六〇

ス
須賀商會……三七
住江織物合資會社……二二

ゼ
錢高組……一六

ソ
野村建築事務所……一一
野澤幸三郎商店……三八

ハ
日本生命保險株式會社……五四
日本ペイント株式會社……三三
日本木材工藝株式會社……六二
日本建築紙工株式會社大阪出張所……三九
日本金具株式會社……六
日本石綿盤製造株式會社……三〇
日本パイプ製造株式會社……一九
西原衛生工業所大阪支店……二九
西孫南店建築金物部……三一

ノ
野村建築事務所……一一
野澤幸三郎商店……三八

建 築 事 務 所 錄

オ-カ-ク-シ　（五 十 音 順）　イ—オ

オ

設 計 監 督

岡部建築事務所

建築士 岡 部 顯 則

大阪市西區靱下通一丁目
二 十 二 番 地
電 話 土佐堀五三二三番

出張所　大阪市南區心齋橋大丸建築場

イ

設 計 監 督

池田建築事務所

工學士 池 田 實

大阪市南區難波驛前鴻池ビル
電 話 戒 一 一 二 三 番

イ

設 計 監 督

池田谷建築事務所

建築士 池田谷 久 吉

大阪市西區京町堀上通一彌生ビル
電 話 土佐堀 一五八一・二九五五 三四〇八・四八六七

カ

設 計 監 督

葛野建築事務所

工學士 葛 野 壯 一 郎

大阪市北區絹笠町大江ビル
電 話 北 二 四 九 二 番

イ

設 計 監 督

伊藤幸太郎建築事務所

伊 藤 幸 太 郎

大阪市北區相生町三五
電 話 東 五 七 〇 三 番
分室—大阪市港區夕凪橋畔佐伯ビル
電 話 西 一 〇 九 〇 番

ク

設 計 監 督

國 枝 工 務 所

工學士 國 枝 博

大阪市北區玉江町二丁目四ノ一三菱ビル
電話土佐堀四三三三番
東京市京橋區銀座西五丁目日動ビル
電話銀座二九四五番

オ

設 計 監 督

小笠原建築事務所

建築士 小笠原 釰（ツルギ）

大阪市北區曾根崎中二丁目
第一曾根崎ビル第四十一號室
電話北二一五五・二一五六番

シ

設 計 監 督

清水榮二建築事務所

工學士 清 水 榮 二

神戸市灘區八幡友田三三
電話御影五六一五番

オ

設 計 監 督

置鹽建築事務所

工學士 置 鹽 章

神戸市榮町二丁目山口ビル四階
電話三宮(3)三四七〇番